

たちばなキッカーズ

創立15周年記念誌



1983.9



たちばなキッカーズ・ペナント

輝かしい優勝カップ・トロフィ・タテ



たちばなキッカーズ 監督、コーチ



田	前	吉	佐	佐	中
辺	島	村	野	藤	林
昭	宏	武	仁	章	由
治		康			行
笠		大	曾	永	末
松		島	田	田	山
文		勉	弘	欣	本
雄			治	也	村

たちばなイレブン

作詞 笠松文雄ほか
作曲 山室紘一

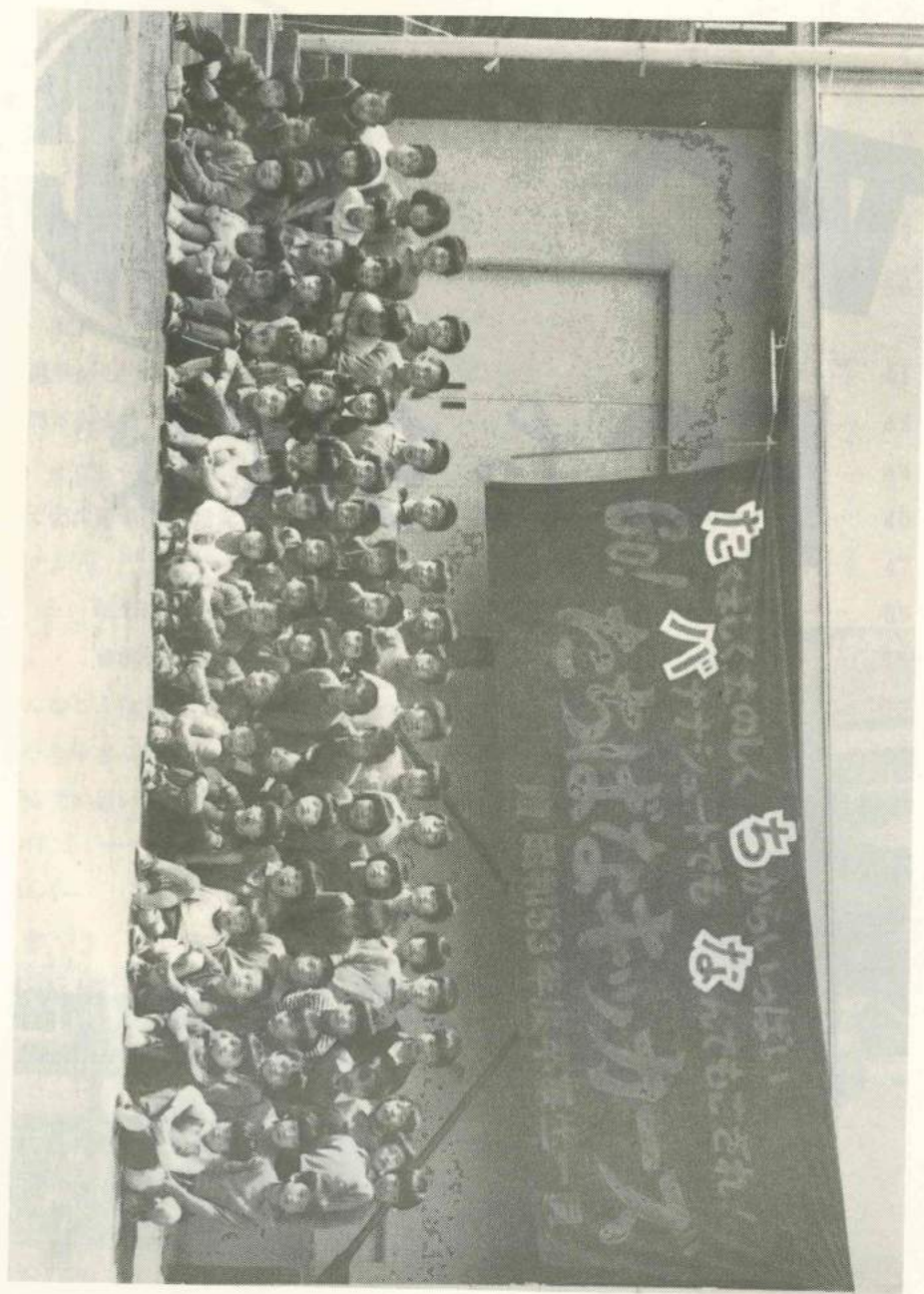


胸に輝く たちばな マーク
すべての力 出きって
ファイトだ シュートだ スピードだ
ぼくら たちばな たちばなイレブン

大空ひびく この声援に
ちから一ぱい 闘う勇氣
ファイトだ シュートだ スピードだ
ぼくら たちばな たちばなイレブン

作詞 笠松文雄ほか
作曲 山室紘一

たちばなイレブン



LL (A, B) SL 3月20日写す



L (A, B) 3月20日写す

目 次

あ い さ つ	8
祝 辞	9
他チームから見た「たちばなキッカーズ」.....	19
母親から見た「たちばな」の子ども	22
たちばなキッカーズ15年のあゆみ	23
たちばなキッカーズ 輝かしき足跡	36
思 い 出	
世界の名選手から指導を受けるたちばなキッカーズ	41
創立10周年記念号たちばなニュース	42
楽しい合宿	44
神奈川県大会決勝戦の新聞記事.....	46
監督、コーチから	47
座 談 会 ・ たちばなキッカーズを語る	55
座 談 会 ・ 曾田夫人とキッカーズ	65
はじめはみんなこんなもの	66
現役チームのお母さんから	66
キッカーズ時代の思い出	67
現役の子の作文	86
各期のメンバー	89
寄 せ 書 き	93
創立15周年行事委員会報告	99
あ と が き	100

たちばなキッカーズ マーク



たちばなキッカーズ
ホームグラウンド下田小学校
練習風景



わがふるさと、下田小グラウンド

曾田弘治

ただサッカーが好きで、子どもと大人共にサッカーを楽しんでいるうちに十五年の年月が過ぎました。この間、サッカーを通じてどれだけの子どもや大人と接したことでしょうか。一般社会の付き合いとは全く違ったコミュニケーションで、子ども達が夢中でサッカーをやる日に、我々は一週間分のチリを洗うというべきかもしれません。

腕白盛りの子ども達の集団ですから、行動も感情もストレートでケレン味がなく、いつも精気がみなぎっています。ここでは精気があふれてときには常軌を逸するぐらいがむしろ自然で正常ですから、精気のない子がいれば、火をつけて、なるべく燃焼さすようにしてきました。やんちゃでいたずら好きで、集中力がなく、すぐにボールを放り出して砂遊びに熱中していた子が、ボールに触れる回数が増え、球さばきのコツを会得すると、目が輝やかだして、卒業するころには面魂もたくましくなつて、親離れの芽が見えてきます。

こうした活力のある世界を育ててきた、そのホームグラウンドが下田小学校校庭です。私の場合は個人的な都合で、昭和四十九年以来住まいをよそに移しましたが、日曜日ごとに来るこのホームグラウンドは文字通りふるさとです。この十五年の間に、入れ替わり立ち代り、個性あふれるキッカーズが登場し、またここを根拠地として、ときには県外にまで遠征して数多くのドラマを展開させてきました。

既にサッカーから離れたOB達もここをふるさとと思っているでしょう。話は飛びますが、今年六月、将棋の世界で空前の若冠二十一才の名人が誕生しました。話題の人、谷川浩司新名人は、子供の頃から利かん気が強く、四才年長の兄とけんかばかりしていて、仲良くするためにお父

さんが盤と駒を買って与え、兄弟で百科事典の「ジョーギ」の項を見ながら研究したのが始まりだそうです。もともと、兄弟げんかの方は、将棋盤上で益々激しくなつたそうで、その点では御両親のもくろみは失敗でした。

——将棋が強くなるには秘訣がある。良い兄貴をもつことだ。

升田幸三元名人は四男である。少年期、長兄に土蔵の中で定跡を教えこまれた。覚えが悪いと、漆喰の壁をげんこつで殴られた。手が痛いので必死になって覚えた。二番目の兄は「相手が読む以上にお前が読むことだ。読むことが勝つことだ」といった。三番目の兄は「工夫しろ。編み出せ。人生は工夫した者、編み出した者が勝つ」と教えた。……中略……

米長邦雄九段も四男である。幼いころから四人の男の子が二組に分かれて将棋に熱中した。邦雄少年は、勝つては「なまいきだ」とどなられ、負けては「手を抜いたろう」と叱られた。……後略——

(朝日新聞六月十七日付夕刊より)

わがたちばなの場合も弟が兄を越している例が多いようです。一家中でサッカーの話題に花が咲き、弟が自然と兄の蓄積を吸収するのでしょ。血を分けた間柄でも競り合いに熱中出来るのは、純粋な若者の特権です。今日では四人兄弟など望むべくもありませんが「たちばな一家」の少年達はみな兄弟同然です。下田小校庭をわが庭として夢中で走り回り、大いに競り合つて、精神的にも頭腦的にもたくましくなつて欲しい。弟は兄に遠慮することはない。三年生は四年生に、五年生は六年生に追いつき追いつき越して欲しい。一方、兄の方も、どっこい弟などに負けないぞ！とファイトを燃やして欲しいと常々思っています。

与えられた好環境の中で、好きなサッカーを思う存分やったという満足感が、いつかここを去る時に、残るよう、そして、そのことが各人のこころの糧となることを、何よりも望んでいます。

たちばなキッカーズの思い出

横浜市スポーツ少年団本部長
横浜サッカー協会副会長
片岡次夫

創立十五周年を迎え心からお喜び申し上げます。

メキシコオリンピックで第三位の銅メダルに輝いたサッカー日本代表の成績に刺激され、少年サッカーチームに拍車がかかり国際港都横浜で国際チビッ子サッカー大会が昭和四十四年にスタートと同時に結成されたたちばなキッカーズは、第三回から参加以来今日迄常にベスト4の位置を守り各部門で数多くの優勝にめぐまれたチームであります。

東京オリンピックの開催時、三ッ沢球場での国際ゲーム観戦の機会にめぐまれた横浜の少年の強い希望でサッカー教室が各所で開かれ、その教室単位で発足したチームの交歓ゲームが組織として大会開催になった黒色ある国際チビッ子サッカー大会と共に歩んだと云つても過言でない。たちばなキッカーズの歩みを思い出して第一に私の目に浮んで来るのは子供のサッカーに生活の全てを託つて過言でない曾田さん夫婦の熱意と努力であります。然し十四回にわたる卒業生を含め数多くの団員の育成は曾田さん夫婦を中心とし影になり団活動事業にボランティアで協力された後援会・団員のご家族方ならびに卒業されたOBの方のチームワークの団結が今日のたちばなキッカーズを大にし安定されたものと思います。

私事でありますがサッカー歴五十五年の歩みで、幾多のサッカー人と知り会いそれぞれの方々のサッカーとのつながりを見ますとその大半の友人は自分でサッカーをたのしむ方が多いので他人のサッカーの面倒を見る人はたくさんおりません。サッカーの魅力それはスポーツが持つ人間形成の育成に大きな力をあたえる場でもある。サッカーを通して

立派な子供になってくれと願う団の育成に十五年、曾田さんご夫婦ご苦労さまでした。かと云つてその実績が公的に評価される訳でもなく唯育つて行き学生に社会人になった卒業生のそして彼等の御両親の方の心の中にお二人への思い出はその評価にまさる心のささえだと思ひます。最近少年の非行化の問題が話題にのります。その対策にスポーツの実践をといわれませんが、唯スポーツをやれば良いものではありません。

少年スポーツ育成のその目的は誰も心身の健全な発達を願っています。その手段はたくさんあります。スポーツは勝負を決める遊びですから勝つためにきびしい練習も大切ですが、勝つための練習が目的になってはならない。それは勝つ手段とし多く団員からレギュラー代表重点の訓練にハードなトレーニングのため落ちこぼれ、大切な発育発達期の少年期の心と体力に適応した方法に欠ける等の弊害があつてはならない。スポーツによる人間形成はそれぞれの年に応じた訓練が大切であります。少なくとも低・中・高学年別による指導カリキュラムでの練習方法、試合方法で低学年から高学年へのステップでみるとそれぞれの体力の育成には、平衡性・柔軟性・敏捷性・瞬発力・筋力・筋持久力・全身持久力の順序でその内容を配慮すべきであると思われる。心身的にみると低学年の時には数多い遊びの実践でスポーツのたのしさを、高学年になったら練習にその内容の解説をつけると共に応用を考えさせ、自主性の組入れ等多くしチームプレーの大切さを頭脳的に判断させるべきと思う。

以上述べたスポーツでのメリットはそのたのしさの中から、闘争心・協調性と守則心が育つていき勝つために平凡な練習の繰返しに自分を自分できたえる心が発生し、団員の中の役割で責任感等が大きくなるので社会人となる過程又社会人になり生活手段のささえとなるので団員のサッカーに対する期待感を育てるのが大切であり、「たちばなキッカーズ」のチームは必ずやそれに答えて今後益々盛んになると思います。創立十五周年お目出とう存じます。

心の暖かさがチームカラーに

神奈川県サッカー協会少年委員会副委員長

藤 木 隆 明

今にして思えば、十五年前のあの頃がなつかしい。やみくもに、子供たちとサッカーに明け暮れた一日一日だった。教えるとか、指導するとかの気持は薄かった。一緒に遊んだと言った方が適切かもしれない。同じくして十五周年を迎えるたちはなキッカーズの曾田さんや、篠原つばめの堀内さん、おそろく同じ感慨ではなからうか。十五年という歳月が、私たちを逡巡させ、子供たちと遊ぶことを遠慮がちにしました。そして、言わば羨望のまなざしで彼らを見守るだけになってしまったのである。

昭和四十四年は、メキシコオリンピックのサッカーで、日本代表が銅メダルを獲得した翌年である。三十九年の東京オリンピックに産声をあげたスポーツ少年団が、サッカー普及の波に乗って、横浜で花を開き、片岡さんの尽力で第一回横浜国際ビッ子サッカー大会が開催された年である。当時の日本の子供たちのサッカーは、片岡さんや西海さんの中区サッカー、長瀬さんの東戸塚。何れも東京オリンピックを契機に生まれた「サッカー友の会」の流れである。まだヨチヨチ歩きだった山王谷の参加は第二回大会からだ。たちはなやつばめが、第一回から参加していたかどうか記憶がない。その他に、原小学校的のアポロ（伊藤先生）、根岸小学校のくすの木（木下先生）があり、強かった。しかし、どのチームにしても、セントジョセフ（松本先生）や朝鮮学園に歯がたたなかったようだ。

それがどうだろう。現在、横浜の少年サッカーは、外国の少年たちの力量を完全に凌駕している。かつて五指に満たなかったチーム数も、今

年は六十六チームとなり、大会の運営すら瀬戸際のありさまである。十五年前のたちはな、つばめ、山王谷がそうであったように、今年も新しいチームが誕生する。そして「出る」と負けの「の」の苦い経験を味わいながら成長してゆく。年々歳々の積み重ねが、少年たちのサッカーに厚みをつけ、伝統となってチームの特色を増す。それには、たちはなに於ける曾田さん、永田さん、大島さん、佐野さんのように、十五周年に及ぶ絶え間ない熱意と愛情がなければ出来ないことだと思ふ。

たちはなというチームの特色は、何よりもそうした指導者の心の暖かさに由来する。いつの時代でも子供たちがのびのびとプレーをし、自由なサッカーを楽しんでいる。試合になると、一見ひ弱いようにいて点を取るのがうまい。遊びの中から修得したテクニクである。少年時代には、これにまさる指導法はない。だから、彼らが中学、高校と進むにつれて光ってくるわけだ。もう社会人となった笠松君、五十年に一緒に韓国に行った吉原君、池沢君たち、中学時代自力でがんばった鈴木君、瓜田君、トレセンに入った本間君、五十四年夏の大会で藤沢の浜見と延長戦の激闘を演じ、惜しくもPK負けとなり、「たちはなを全国大会に行かせたかった」とセルジオ越後を嘆かせた大場君、増山君、末山君、瓜田君、村上兄弟等々。私の脳裏に、ユニークなプレーを見せる選手諸君の顔が浮んでくる。彼らが今でも活躍していることは勿論である。

現在のように少年サッカーが盛んになると、唯単に強いということが金科玉条になってくる。しかし、小学生時代にいくら強くても、彼らが将来伸びなければ、それは指導者の自己満足に過ぎず、日本のサッカーの進歩につながらない。現在の「教え過ぎ」の時代に、世の少年サッカーの指導者は、たちはなのやり方を見習う必要があるだろう。

遠く八王子に居を構えた曾田さんが、それでも日曜毎にグラウンドに通っているように、子供たちとの縁はなかなか断ち切れない。たちはな共々、これから先も子供たちと共にありたい。

アットホーム「たちはな」

横浜市スポーツ少年団指導者協議会会長
横浜サッカー協会少年担当理事

堀 内 正 明

名門たちはなキッカーズ殿 創立15周年を迎え、心よりお慶び申し上げます。奇しくも時同じく篠原つばめも及ばずながら15周年を迎えますが、貴チームのたくましく力強く成長してきた姿とは対比的にひ弱なモヤシッ子に只いたずらに年を重ねてきた感をいなめません。

サッカー実績チームの風格等々貴チームの卓越した実力は、横浜はもとより、神奈川県下にあつて今やトップレベルに位置し、少年サッカー界のリーダーとして今後益々活躍、ご発展をこの機会に改めて強く期待申しあげます。

ひと口に15年といいますが、その道中には幾多の山あり、谷あり、坂があつたことでしょう。人間の生いたちでいえば乳児期、幼児期を経て小学校、中学校を卒業する過程で、まだまだ一人前とはいえない時代です。いわゆる義務教育の間で父親、母親の力に負うところは、はかりしれません。チームに話しを戻せば、指導者の並々ならぬ苦労と、暖かい思いやりが不可決と思ひます。多くのチームを見聞していますが、「オジサン」として親しまれ、子ども達に呼ばれている曾田さんには、少年サッカー指導者としての鏡とすらおぼえてならず、従来より深く感銘し陰ながら尊敬しております。また曾田さんを支え、たちはなキッカーズのブレインとして長きにわたり、活躍しておられる永田さん、佐野さん大島さん、末山さん等々の指導者の力も高く認めるところであります。これからの一致団結した、アットホーム「たちはな」であつて欲しい。洗練されたマナーの中に、子どもらしさをブンブンさせる「たちはなっ子」の秘訣は、前述の指導者各位が厳しさの中にあつても、自由にのび

のびと、成長過程に合致した指導をしていることと確信しております。自由に成長させていく姿は、裏返せば貴チームの成長そのものとして、ここに無事15周年を迎えたともいえます。

また、申し遅れましたが、陰の功労者として「たちはな家」の偉大な母親である曾田夫人の献身的なご活動、ご努力に改めて敬意を表したいものです。「つばめ」と「たちはな」は同じ港北区にあつて、ともにライバルとして歩み初めましたが、その後、横浜選抜チームの指導を通じて、貴チームからきたすぐれた子供達と接する機会に恵まれ、良き思い出とさせていただいております。

リュウショウウメンと呼ばれていた笠松君、三ツ沢サッカー場から救急車で脱出した本間君、君も思い出すでしょう。大黒柱自らPKを外した大場君とチームメートの「タカ坊」こと増山君等々数えあげればきりありません。みんな元気でやっていますか。何時までも「たちはな家」で育ち成長したことを忘れないで下さい。

どういうわけか、協会の仕事にとりつかれたまま今日に至りましたが、当初、十チーム余りでやっていた、横浜国際ビッ子サッカー大会（秋）も今年は第十五回大会を迎えます。また、後発の横浜スポーツ少年団サッカー大会（春）も第十回を迎え、参加数は今や六十四団（SLの部三十九チーム、LLの部六十一チーム、Lの部六十三チーム）に膨らみ、うれしい悲鳴をあげている始末で、有力チームの特別のご協力を依頼しております。貴チームをはじめとした昔からのつながりを大きな幹として、及ばずながら横浜少年サッカー界の益々の発展に努力することを念じつつ、拙い内容ではありましたがお祝いの言葉に代えさせていただきます。

改めて「たちはなキッカーズ」15周年万才ノ

（筆者は篠原つばめサッカースポーツ少年団の代表でもあります）

団地少年サッカーと「日吉」団地チーム

元常盤平・現清水RFC

沢田紀之

創立15周年おめでとうございます。＼＼ たちばなキッカーズ という名前は、神奈川県下では強豪チームとして鳴り響いていますが、私にとつては、団地少年サッカー大会で何回も優勝した「日吉」団地チームのことならよくわかるのですが、＼＼ たちばな のこととなると――

団地少年サッカー大会も早いもので、今年が記念すべき第10回大会となります。10年前、私は団地新聞の「ザ・キイ」の記者をしていました（現在は名前も変りましたが「ザ・キイ」の編集部にいます）。そのキイで何か子供たちのスポーツ大会を開いてみようと考えたのですが、まさきに浮んだのがサッカー大会でした。というのは、私が常盤平団地（千葉県松戸市）でコーチをしており、「日吉」チームの曾田監督とは仕事の上でもおつきあいがあつたことから「サッカー仲間に協力してもらえばなんとかなる」と、浜見平団地の黒沢さんなどの協力を得て強引に第1回大会を開催しました。

現在の大会と違って当時は地区別に予選を開いており、東京・神奈川地区予選は「日吉」の本拠地・日吉台中学校で開きました。私は残念ながら大会直前にアキレス腱を切つたため予選は見にゆけませんでした。が、会社の同僚から「日吉は強いよ」と言われたものの、当時は袖ヶ浦団地（現習志野MSS）が全国大会へ出場するなど圧倒的に強く、わが常盤平もまずまずの力を持っていたので「強いといっても何ほどのことが」。優勝は千葉のチームで、なんて気持ちで、丸紅ランドで開かれた決勝大会へ臨みました。結果はA・B両クラスとも「日吉」が優勝しました。以後の団地少年サッカー大会での「日吉」チームの活躍ぶり

は、私が説明することはないでしょう。昨年までの9回の大会のうち半分近くを優勝しているではありませんか。わが常盤平もある程度の力を持った年もあり「今年こそは」と挑戦したのですが、そのたびに「日吉」にストップさせられました。

「団地の大会で何とか優勝したい」という夢をはたせぬまま、私は4年前に常盤平団地を退去、同じ千葉県ですが「印旛郡白井町」という田舎へ引越しました。ここは、公団が造成している千葉ニュータウンの中にある清水口という団地です。ここで12年間指導してきた常盤平を離れて「清水口フットボールクラブ」を3年前に結成しました。全国一の「清水」より「口」の多いクラブ——と強そうでしょう。結成したばかりの3年前第7回の団地大会に参加しました。結果は語るもはずかしい全試合10点以上の差をつけられる惨敗、一昨年は5点差ぐらいそして3年目の昨年はもうちょっとで予選突破——というぐらい力をつけてきました。今年は何とか決勝トーナメントへ進出、そして常盤平時代にはたせなかった「日吉」を破つての優勝という夢を、何とか早く実現したいものです。

「サッカーの子とうちの子とどっちが大事」と皮肉を言っていた妻も、最近は何も言わなくなりました。うちの坊主がわがSFCへ入団したので、今度は応援に来てくれることでしょう。3年前「切腹」し、サッカーがでなくなるとは……と心配したのですが、奇跡的？な回復力をみせて今はピンピン、息子のためにも、自分の身体のためにもサッカーをやめるわけにはゆかないようです。

たちばなキッカーズのイレブンたち！清水RFCが強くなるまで、強い「日吉」でいてください。

祝十五周年 キッカーズを讃えて

下田小学校長 高橋敬江

たちばなキッカーズが十五周年記念を迎えられるとの事。おめでとうございます。一つの事が長く続くという意味は、それなりに深い理由があると思います。スポーツの伝統にしても、文化の伝統にしても人間の心に根ざしたものであれば、発展し長続きし、多くの人々に受け継がれていくものと思います。

本校の校庭で毎日のように児童がサッカーの練習をしています。小さい子は小さいなりに、大きい子は大きいなりにボールを蹴り、ボールと一体になり、もつれたり、離れたたりして余念なく楽しそうです。その姿や技は一朝一夕に出来るものではありません。

下田小一年に入学してきますと、上級生たちの毎日のサッカー練習の様子を絶えず見えていますし、興味をそられる子もいます。大きくなったら僕もサッカー部に入ろう!!と心にきめフラインプレーに、胸をときめかしています。その子たちには上級生のサッカー熱中の男性美が眼に焼きついていて、けり方、受け方が知らずのうちに身につくのだと思います。これが伝統だと思います。この伝統を育て、発展させて来た人々。立派だと思えます。天下の下田です。

「遊んでばかりいないで、勉強したら」というお母さん達のことばをよく耳にします。大事な事は、スポーツも、教科も、学習という点には変わりがないのです。人間をつくりあげるといふ点に於いてです。

スポーツも、教科も、面白くてしかたがないという境地が大切で、すべて頂上は果てしなく高く、興味が尽きず、次の段階が見えてくるのです。

面白さの中にはルールがあります。ルールという枠があるから面白い

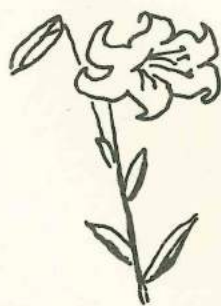
のです。ルールを知って、その中で戦う。競うから面白い、相手があるから面白いのです。強い相手が現われると挑戦し、より強くなるうとして猛烈な努力をする。こうして、相手によってみがかれます。

特に少年時代、すべて柔軟で、やり方によっては、どのようにもなれる時に鍛えられる事は幸せです。今も運動場でサッカー練習に余念のない児童たちを見ていてそう思います。楽しそうに鍛練されて、結構な運動量だと思えますが、悲壮な顔をしていない。汗と泥まみれだが、白い歯が見える。この練習法は、最初の指導者、曾田監督さんのお人柄そのままだと思います。

苛酷なシゴキや強制でなく、自ら仲間と共に技を習得し、自分の個性がうまく活かされ、特技が育っていく、下田のたちばなキッカーズの伝統がそこに息づいています。十五年、絶えず、続けられ、今日を迎えた事には、本当に頭のさがる思いです。曾田監督さんをはじめ、両親と先輩の諸兄と後に続く後輩とで、伝統が輝いています。

どうか、幼少の時代にしっかりと基本を身につけ、スポーツの中に立派な人柄が育っていきますように、願いますし、健全な心身をつくっていく責任を一人一人が知って欲しいと思います。

最後にスポーツも、人だという事を忘れずに!!
たちばなキッカーズのよりよい発展と栄えある伝統を讃えて
十五周年のお祝いのことばと致します。



好ましい人間関係を

下田小学校副校長

原 孝 郎

皆様のたゆまないご努力で、益々ご発展していく様子を見て、ご同慶にたえません。

サッカーは、大変すばらしい球技で、技量を伸ばそうとする練習では全般的な成長発達を促進させることが出来、ゲームとしてはチームワークが必要で良い人間関係を作らなければならないからです。したがって強いチームに育てるためには、ひとりの優秀な選手をつくるのではなくチーム全体を育てるためにゲームに必要な好ましい人間関係が大切です。近時、社会状況の変化で、子どもたちの校外での行動が大きく変わってきたようです。昔のように遊ぶ広場がないために運動をしない子が多くなり、道路は車が多く危険なため歩くよりバスという具合で、身体も心もたくましい子どもを育成することがむずかしくなっています。

このような状況の中で曾田さんを中心にして、コーチの方々、父母の皆さんが大変お忙しいところを組織的に運営なさっていらっしゃることに頭のさがる思いがいたします。

わたしは、外野の風景としてながめているだけです、子どもたちが汗を流し、喜々としてゲームに打ちこんでいる姿を見て、体力の向上はもちろん、好ましい仲間づくり、そして強固な意志力の持主へと成長を期待しながら……ながめています。

これに対して、学校としましては、全面的に協力をしなければならぬと承知しているものの、運動場利用が多岐になったり、種々な学校事情も重なり、思うように会場を提供できなくて、ただただ申しわけなく思っています。

私のサッカー

元たちはな技術顧問・元下田小体育主任

中 山 昌 平

私が下田小学校に赴任したのが昭和四十年四月だった。前年、東京オリンピックが開催され、サッカー熱もやま高まりかけてきた頃ではあったが、現在から見れば隔世の感があった。何しろ下田小のグラウンドに、サッカーゴールがなく、現在シュート板のある所に木製の肋木があったので、それにチョークでゴールの形を書き、反対側には、陸上競技で使用する走り高とび用のスタンドを置き、それに竹製のバーを渡し、それをサッカーゴールとみだてて練習していた。勿論、サッカーボールなど無く普通のゴム製のドッチボールを使用していた。

当時、横浜市立小学校体育研究会でも、サッカーを体力づくりの一環として取り上げ、児童達にも正しいサッカーの指導をしようとしていた頃でもあり、港北区小学校体育研究会でも、サッカー大会をする企画をし、実施することにした。

しかし、グラウンドもせまく、前述のようにサッカーゴールすら満足にない学校も多く、ましてや、サッカーのルールすら知らない先生方が大部分を占めていたので、先づ、先生方の研修会から始めていかなければならなかった。それでも、何とか第一回目の小学校サッカー大会を開催する事ができたが、運営面でかなり無理があった事はいまでもないことであった。

この様な、サッカーの創世期ともいべき時期を過ぎ、現在の隆盛期を迎えているわけであるが、この間にタチバナキッカーズの果たした役割は筆舌に尽くしがたいものがあると思う。

たまたま当時の校長であった柏木先生から曾田さんを紹介され、キッ

おめでとう「たちはなキッカーズ」

43年たちはな創立時下田小学校々長

柏 木 加 太 郎

「たちはなキッカーズ・創立十五周年記念」おめでとうございます。口では簡単に十五年と言えますが、この長い時間のなかには、いろいろなドラマがあったことと思います。

思えば十五年前「たちはなキッカーズ」の誕生のきっかけにささかなりとも関係した一人として、心よりお祝いする気持ちと、何かしらないが、誇らしい気持ちが湧き出るような気がいたします。

創立者曾田弘治さんに心から敬意を表わしたいと思います。

私が下田小学校に赴任して間もなくだったと思います。その日は何月何日か記憶になくなってしまいました。学校の玄関で曾田さんに始めてお目にかかり、応接室に御案内しお話し合いをしたことは印象深く記憶に残っています。曾田さんのお願いは、子どもたちにサッカーを教えたい、それにつき学校の運動場をお貸し願いたい。とのことでした。私は快諾いたしました。学校の指導外の時間に、進んで指導して下さる熱意のある方に面倒を見ていただくことは、子どもたちにとってどれ程か幸せなことであると、もろ手をあげて賛成いたしました。

私自身も小学校五年生の時から成人になるまで陸上競技を十年間も続けておりましたので、子どもにスポーツをさせることは人間形成の上に大切なことであることを強く感じています。曾田さんも同じようなお考えがあったのだと思います。サッカーを通し立派な人間を育てることを考えておったのだと思います。それだからこそ十五年もの長い年月たちはなキッカーズは続いてこられたのだと確信します。

これからのたちはなキッカーズが二十周年いや三十周年を迎えられるようにみなさんで努力してほしいと願うひとりでです。

カーズの事を聞き、非常にすばらしい事だと思ひ協力したいと願ひ出た。スポーツは学校体育のみではどうしても上手にならない、やはり社会体育と共に進めていく事がよいとかねがね思っていたので絶好の機会でもあった。

そこで、サッカーに対する取り組み方も段々世間的になってきたのは事実である、もともと私のサッカーの戦法はバスケットボールのようにコートを十分に使い、全員攻撃、全員守備という作戦が理想であった。又、ボールコントロールのような個人技中心から、集団技能への高まり、それが勝利にむすびつける唯一の手段であると思っていたからである。

現在でもこの考え方には変わりなく、先ず個人技を徹底的に指導をし、それをもとに組織だったプレーができる様な方法をとっている。しかしこれには、やはり長い年月と厳しい練習が必要になってくるのはいうまでもない事である。

今後、第二、第三のタチバナキッカーズができる事を望みつつ、この稿を終わらせていただく事にする。



創立十五周年を祝して

港北区体育指導委員協議会副会長
曾根 利雄

創立十五周年本当におめでとうございます。ここまで引ばってこられた曾田監督、役員さん、御父兄の御努力に心から敬意を表します。思い起せば昭和四十六年、夏ばかりでなく冬休みにも子供達にスポーツを考えた結果、男子にサッカーを取り上げたところ、区内には「ちばなキッカーズ」以外「篠原つばめ」と、小学校のチームが少々、区大会としては誠に心細い感じでした。然し曾田さんの全面的御協力を得、まずは開催にふみきったのでした。以後グラウンドの関係とかで色々問題はありましたが、五十七年には参加チームが多すぎ大会運営上、各クラブ三チーム以内に、と協力を求める程、十二年前には考えも及ばない状態になりました。この様に区大会が発展したのも、曾田さん及びちばなキッカーズの力が大と心から感謝する次第です。

市、県大会、又関東大会と数々の試合で立派な成績をあげられた貴クラブも十五年の間には色々と難問題があったと思います。それを見事にのり越えられた皆様方にこれからも港北の模範的なチームとして、二十年三十年と、末永く栄えられる様心からお祈り致します。

青少年の健全育成、よく言われる言葉ですが、私達にはスポーツを通じて子供達とのふれあいを深める事が出来るのが幸せだと思えます。

港北区少年サッカーの発展の為サッカー協会設立、小学校のスポーツとの関係、グラウンドの問題等、まだまだ軌道に乗るまでには時間がかかりそうですが、一日も早く関係各位との話し合いの上、子供達に喜ばれる様な協会を設立したいと思っております。その為にもちばなキッカーズの前にも増しての御協力をお願いする次第です。

これからも増々の御発展を祈念し、お祝いとお願いの言葉と致します。

パーも両校にまたがるようになりました。イレブンはほとんど下田小でしたが、ところが翌年、駒林小からキッカーズへの入団が皆無になり、私も自然にキッカーズから足が遠のいたということです。キッカーズのために、ほとんど役立っことも出来ずに去ってしまったことは本当に申し訳ないことだと思います。

私のキッカーズとのおつきあいはわずか四年間でしたが、この四年間が以後の私の少年サッカー指導者としての方向を定めたといっても過言ではありません。私が駒林SCを発足させたとき、その練習の基本、戦術が、キッカーズのそれをベースにしたことは当然のことでした。

のびのびと、自分たちの考えでプレーする。常に試合を想定したチームプレー、コンビネーションを大切に。そのためには、個々の技能をかぎりなく伸ばしていく。ボールを、個人でも集団でも自由に扱い、ボールから自由になりえていたのが、ちばなキッカーズです。そして私もまたそのようなチームをつくりあげたいと思っていますが。

ところで、最近、ちばなのゲームをいくつか見る機会を得ましたので、感じたことを申し上げます。(独断で申し訳ありませんが)

確かに強い。けれども以前のちばなとはちがうんです。プレー中の子たちにハッラツさというか、フテプレしさというか、ゲームをプレー(楽しむ)する姿が感じられないんです。何だか小さく見えるんです。ちばなには、ちばなのプレーがあると思います。それを決して忘れてはならないと思います。

十五年といえ、ちばなを築立った子たちが、大学を終え、社会人として活躍している者も大勢いるはず。中には社会人のサッカーでがんばっている者もいると聞きました。そしてキッカーズに帰って指導者となる者もどんどん出てくると思います。曾田監督を中心に、以前のよう

に、いや、それ以上に強いちばなを作ってほしいと思います。私は、駒林SCの一コーチとして、ちばなの姿を見ながら、それに負けない

キッカーズとの出会い

元下田小学校教諭・元ちばなキッカーズコーチ

池畑 健一郎

栄光あるちばなキッカーズの十五周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。

私は、昭和四十二年に、はるか九州の南端よりミナトヨコハマに参ったわけですが、その勤務先が下田小学校。モダンな円型校舎に目を見はり、敏い、賢い都会の子たちに交じって、九州弁丸出しの、今思えば丸で滅茶苦茶な教師ではありましたが。赴任三年目に五年生を担当。当時体育主任の中山昌平先生より、「五年になったらサッカーがあるぞ。区のサッカー大会があるぞ」と言われ「サッカーってなんだろう」が先ず実感。

それでも五年生集めて、早朝に、放課後に練習を続けておりました。サッカーに無知のコーチではどうしようもない、と、中山先生に指導を仰ぐ一方、港北の教員サッカークラブで体を動かし、サッカーに関する本を読み漁り、そこからサッカーへの道が。

当時、団地内にサッカークラブがあることは聞いておりましたが、偶々、曾田監督とお話をする機会を得まして、私も一コーチとしてキッカーズと関わりをもつに至ったわけです。コーチとは言っても、なにも知らない訳ですから、専ら子たちの動きを見ていただけといった状況です。逆に子たちの方が、よくサッカーを知っており、自分たちでプログラムを組んで練習している風情でした。これは、今でも大切なことだと思っています。

対外試合でも、曾田監督の御都合で、幾度か引率していったのですが、試合前の調整も、メンバーの構成も、ゲーム中の組み立ても、子ども自身でやっていたように思います。

四十八年に、駒林小学校が下田小学校より独立し、キッカーズのメン

ように、がんばっていききたいと思います。できれば、市や県の大会で、常に、互いに決勝で顔が合えるようにがんばりたい。

ちばなキッカーズに、栄光あれ。

十五周年に寄せて

元ちばなキッカーズコーチ

杉崎 実

ちばなキッカーズの皆様15周年記念おめでとうございます。

そして誕生以来一筋に情熱を傾けてこられた曾田監督本当にごくろうさまでした。私がTKCのコーチを引受けた頃はまだ創生紀でありどこまで技がのびるのか大変魅力のあるチームでした。お陰様で私のサッカー歴の中でも一番楽しい時期を過ごす事が出来栄光に思っております。

その頃活やくし想い出に残っている選手が何人かおります。

旭高で活躍した笠松君、サッカーの王様ベレの前でボールリフティングを行いほめられた吉原君、私と同じ49号棟に住んでいた鈴木君も大きなサッカーが出来た選手であった。大きなサッカーといえば本間君も素晴らしい素質の持主であったが、サッカーを始めた頃はゴールキックが飛ばず大変苦しんでいたのを思いだす。笠松君もそうであったが兄弟そろってサッカーに打ち込んでいる選手が多く、大森兄弟、大場兄弟、今あざみ野に住んでおられる村上兄弟これらの方は子供達以上に親が大のサッカーファンであり、絶大な協力者であった。そのような土台があったからこそ横浜に「ちばな」ありと名をとどろかせる事ができたのではないかと思います。太ちよキーパーの佐野君とのおとうさん、固くあった身体で一生懸命ボールを追いかけている姿が今だにまぶたに焼きついています。早つちよ早川君はどうしているかな、池沢、中村、安沢君達も流れるようなきれいなプレーを身につけていたが今頃どうしているか

な、私がそうであるように一度サッカーの魅力にとりつかれたら一生忘れる事のないスポーツ、これが世界のスポーツ、サッカーだ。TKCの選手諸君思いきりのいいプレーをしよう。そしていっぱい汗をかいた後は一生懸命勉強をしよう。君達の先輩もみんな頑張っているぞ。東京杉並の地よりイレブンの活躍を期待しております。 サヨナラ

西中サッカー部とたちばなキッカーズ

日吉台西中学校サッカー部顧問
川 西 治 男

三年前にこの西中に初めて中学校の教師としてやってきた私は、サッカー部の顧問になることになった。学生時代には陸上部に所属していた私は、西中サッカー部の生徒たちにはずいぶん驚かされた。まずサッカーをよく知っていることである。サッカーのルールから試合の組み立て、試合の時の礼儀に至るまで、サッカーに関しては何かから何まで教えてもらえばかりであった。また、練習では三年生を中心に自分たちで計画し、自分たちで運営するのだった。何も知らない私は、ただいっしょにいるだけで練習がすすめられていった。休日の練習試合の相手も、生徒達の希望するチームと連絡して行うようにしていった。

その年には本間君を中心に秋の市長杯優勝、次の年には大場君、増山君を中心に春の県大会同点優勝と輝かしい成績を収めることができています。これらの好成績は日曜・祭日・雨の日関係なく、みんなが熱心に練習している結果だと思っています。たちばなキッカーズで鍛えられた生徒たちが西中へ来て、他のチームから来た生徒たちと共に新しいチームをつくり、共に身体を鍛えて強いチームを作っていくのを見守ることはとてもやりがいのあることです。これからのたちばなキッカーズのさらなる活躍を期待し、また我西中サッカー部も今まで以上に活躍していきたいと思っております。

団旗を作り、応援のバトンタッチを

第五期生 母親
間 瀬 紀 子

ただいまノと全身土埃と、空腹で帰宅します日曜日ごとの朝。この頃から、子供の中での変化でしょうか、静的から動的なものに移り始め、学校行事への参加が活発になりました。

リーグ戦が始まると、地図を掲げ、試合会場を探して、主人と応援に行き、大声で子供達を励ましたものでした。

決勝の日だったでしょうか、駅前の店で、オレンジ色のペンベルグを求め、「たちばなキッカーズ」と大書し、現在の西中当りで竹をとり、大きな旗を作って応援に出かけた日を懐しく思い出します。

それを機に曾田様と主人でマークを創案し、団旗を作りました。そろそろそろ若いお母さん達の応援姿も見受けられ、応援のバトンタッチをしました。

シュラッテル病で足が痛み、ボールを蹴る事が出来なくなった時には、悲しんで居ましたが、「試合には応援も必要よ」と励めました所、メガホンと笛を求め、自分を励めて居ました。

御指導下さった曾田様御夫婦には、お二人のお子さんが居られると伺いましたから、当然御一諸にボールを蹴って居られるかと思いましたが、お嬢さんとの事、終始親身になって近隣のワンパク達の面倒を見て下さったのも本当にスポーツを愛されて居られる曾田様だから可能だったのでしょう。

二十二才になった息子を見るにつけ、感謝の気持ちのみです。

十五年を迎えた、たちばなキッカーズ、明日に向けて又二十年に向けて蹴り、走り続ける少年たちの御活躍を祈って居ります。

他チームから見た「たちばなキッカーズ」

たちばなキッカーズとながりが深く親善試合など行って親交のあるチーム、また古参チームで創立時から技を競い合ったチームに、アンケートによる原稿をお願いしました。

◇質問内容◇

- ① 現在の選手(会員)数を学年別に
- ② 理想のチーム(スポ少)について及び貴チームのねらい課題等について
- ③ 現在困っている事柄があれば具体的に
- ④ 「たちばな」についての感想を卒直に

山王谷サッカークラブ

高 田 勇

① 現在の会員数

幼稚園(年長)	一七名	一年	二七名
二年	三〇名	三年	二七名
四年	二〇名	五年	二五名
六年	一三名	中一	四名

計 一六三名

② わがチームのねらいは、指導者、父母、選手ともども楽しく、元気

④ 「たちばな」チームが昔からわれわれに与えてきた印象は、創造力

に富んだ野武士集団という感じのたくましさだった。子供のなから自主的にリーダーが出現して、チーム活動を活発に行きという私たちの理想がそこにあるように思われた。しかし、最近、やや優等生的になりすぎている感じがなきにしもあらず。あえて言わせてもらえば。

山王谷サッカーが常にお手本にできるチームとして、ますます発展されることを心から祈ります。

① 四月一日現在、六年生一七名、五年生一七名、四年生二七名、三年生三一名、二年生二四名、一年生四九名の計一六五名の部員を七名のコーチ（大学生）で指導しています。

② 理想のクラブを一口で表現することは、大変難しい。難かしながら夢を語ってみると、まずクラブの活動期間である小学校時代に、「本当のサッカーの楽しさ」を体得させること、そしてサッカーを愛する多くの青年を育てる中から、一人でも日本を代表する選手が生まれればすばらしいことだと思えます。勿論、いつの日か六年生チームが、県代表として、全国大会に出場できたらいいなあと夢見ています。

③ 現在、東の練習は、三菱鉛筆の好意で鴨居グラウンドを創部以来使わせてもらっています。練習方法は、三クラス毎に週一回、火・水・木曜日の三時から夕方まで練習しています。その他に、月一〜二回土曜日に鴨居小の校庭などを借りて、合同練習をしています。

その意味で、クラブの最大の難題は、自由に使えるグラウンドが欲しいということになります。

④ 最後にりましたが、たちばなキッカーズ創立15周年おめでとうございませう。十五年の年月という大変長い期間であり、関係者のご苦労がしのべれます。

貴クラブは、創立以来横浜市内の少年サッカーの先達として、いや県内でも最も早くから、ほまれ高い目覚ましい活動を展開され、数々の優秀な記録を残されながら、名門チームとして不動の地位を築かれて今日に至っております。

たちばなキッカーズの選手の特徴は、型にはまった紋切調の試合運び

しまいます。それでも勝てばいいんだと言う人がいるかも知れませんが、然しその試合には勝っても将来ある子供達を思えば、今なにを教えるべきか、なにを指導しなければならないかは、自明だと思います。駒林がいつもいいところまでは行かぬが、トップに立てない、立てなかった原因は無やみに勝つサッカーを教えていないからです。でもこの子供たちは伸びていくはずで。

十一人でチームを作るサッカー、でも十一人だけが仲間ではありません。駒林では協力し合う仲間作りにも力を入れております。平等な練習の中から、お互いの競争でイレブンが出来ます。イレブンが仲間、助け合う仲間である以上に応援する子も素晴らしい仲間です。試合に勝ったり負けたり、共に喜び口惜しがる仲間です。サッカー以前の仲間作りを駒林では大事にしております。このことはクラブの目的にある次の言葉に集約されています。「サッカーの基礎技能を身につけることによって、体力を高め、あわせて組織的活動を通して、協力、責任、公正、自主などの社会性を育てることをねらいとする。」この子供達をとりまく大人達はクラブとしての活動する場の確保、環境作りに専念してもらっております。このことはクラブが一体となる基だと思えます。

さて駒林が地域に根ざしたクラブチーム（近隣八校からの子供達）をめざして、兄貴分たちばなから、いろいろ教わりながら今日を迎えていることに感謝し、また、たちばなのますますのご発展を心より祈念しながらベンをおきます。



あざみ野FC

村 上 源 也

「たちばなキッカーズ」の創立十五周年を心から御祝い申し上げます。

をするのではなく、自由に伸びのびと一人ひとりが動くところにあります。子供にとって一番大切な「自由にやらせる」というサッカーができる貴クラブの活動は、市内各チームにとって最大の目標でありましょう。我がクラブにとりましても創部以来今日まで、貴チームを最大の目標として活動が続けています。

今後共、たちばなキッカーズが、我々のよき先輩チームとして、更に飛躍し発展されることを心よりお祈り申し上げます。

駒林サッカークラブ

香 川 光 夫

団員数 一年二十八名、二年三十四名、三年二十六名

四年三十四名、五年二十一名、六年十二名、合計一五五名

たちばなキッカーズ 創立十五周年、おめでとうございます。駒林も今年で九年目を迎え、なんとか各大会に於いて、上位に顔を出せるようになりましたが、これも兄貴分たちばなに追いつけ追い越せで励んで来た結果だと思えます。

たちばながそうであったように駒林のサッカーは、「ボールが持てる子」の育成に力を入れております。ボールの持てる子はそこそこいるでしょうが、自信を持ってボールが持てる子はそうざらにはおりません。ボールを自由にドリブル、周りの状況の中からパスやシュートの判断力を養えるよう指導しております。どちらかと言うとねちっこいサッカー、これが駒林の身上です。サッカーは十一人が仲間チームを作り、二十二人が一つのボールを奪り合って相手ゴールへ得点し合うゲームです。その時、十一人の一人一人が自信を持ってドリブルし、ボールをキープしながら相手に勝って行かなければ、単なるピンポンサッカーになって

二人の息子が御世話になった数年前を懐しく思い出しながら、アンケートにお答えする形で、思いつくままを書いてみたいと思います。

① 現在の会員数について

私どもの「あざみ野FC」も、昨年の十二月に満二才の誕生日を祝いました。曾田弘治監督をはじめ、諸先輩方のあたたかい御支援を得て順調に成長してきたと云えましょう。スタート当時は十名に満たなかった会員も、現在は一八九名（一年生三七名、二年生三八名、三年生五〇名、四年生三二名、五年生一八名、六年生一四名）に増え、毎週日曜日に三つのグラウンドを使って練習や交流試合に励んでいます。

② 理想のチームについて

「理想を云々するには早過ぎる」と思うのですが、常に話し合っているのは「子供の個性を生かしたサッカーをしよう」ということです。従って練習に際しても「技術」や「戦術」を大人流に教え込むという方法はさけてきました。①先輩達のすばらしいプレーを子供達自身が眼で確かめ、②自分達のゲームを楽しみながらそれらの技術や戦術を身体でおぼえることを大切にしたいと思っています。子供達の強い好奇心と、豊かな発想で文字通り「子供らしい、個性のあふれたサッカー」を楽しんでほしいと願っています。

③ 現在困っている事

あざみ野の街は、ご承知の通りごく最近開けた住宅地です。人口の増加も急激です。「あざみ野FC」への入会希望者も後を絶ちません。

現在、十二名の指導者と御父兄方の協力でクラブを運営していますが、これ以上会員数を増やすことも出来ず、入会を待ってもらう状態が続いています。（皆んなでサッカーが楽しめる）より充実したクラブ運営が望まれる今日です。

④ 「たちばなキッカーズ」へ

昔は少年が十五才頃になるとそれまでの髪型をおとなの型に変えて、

名実ともに大人の仲間入りをする「元服」と云う儀式がありました。創立十五周年を迎えた「たちばなキッカーズ」が少年サッカー界の「おとな」として、クラブの内容をより充実されるのと同時に後につづく私ども後輩達の良きアドバイザーとしても年輪を広げていただきたいと願っております。

「たちばなキッカーズ」の益々の御発展を御祈り致します。

母親から見た「たちばな」の子供たち

伊藤 美紀

「毎週土、日、来てるの？大変なのねえ。」とお番のお母様方にグラウンドでよく言われます。会計を預かっていますし、息子が二人お世話になっているのですから、私の場合は当然だと思えます。でも、八王子からいらして下さる監督さん、お忙しい中を面倒見て下さるコーチの方々には本当に頭が下がります。15年の間には、とても強かった時代、それ程でもなかった時代などいろいろあったと思いますが、やはり伝統の力でしょいか。いざという時に不思議に勝てたりするのです。毎年上手な選手がそろふという事はないと思うのですが、監督さんやコーチの方々のびのびとプレーするという御指導の方法から、ちこまらず思いついてできる選手達が育っていくのではないかと思います。そのかわり、あまりお行儀もよくありませんし、負けて悔しくて泣くという様な根性の持ち主もめったにいない様です。この原稿を書いている最中にも、第10回横浜市内少年サッカー大会決勝トーナメントの試合があり、応援に行ったのですが、なかなか勝てない本郷に2-10で負け、三位決定戦ではPK戦で負けてしまいました。引き揚げてくる時は、いく分し

よんばりしています。PKをキーパーにとられてしまったうちの息子はどうかと見ると、なるべくこちらを見ない様になっている様です。甘い顔は出来ないゾ、軽くにらんでおいて、思う事は、あーあ、もっと根性があつたらなあー。しばらく経ちますと、皆何事もなかった様に明るくにぎやかです。まだ小学生なんだから、これでいいのかな？これがたちばなの良いところかも知れません。監督さん、コーチの皆さん、こんな子供達ですがどうぞよろしく願います。

田辺 ユキ子

たちばなキッカーズ十五周年記念おめでとうございます。監督さん始めコーチの方々御指導の賜ものと深く感謝いたしております。子供達の練習を見るにつけ、のびのびと楽しくサッカーをやっておりますが、監督さんの方針で押しつけではなく自分から学びとて行く事が一番よいとの事、他チームにくらべ試合時たいへん楽しんでやっている様ですが、時にはもっと「ガッツがほしいなあ」と思う事もしばしばです。しかし又他チームの指導を見るにつけいかにたちばなの子供達が束縛されずのびのびと試合をしているのがよくわかります。

現在非行問題がとりざたされている中で、十一人の腫が一つのボールをおいかけている姿を見るにつけ、すばらしいフアイトに魅せられて、私もいつの日かサッカーにのめり込んでしまいました。

最近では一、二年生が大へん多く入って来まして、三、四ヶ月で試合をし、土、日の練習日がまちどろしいとお母様方から聞き、今後の子供達の成長ぶりが楽しみでなりません。

たちばなキッカーズ 十五年のあゆみ

「たちばなキッカーズ会報第1号」

年度	43年度	44年度	45年度	46年度
年	43	44	45	46
月	11	8	4	6
こと	11月23日(祭日)朝下田小学校校庭に16名が集まり初練習を行なう。 当時日吉町にあった「若草クラブ」(故石垣一雄氏指導)から挑戦を受け、下田小で初試合、初戦を5対0で飾る校庭に初めてシュート板設置さる。 日吉地区少年サッカー大会を初めて行なう。朝日、南日吉、たちばな、若草クラブが参加。 朝日 優勝 たちばな 3位 第2回日吉地区少年サッカー大会。 1位 南日吉 2位 たちばな 3位 若草 (資格は小4・中1のため年長者の多いチームが有利であった) 横浜サッカースポーツ少年団結成に加わる。宮西FCほか12チーム加盟。			

たちばなキッカーズ会報 No.1 54年8月26日

1. 試合の報告

8月23日(祭日)朝下田小学校校庭に16名が集まり初練習を行なう。当時日吉町にあった「若草クラブ」(故石垣一雄氏指導)から挑戦を受け、下田小で初試合、初戦を5対0で飾る校庭に初めてシュート板設置さる。日吉地区少年サッカー大会を初めて行なう。朝日、南日吉、たちばな、若草クラブが参加。朝日 優勝、たちばな 3位。第2回日吉地区少年サッカー大会。1位 南日吉、2位 たちばな、3位 若草。(資格は小4・中1のため年長者の多いチームが有利であった)横浜サッカースポーツ少年団結成に加わる。宮西FCほか12チーム加盟。

2. 練習について

8月23日(祭日)朝下田小学校校庭に16名が集まり初練習を行なう。当時日吉町にあった「若草クラブ」(故石垣一雄氏指導)から挑戦を受け、下田小で初試合、初戦を5対0で飾る校庭に初めてシュート板設置さる。日吉地区少年サッカー大会を初めて行なう。朝日、南日吉、たちばな、若草クラブが参加。朝日 優勝、たちばな 3位。第2回日吉地区少年サッカー大会。1位 南日吉、2位 たちばな、3位 若草。(資格は小4・中1のため年長者の多いチームが有利であった)横浜サッカースポーツ少年団結成に加わる。宮西FCほか12チーム加盟。

3. 連絡網について

8月23日(祭日)朝下田小学校校庭に16名が集まり初練習を行なう。当時日吉町にあった「若草クラブ」(故石垣一雄氏指導)から挑戦を受け、下田小で初試合、初戦を5対0で飾る校庭に初めてシュート板設置さる。日吉地区少年サッカー大会を初めて行なう。朝日、南日吉、たちばな、若草クラブが参加。朝日 優勝、たちばな 3位。第2回日吉地区少年サッカー大会。1位 南日吉、2位 たちばな、3位 若草。(資格は小4・中1のため年長者の多いチームが有利であった)横浜サッカースポーツ少年団結成に加わる。宮西FCほか12チーム加盟。



お問い合わせは公園住宅34-2番地
(TEL 617546)

4 8 年 度		4 7 年 度	
49	48		
1	11 12	7 4	3 1 11
第1回港北区新春スポーツ大会 たばなレッド（5年） 2位 たばなホワイト（6年） 3位	第5回横浜国際ビッコサッカー大会 LLの部 3位	島根県大社町で初めての合宿を行う。 参加者5・6年生30名 （秋葉台優勝）	第1回たばな杯リーグ戦 各学年を通じ学校の組分けを利用して4チームに分ける。 第4回横浜国際ビッコサッカー大会 Lの部 準優勝（この年だけ厚木の プランターズが特別参加し、優勝を さらう） LLの部は参加せず。 第2回港北少年サッカー大会。 小学生、中学生共に優勝 横浜少年選抜チーム韓国遠征。 当クラブから笠松、小菅、菅沼（以 上6年天場（兄）、坂本（以上5年） 参加 横浜少年サッカー大会 準優勝。 クラブの規約をつくる。 第7回全国スポ少サッカー大会 県予選で強豪秋葉台に1対0で惜敗



試合前にペナントを交換する両チームの主将

▲島根合宿での交歓試合
地元島根の新聞

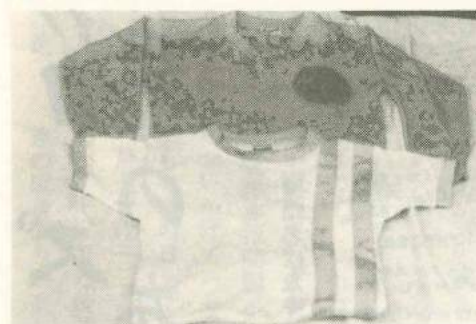


▲出雲大社にて



▲大社チームと試合前握手する監督

4 7 年 度		4 6 年 度	
		47	46
9	7	3	11 12
初めて千葉県に遠征（2年生以上） たちばな4対0常盤平団地 低学年も勝つ	第6回全国スポ少サッカー大会 横浜代表として山王谷、つばめと共に県大会に出場したが、秋葉台に歯がたたず。	第1回港北区少年サッカー大会 小学生の部 優勝 中学生の部 優勝	第3回横浜国際チビッコサッカー大会 に初参加。 リトル（低学年）準優勝 ジュニア（高学年）予選4位 初めて東京遠征（中山先生紹介） たちばな0対0浜田山小 たちばな（4年）0対1浜田山小（5年）
			11 11
			初めてスポーツ傷害保険に加入。 初めてユニホームを決める。 シャツはオレンジ パンツは白（後に紺）
			第5回全国スポーツ少年団サッカー大会。横浜地区予選に出場（公式戦初出場）山王谷と共に横浜代表となり、県大会進出。準決勝で鎌倉おなりと1対1、惜敗。（おなり優勝）



▲胸のマークも新しい
初めてのユニホーム
たちばなカラーのオレンジ



▲第3回国際チビッコサッカー大会初参加
リトル（低学年）準優勝 浜小学校にて



▼なつかしい応援旗



▲準優勝を祝してささやかなパーティ

5 1 年 度						5 0 年 度					
				51	51						50
8 9	8	7	5 6	2 4	1	10 11	9	8 9	8	7	4 6
第1回横浜少年サッカー大会。 この年から五年生以下の新人戦として、又学校チームも含めて開かれる たちはな 3位						第2回横浜スポーツ少年団サッカー大会 Lの部 4位 LLの部 準優勝					
第3回横浜スポーツ少年団サッカー大会 Lの部 準優勝 LLの部 優勝						第9回全国スポーツ少年団サッカー県大会。強敵善行に4対0で敗れる。					
第10回全国スポーツ少年団サッカー県大会。						富士緑の休暇村で合宿					
富士緑の休暇村で合宿						第2回団地少年サッカー大会。 A、B共に3位					
第3回団地少年サッカー大会						を借りきって盛大に行なう。					
						第7回横浜国際ビッコサッカー大会 LLの部 3位					
						第3回港北区新春スポーツ大会					



第3回団地サッカー

▼富士緑の休暇村合宿での練習試合



5 3 年 度				5 2 年 度				
				53				
7	2 5	3	1 2	1	12	10 11	9	8 9
第2回全日本少年サッカー神奈川大会 準優勝 (優勝は逸したが藤沢の壁を初めて破る)				第4回団地少年サッカー大会。 A・B共に優勝 (この年から中央大会はよみうりグ ランドで開催) 国立競技場で、全日本対コスモス(ベ レ出場)の試合を観戦。 (小・中学生45名) 第9回横浜国際チビッコサッカー大会 Lの部 優勝 LLの部 優勝 読売少年サッカー冬季大会に初出場 2回戦でアストラジュニア(準優勝) に敗れる。 第5回港北区新春スポーツ大会 3位(L・Aチームは県大会と重な ったため出場せず) 第4回神奈川県少年サッカー選手権大 会。 低学年の部 4位 高学年の部 優勝 第1回大京杯少年サッカー大会出場 第3回横浜少年サッカー大会(新人戦) 優勝 優勝				



▲第9回国際チビッコサッカー大会
L・LLダブル 優勝

▶神奈川県少年サッカー選手権大会
低学年の部・優勝



5 2 年 度				5 1 年 度				
				52				
8	7	4 5	2 5	2	1	1	10 11	9
富士緑の休暇村で合宿に際し、セルジ オ越後氏の指導を受ける。 この時の合宿は浜見平と一諸に行う。				Aクラス 準優勝 Bクラス 優勝 たちばな杯を新日鉄グランドで行なう。 第8回横浜国際チビッコサッカー大会 Lの部 3位 LLの部 準優勝 第4回港北区新春スポーツ大会 ホワイト(6年) 2位 レッド(5年) 3位 神奈川県少年サッカー選手権大会 低学年 優勝 高学年は羽鳥に敗れる バザーを行なう 純益金約16万円 テント購入 第2回横浜少年サッカー大会。(新人戦) 準優勝 第4回横浜スポーツ少年団サッカー大会 Lの部 優勝 LLの部 3位 第1回全日本少年サッカー神奈川大会 4位				



▲富士緑の休暇村 合宿にて



第1回バザー風景▲



▶51年度卒業試合
新日鉄グランドにて

5 5 年度		5 4 年 度							
		55				54			
5	2	1	1	10	8	8	8		
7	4	2		12					
第3回関東少年サッカー大会 初戦で葦崎（山梨）に4対5で敗れる この年葦崎優勝（於千葉） 富士緑の休暇村で合宿 全日本で優勝した甲府FCの選手9人を持つ玉諸チームと親善試合 4対3で敗れる 第6回団地少年サッカー大会 Aクラス 優勝 第11回国際チビッコサッカー大会 L 3位 LL 4位 港北区少年サッカー大会 位 第2回全国ミニサッカー大会 ベスト8（於宇都宮） 第6回神奈川県少年サッカー大会 4回戦まで進出 FC504に1対1でPK負け 第5回横浜少年サッカー大会（新人戦） 3回戦で夏山に4対1で敗れる 第4回全日本少年サッカー神奈川大会 ベスト8 （中央大会で前年度優勝の浜見に4									



▶ 第12回国際チビッコサッカー大会優勝
下田小学校にて



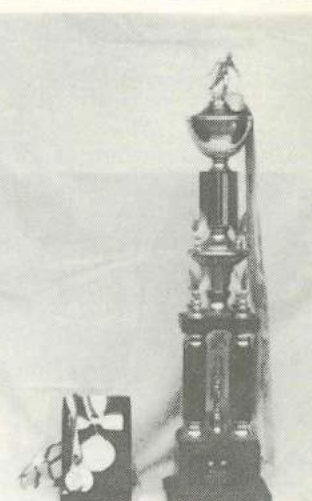
◀ 第7回団地サッカー大会 B優勝

5 4 年 度				5 3 年 度					
				54					
5	7	3	2	1	12	10	8	8	4
8		4				12	10		7
第5回横浜スポーツ少年団サッカー大会 Lの部 優勝 富士緑の休暇村で合宿 第2回関東少年サッカー大会 優勝（於藤岡市） 第5回団地少年サッカー大会 Bクラス 準優勝 Aクラス 予戦で敗退（関東大会のためL-A出場せず） 第10回横浜国際チビッコサッカー大会 Lの部 優勝 LLの部は準々決勝で敗れる。 12月17日創立10周年記念行事を行う 第1回全国少年ミニサッカー大会 神奈川代表（横浜港北選抜、横浜東駒林・つばめも含む）として出場 優勝 第4回横浜少年サッカー大会（新人戦） 優勝 なの花カップ（館山） 優勝 読売旗争奪読売少年サッカー夏期大会 5対5でPK負け 第3回全日本少年サッカー神奈川大会 準優勝									



▲ 関東大会優勝

関東大会優勝 トロフィー、メダル



▲ なの花カップ、メダル

▶ 第4回横浜少年サッカー大会
新人戦優勝



5 6 年度			5 5 年 度				
			56				
6	4 6	2 5	1	1	10 12	8	8
第5回全日本少年サッカー神奈川大会 PK負け	第8回横浜市スポーツ少年団大会 決勝トーナメント一回戦で横浜東に PK負け	第6回横浜少年サッカー大会（新人戦） 優勝（1対0港南台）	第7回神奈川県少年サッカー選手権大会 宿敵浜見にPK負け	第3回全国少年ミニサッカー大会 3位 爪田と大滝が優秀選手賞受賞 （於静岡県三島市）	第12回国際チビッコサッカー大会 優勝（決勝は黒滝に5対0で完勝） 港北区少年少女スポーツ大会 たしばなホワイト 準決勝で大曽根 SCに敗れる	第7回団地少年サッカー大会 Aチーム準々決勝で浜見平に3対2 で敗れる Bチーム優勝（決勝は港南台と1対 1でPK勝）	富士緑の休暇村で合宿 準々決勝でG・Pに敗れる）



▶第6回横浜少年サッカー大会
新人戦・優勝



第13回
国際チビッコサッカー大会
LLのA Bブロック優勝



国際チビッコに優勝
瓜田(右)と大滝君

今日は、国際チビッコの決勝戦だ。ぼくたちはキッカーズは、初めての決勝戦なのできんちようした。試合が始まって十分くらいたって大滝君が一点、またあとで二点をきめ前半を終えた。みんなすごい気合がはいていた。熱が入って相手は黒滝もおぼてきたが、みんなきくとめ、パスを回してため押しの二点をいれた。早くおわれ、早くおわれ」と何度も心で思った「ビー」ホイッスルが鳴った。とてもうれしかった。今日のぼくたちはキッカーズは最強だった。

さあ、こんどは県大会めざしてがんばるぞー！

たしばなキッカーズ六年瓜田直樹

▶さわやか新聞

5 7 年 度					5 6 年 度				
57									
7	7	6	4 6	2 5	1	1	10 12	8	8
第4回全国子供ミニサッカー大会神奈川予選トーナメント（於伊勢丹屋上）準決勝でOSジュニアに負け全国大会に出られず。					2回戦で村岡Aに敗退 富士緑の休暇村で合宿 第8回団地少年サッカー大会 第13回国際チビッコサッカー大会 LLのA Bブロック優勝 第4回全国少年ミニサッカー大会 準々決勝でPK負け（対仙台向山） 第8回神奈川県少年サッカー選手権大会 Lの部 1回戦で敗退 LLの部 4位				
57年度読売旗争奪読売少年サッカー夏季大会					第7回横浜少年サッカー大会（新人戦） 4位（準決勝で横浜東にPK負け） 3位決定戦では山王谷にPK負け） 第9回横浜スポーツ少年団サッカー大会。準々決勝でFC本郷に敗れる 第6回全日本少年サッカー神奈川大会 予選ブロック準決勝で鶴ヶ台AにPK負け。				



▶富士緑の休暇村でのマリニーニョ



◀第14回国際チビッコサッカー大会 4位

5 8 年 度

8	8	8	8	7	5 7	4 7	5	2 5
第10回団地少年サッカー大会 Aチーム 海浜に3対2で勝つ Bチーム 海浜(千葉)にPK負	読売少年サッカー夏季大会 二次リーグで2位(準決勝進出できず)	二日目昼食は飯ごう炊飯	富士緑の休暇村にて合宿 あさみのFC、八潮SC(埼玉) 中西バーリアン(東京)と親善試合を行う	神奈川予選優勝(於伊勢丹屋上) 全国大会一回戦 たちはな4対3 仲ノ木(埼玉)ただし合宿と重なる ため以後の試合を棄権	第7回全日本少年サッカー神奈川大会 ブロック 2位	第5回全国子どもミニサッカー大会 神奈川予選優勝(於伊勢丹屋上) 全国大会一回戦 たちはな4対3 仲ノ木(埼玉)ただし合宿と重なる ため以後の試合を棄権	5月8日 バザー開催 第10回横浜市スポーツ少年団サッカー大会。 4位	第8回横浜少年サッカー大会(新人戦) 3位

行する。それにとりな資金つくりとしてバザーを開催することに決定

▶「新たちばな杯」に歓声



◀楽しいはんごう炊飯



5 7 年 度

2	1	1	11 12	10 12	9	8 8
第9月に祝賀式典を開催。記念誌を発 行する。それにとりな資金つくりとしてバザーを開催することに決定	第9回神奈川県少年サッカー大会 3回戦で南大野コスモスにPK負け 第5回全国少年ミニサッカー大会 8人制の部 準決勝でPK負け たちはなキッカーズ創立15周年記念行事実行委員会発足	第9回神奈川県少年サッカー大会 3回戦で南大野コスモスにPK負け 第5回全国少年ミニサッカー大会 8人制の部 準決勝でPK負け たちはなキッカーズ創立15周年記念行事実行委員会発足	第2次予選リーグ 3位 富士緑の休暇村にて合宿 第9回関東団地少年サッカー大会 Aクラス 準々決勝で山崎ZにPK負け。この 年山崎Z優勝 第2回子どもの国キリンカップ少年サッカー大会 第14回横浜国際チビッコサッカー大会 4位(3位決定戦で駒林に敗れる)	57年度読売旗争奪読売少年サッカー秋季大会 第2次リーグ3位のため決勝トーナメントに進出できず。 (国際チビッコ3位決定戦と重なりLB LIBで対戦)	第9回神奈川県少年サッカー大会 3回戦で南大野コスモスにPK負け 第5回全国少年ミニサッカー大会 8人制の部 準決勝でPK負け たちはなキッカーズ創立15周年記念行事実行委員会発足	第9月に祝賀式典を開催。記念誌を発 行する。それにとりな資金つくりとしてバザーを開催することに決定

▼第5回全国子供ミニサッカー大会
優 勝

たちはなキッカーズが優勝
ミニサッカー県予選
第五回全国子供ミニサッカー大会(毎日新聞社主催、大塚製薬など協賛)は二十九日、東京・新習志野伊勢丹屋上の会場で、決勝戦ではたちはなキッカーズが2対0で上南サッカークラブを破り優勝した。たちはなキッカーズは八月四日から同会場で行われる全国大会に出場する。



▲第8回横浜少年サッカー大会新人戦
試合を終え拍手で迎えられるたちはなイレブン



▲第10回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 ハーフタイム

横浜市スポーツ少年団サッカー大会成績表 4月～7月

年度	回	クラス	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 4 位	チーム数
49	1	LL SL	横 浜 東 横 浜 東	た ち ば な 銀 嶺	山 王 谷 篠 原 つばめ	本 郷 富岡ひばりが丘	8 4
50	2	L LL SL	洋 光 台 横 浜 東 横 浜 東	山 王 谷 た ち ば な 銀 嶺	篠 原 つばめ 山 王 谷 篠 原 つばめ	た ち ば な 篠 原 つばめ 黒 滝	19 13 9
51	3	J L LL SL	ヨコハマサッカー 山 王 谷 た ち ば な 黒 滝	中 和 田 南 た ち ば な 山 王 谷 公 田	本 郷 篠 原 つばめ 公 田 富岡ひばりが丘	隼 横 浜 東 富岡ひばりが丘 勝 田	9 25 25 11
52	4	J L LL SL	ヨコハマサッカー た ち ば な 夏 山 瀬 ケ 崎	公 田 東 横 浜 東 山 王 谷 本 郷	た ち ば な 山 王 谷 た ち ば な 黒 滝	洋 光 台 公 田 富 岡 篠 原 つばめ	7 29 27 16
53	5	J L LL SL	F C 本 郷 た ち ば な た ち ば な 黒 滝	た ち ば な 駒 林 夏 山 横 浜 東	エンタープライズ 山 王 谷 瀬 ケ 崎 山 王 谷	洋 光 台 篠 原 つばめ 駒 林 駒 林	11 24 25 19
54	6	J L LL SL	YMCA 二俣川 た ち ば な 篠 原 つばめ 富 岡	た ち ば な 横 浜 東 夏 山 山 王 谷	南神大寺かもめ 駒 林 瀬 ケ 崎 本 郷	勝 田 山 王 谷 本 郷 かなばわ	8 32 30 20
55	7	J L LL SL	YMCA 二俣川 港 南 台 黒 山 王 谷	トライスター 公 田 A 山 王 谷 A 駒 林 A	公 田 谷 山 王 谷 駒 林 B	勝 田 東 横 浜 東 かながわ 瀬 ケ 崎	8 44 37 26
56	8	J L LL SL	藤 の 木 F C 本 郷 駒 林 A 夏 山	山 王 谷 F C 本 郷 かながわ	かながわ 山 王 谷 駒 林	横 浜 東 夏 山 野 庭 K C	6 53 52 31
57	9	J L LL SL	古 河 A F C 本 郷 夏 山 林	トライスター かながわ 山 王 谷 野 庭	藤 の 木 横 浜 東 駒 林 王 谷	つばめ 若 葉 台 港 北 黒 滝	6 58 67 33
58	10	J L LL SL	本 郷 山 王 谷 夏 山	奈 良 F C 野 庭 野 庭 K C	横 浜 東 夏 山 あ ざ み 野	た ち ば な かながわ 港 南 台	

たちばなキッカーズ 輝かしき足跡

横浜少年サッカー大会（新人戦）2月～4月

年度	回	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 4 位
51	1	山 王 谷	横 浜 東	た ち ば な	本 郷
52	2	山 王 谷	た ち ば な	駒 林 クリッパーJ	—
53	3	た ち ば な	山 王 谷	横 浜 東	篠 原 つばめ
54	4	た ち ば な	横 浜 東	駒 林	山 王 谷
55	5	トライスター	黒 滝	山 王 谷	夏 山
56	6	た ち ば な	港 南 台	F C 本 郷	駒 林
57	7	駒 林	横 浜 東	山 王 谷	た ち ば な
58	8	山 王 谷	本 郷	た ち ば な	黒 滝

全日本少年サッカー大会（県大会）

年度	回	優勝	準優勝	3 位	4 位	備考
5 2	1	善 行	ゴール プランターズ	百合ヶ丘	たちばな	
5 3	2	い ず み	たちばな	村 岡	浜 見 A	
5 4	3	浜 見・A	たちばな	村 岡	大庭コンドル	
5 5	4	大 根 ラディッシュ	北 の 台 キングイレブル	ゴールブラン ターズ	天 台 A	準々決勝で GPに 7：0で完敗
5 6	5	ゴ ー ル プランターズ	六 会 A	中 里 A	山 王 谷	中心選手ケガ のためブロッ ク予選で敗退
5 7	6	成 瀬	大 沼 ファイターズ	六 会 A	F C 今 宿 (茅ヶ崎)	ブロック準決 勝で鶴ヶ台A にPK負
5 8	7	町田イレブン (小田原)	下和田SC	大 越 A	上 南 サザンイレブン	ブロック決勝 で双葉に 1：0で敗退

関東大会 神奈川県の場合、この大会での2位と3位のチームが関東大会に県代表として出場

横浜国際チビッ子サッカー大会成績表

年度	回	クラス	優 勝	準 優 勝	第 3 位	第 4 位	チーム数
44	1	L	朝 鮮 学 園	東 戸 塚	中区（ゴール）		
45	2	L	中 区	St. ジョセフ	朝 鮮 学 園	山 王 谷	
46	3	L LL SL	ク ス ノ 木 山 原 王 谷	原（アポロ） た ち ば な 横 浜 東	朝 鮮 学 園 山 王 谷	山 王 谷	
47	4	L LL	G. プランターズ ア ポ	た ち ば な G. プランターズ	St. ジョセフ 篠 原 つ ば め	篠 原 つ ば め 山 王 谷	9 8
48	5	L LL	ア ポ ロ St. ジョセフ	篠 原 つ ば め 篠 原 つ ば め	山 王 谷 St. ジョセフ 横 浜 東		12 10
49	6	J L LL SL	中 和 田 南 B 朝 鮮 学 園 横 浜 東	F C ゴ ー ル F C ゴ ー ル 山 銀 谷 嶺	市 山 場 山 王 谷 篠 原 つ ば め	中 和 田 南 A 篠 原 つ ば め St. ジョセフ	10 15 15 6
50	7	J L LL SL	ヨコハマサッ 朝 鮮 学 園 横 浜 東	朝 鮮 学 園 篠 原 つ ば め 山 王 谷	中 和 田 南 朝 鮮 学 園	市 洋 朝 黒 光 学 園	8 21 18 17
51	8	J L LL SL	ヨコハマサッ 横 浜 東 横 浜 東	St. ジョセフ YMCA 横 浜 た ち ば な	サンフライズSC た ち ば な 山 王 谷	公 勝 公 勝 田 田 田	7 27 30 19
52	9	J L LL SL	ヨコハマサッ た ち ば な た ち ば な	公 横 浜 公 横 浜	洋 山 光 山 王 谷	朝 鮮 学 園 横 浜 王	9 29 33 26
53	10	J L LL SL	朝 鮮 学 園 横 浜 東 横 浜 東	洋 光 台 横 浜 王 谷	公 山 王 山 王 谷	エンタープライズ 黒 本 崎	12 30 34 26
54	11	J L LL SL	朝 鮮 学 園 朝 鮮 学 園 山 王 谷	YMCA 二俣川 横 浜 東 A 勝 た ち ば な	勝 た ち ば な 山 王 谷	ト ラ イ ス ター YMCA 二俣川	9 39 40 25
55	12	J L-A L-B LL SL	朝 鮮 学 園 た ち ば な 小 横 浜	ト ラ イ ス ター 黒 横 山 王 山 王 谷	Y C & A C 勝 YMCA 青葉 黒 黒	公 夏 洋 本 光 夏	7 22 27 42 29
56	13	SL LL-A LL-B L-A L-B J	野 庭 K 夏 庭 K た ち ば な 上 庭 K 朝 星	夏 F 本 F 港 北 港 南 藤 C の	F 山 野 山 王 星 上 横 浜 西 YMC ト ラ イ ス ター	洋 光 台 駒 ト ラ イ ス ター 山 王 谷 山 王 谷	36 28 31 27 30 6
57	14	SL LL-A LL-B L-A L-B J	駒 西 黒 黒 F 富 横 横	山 山 王 駒 駒 王 F 駒 林 大 古 奈	野 庭 K 瀬 庭 K 富 岡 大 曾	夏 夏 山 か た な 野 庭 K	37 28 32 28 30 10



◀ペレと曾田監督

世界の名選手から
コーチを受ける
たちばなキッカーズ



▶ペレにドリブル

▶ペレにトラップ



◀セルジオ越後



◀セルジオ越後



▼マリーニョ



◀下田小にて

関東団地少年サッカー大会

(Aは6年生以下)
(Bは4年生以下)

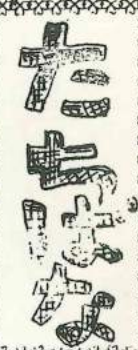
(日吉団地として出場) 8月

回	年度	優勝		準優勝		3位		備考
		A	B	A	B	A	B	
1	49	日吉	日吉 浜見平	東久留米		浜見平 常盤平	袖ヶ浦 園生	
2	50	袖ヶ浦	浜見平	永山 (多摩NT)	滝山	日吉	日吉	
3	51	袖ヶ浦	日吉	日吉	袖ヶ浦	常盤平 公田	公田	
4	52	日吉	日吉	俣野	滝山	袖ヶ浦	八潮井草	
5	53	滝山	鶴ヶ台	浜見平	日吉	常盤平	西上尾	Aは主力選手が関東大会出場の為予選で敗退
6	54	日吉	めじろ	町田山崎	高島平	高洲	真砂	
7	55	滝山	日吉	西上尾 キッカーズ	港南台	浜見平	滝山	日吉Aは準々決勝で浜見平に3:2で敗退
8	56	山崎Z	滝山	柏台	港南台	本町田	行田 スポーツ	日吉はA・B共決勝トーナメント1回戦で敗退
9	57	山崎Z	浜見平	行田西	滝山	原市	港南台	日吉はAは準々決勝で山崎ZにPK負、Bは準々決勝で高洲に敗退
10	58							

注 第1回(49年度)大会は3位決定戦は行わず

第1回大会のBの決勝戦は引分けのため両者優勝(PK戦は行わず)

第3回のAの3位決定戦で常盤平と公田が引分けのため両者3位



発行 たちばなK.O.
創立10周年記念号

十周年を振り返って

何事につけ、あるものが発生、発展するに、それなりの素地なり背景なりがあるものです。昭和四十三年秋、我々のささやかなグループ「たちばなキッカーズ」が誕生したのも、その年は、日本代表チームが、オリンピックで三位になるという画期的な出来事があったからでしょう。

きっかけとしては、港北区役所主催のサッカー指導講習会（地域の体育指導員参加）で、少年用サッカーボールの支給を受けたことに初まります。

最初は四、五年生十五人位が毎日曜早朝校庭に集まり、シュート練習に一日一週する程度でした。それでも面白そうだったので、冬道や水泳をやめて仲間に加わる子も出てきて指導にも力が入りました。

最初の対外試合は翌年八月、日吉町にあった「若草クラブ」が相手で、当時の会報に「最初は緊張した……」とありますが、結局は5対0で大勝しました。

一方、下田小学校でも、中山先生を中心にサッカーが子供の心身の発育に好影響があるとして、当時から積極的な指導、奨励されていきました。

丁度その頃、今のシュート板の位置に古くはたつたロク木があつて、あまり利用されていなかったもので、ロク木に替えてシュート板を建てていただくことに、当時の柏木校長先生に申し出たところ、大いに賛成してくださつて早速準備にかかり、四十四年の秋に最初のシュート板が出来上りました。（現在の五十二年に建て直したのも、少年用のものは当時としては大変珍しく感激しました。）

また一方、四十六年には、片岡次夫氏（現神奈川県サッカー協会顧問）を中心に横浜サッカースポーツ少年団が結成され、これに加盟することによって以後多くの試合に参加できるようになりました。

我々のスポーツクラブは、こうした恵まれた土壌の上にすくすく伸びて育つてきた感じがいたします。

初めての公式戦出場は四十六年の県スポーツ少年団大会で、この時、戸塚区の強豪、原小学校（後のアボロ）を倒してから駒子に乗り、遂に決勝まで進出、優勝チームの鎌倉（おなり）に惜敗しました。もともと、このチームは主として、当時六年生の担任であつた池畑先生（駒林チーム監督）が、クラブ活動で鍛えられたものでしたが、これが翌年以後の強力チームを生むきっかけになりました。なおこの年から、横浜国際テレビコサッカー大会にLL（四年生以下）が参加し、これまたいきなり準優勝を勝ち取りました。

四十七年には笠松（兄）君（現旭高三年）が初めから大活躍し、途中が加入し、この年初めて千葉県まで遠征、歴史の古い常盤平山地区に大勝して氣勢を上げました。つづいて四十八年には県大会で当時の161の秋葉台（全国大会準々決勝まで進出）互角に渡り合い、1対0で惜敗しました。四十九年には団地新聞「KBY」を媒体にして団地少年サッカーの第一回大会が開かれ、「日吉団地チーム」として出場、Aクラス（五十六年）、Bクラス（四年以下）共に優勝してすつかり自信をつけました。そしてこの年十一月はあの忘れることの出来ない、ペレとの出会いがありました。この時の模様はいずれ詳しくお知らせします。

私が前後しますが、初めての合宿は四十八年八月、一週間の日程で、出雲大社のお膝元の島根県大社町（曾田の出身地）へ行きました。この時は地元チームに3対1で負けましたが、その相手チームにいた数人は、今年の国体高校の部の全国大会（長野県）に出場しています。合宿は五十年から現在の

富士線の休庵村へ行くのが慣行となり昨夏は、ご承知のように、セルジオ越後氏の指導を受けるという幸運に恵まれました。

会員の数は四十八年頃から五十名を超すようになって指導も難しくなつたので、先づ団地在住の杉野実氏に助力を依頼（五十一年度まで）し、その後クラブ員が増えるに従つて五十年から大脇さん、五十一年から永田さん、佐野さん、安沢さん、村上さん等サッカー経験者の父兄も指導陣に加わつていただき、今日の強力チームに育ち上りました。勿論、この間、患の父兄並びにお母さん方のご協力も大きな力になつたことはいうまでもありません。

さて、以前からよく「たちばなはいづものひび」と試合をする」と言われまが、何故そのようなチームカラーになつたのか、正直のところよくわかりません。日頃、選手を一定の型にはめたいように心掛けていた頃にはあります。下田小学校の教育方針に因循することかも知れません。とにかく『のひび……』と評されるのは何よりもうれしいことと、今後もこの伝統は生かしたいと思ひます。そして、もう一つ、これから「たちばなキッカーズ」が



更に発展するために、縦のつながり、つまり先輩、後輩の結びつきを大切にしたいと思ひます。卒業した先輩が切れるのではなく、「たちばな」で育つたりして、常に後輩の活動を見守るべきならば十分に十分でも二十分でも気軽に後輩の相手をする。現々のクラブをそのようになかちばに発展させたものだと思ひます。

最後になりましたが、クラブ誕生の当初から何かにつて支援をいただいた石渡連合町内会長、日吉団地の若木自治会長並びに地元の関係者の皆様、及び御多難を計つていただいた歴代の校長先生は諸先生に心から感謝いたします。

たちはなキッカーズ監督 曾田 弘治

現役代表から
ひとこと

十周年おめでとうございます。今年、LLAにとつてとてもよい年でした。横浜の大会では三かん王をつたし、県大会ではおしくも優勝になりましたが関東大会では優勝することができませんでした。

そして、遠く遠く六年にとつて最後の年に十周年をむかえることが出来、たいへんうれしく思っています。

これも先はいの日のしどろのかかげです。そして、忘れてはならないのが曾田かんく、コーナのかたがたの日曜日をへんじようとしての指導のかかげです。

十二月の下じゆんには全国大会で優勝した清水FCから静岡県へしよつたいされた。むこうでは、全力をつくしガンバツてくるつもりです。

また、中学生になつても、サッカーを続けていきたいと思ひます。

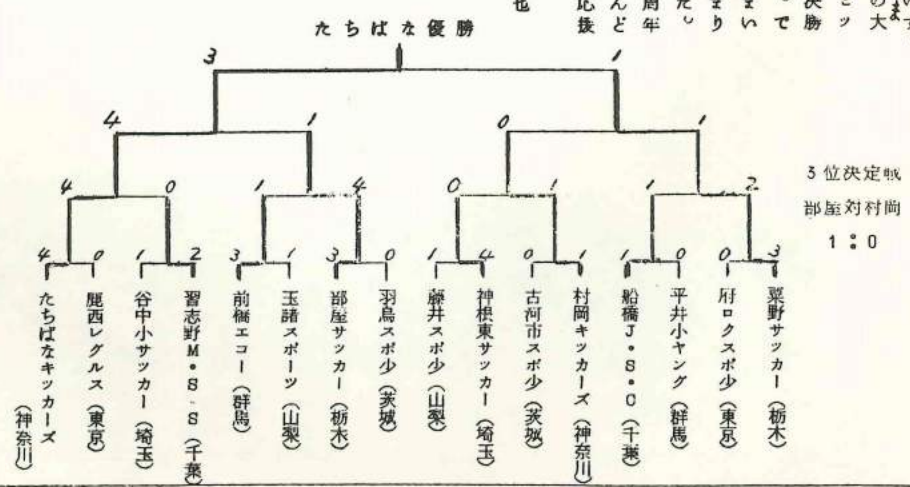
L・A 王将 本間 真一郎

十周年創立記念おめでとうございす。ぼくら LL・A は横浜市の春の大会で優勝しました。今回の国際テレビコ大会では、予選において一位で決勝大会へ進出することができました。でも準々決勝で2-0とやぶれてしまいました。みんなは、くやしさをあまりろくに食事ができない人もいました。ぼくが四年生のキャプテンで十周年目をむかえることは光栄です。こんどの県大会でがんばるのみなさん応援して下さい。

L・L 主将 村上 晋也

第二回関東少年サッカー大会試合結果

於・群馬県藤岡市
昭和53年8月25日~8月27日





▲今日も元気でがんばるぞ!!
朝食のひととき

1班～6班に分かれて各班の班長に6年生がなり、後輩の世話をする。合宿の間は、班ごとに行動する。食事は全員で食べます。

にぎやかで楽しい、家でおかわりが出来ない子供でも、おかわりをして食べます。食事は子供達にとって楽しいひと時、お風呂は広くて大勢で入るので泳いだり、もぐったり楽しそう、布団は各自で敷き初めて布団を敷た子供は、うまくいかないがうれしそう。

部屋別対抗では、各班力をあわせて戦います。この試合は、班の1人1人が一生懸命である、負けた班は涙を流してくやしがるのです。今まで見た事のない子供達の姿にお父さん、お母さんは目をみはるばかりです。

班に1人のお母さんが、班長の補助役をします。班の応援するお母さん達の姿がおもしろい。

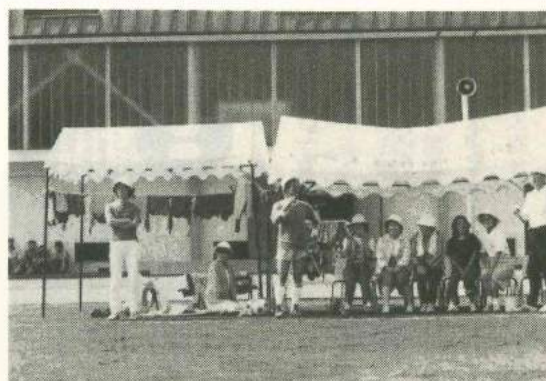
スポーツテストたちばな記録

学 年 チ ャ ム	リフティング (回)	30m走 (秒)	ドリブル (秒)	スローイン (m)	プレスキック (m)
4 年 L L	178	5.3	22.0	14.2	30.5
5～6年 L	850	5.0	19.6	19.7	35.8

サッカー5種目のテストを各自行って4年生で良い記録が出なかったら、5年生で記録を伸ばす。

6年生になったら、ぜったい1位になってやる。根気と努力が大切だと思います。

!! 皆んながんばって先輩の
記録を破ろう !!



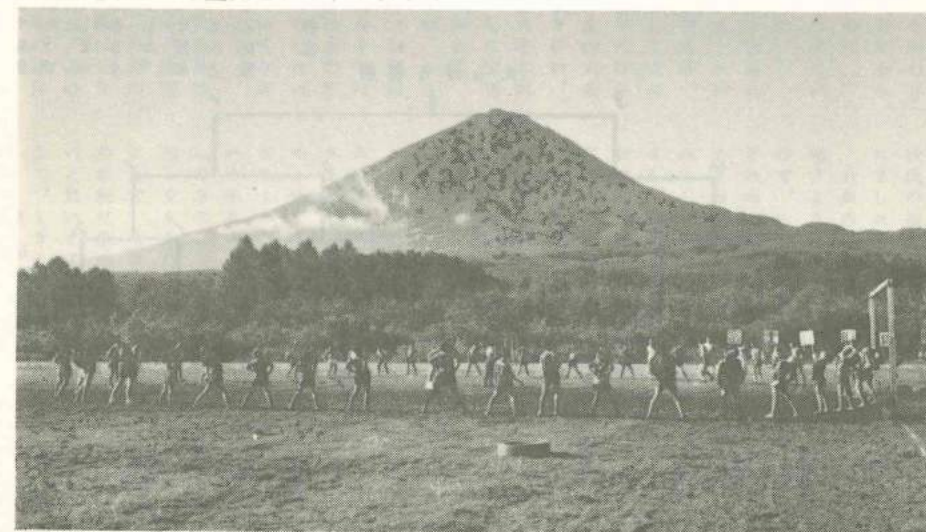
▲お父さん、お母さんの楽しい応援風景

楽しい合宿のスケジュール

合宿所 富士緑の休暇村(山梨県南都留郡鳴沢村)
期 日 8月はじめ頃 3泊4日 TEL 0558(5)2236

時 間	日(土)	日(日)	日(月)	日(火)
6:00	集 合	起 床	起 床	起 床
7:00		体操ランニング	体操 ランニング	体操 ランニング
8:00		朝 食	朝 食	朝 食
9:00	現 地 着	練 習	部屋別試合	部屋別試合
10:00			}	}
11:00				
12:00	昼 食	昼 食	昼 食	昼 食
13:00	練 習	親 善 試 合	スポーツテスト	自 由 時 間
14:00	親 善 試 合	}	}	}
15:00				出 発
16:00				
17:00				
18:00	夕 食	夕 食	夕 食	
19:00	ミニサッカー	お楽しみ会	お楽しみ会	(解 散)
20:00	}	準 備	(部屋別対抗)	
21:00				
22:00	就 寝	就 寝	就 寝	

▼ さわやかな空気をタップリ吸って



卒業おめでとう

十四期卒業生へ

人間は一人一人顔が違うように、こころやからだの特徴もみんな違っている。違ったままで子供から大人へとどんどん成長する。高い山へ登るようなものである。道はたくさんあってどこを通ってもいい。とにかく頂上(大人)をめがけて一步一步登る。途中、楽しいことやつらいこと、思いがけないこと、色々なことにそうぐうしながら登る。つらいからといって山を下りるわけにはいかない。がまんしながら進んでいるうちに、また元気が出て、どんどん登れるようになる。ただ途中で何度も障害物にぶつかるとその障害を自分で工夫して乗り越えなければいけない。自分で考えて一番よいと考えた方法で障害を突破しながら登る。

さて、きみたちが、ちばなに入ったときのことを思い出してみよう。ボールを思うように扱えず、きちっと止めることも力を入れて蹴ることもしない人が多かった。それが今では気持よくスイスイとドリブルで抜ける人、インステップキックが矢のようにまっすぐ飛ぶ人、からだを投げ出してすばらしいタックルをする人、得点感覚のすごい人、キーパーをしながらかバックの役目でもできるほど守備範囲の広い人などそれぞれ特徴を出しながら、めざましい上達をした。またリフティングを一〇〇回以上楽にやれるほど集中力のついた人、ぜんそくを忘れてしまった人など色々な点で進歩している。そういう進歩は、コーチ、監督からはげまされながら自分自身で成し遂げたものなのだ。それが苦勞して会得したものなら、なおさら宝石のように貴重である。

夏の合宿の部屋対抗試合でのきみたちの活躍もすばらしかった。下級生を大声でさしずして声をからした人、黙々と体当りでがんばった人、

ちばなキッカーズのモットーは子供達のがびのびとプレイすると言う事にあると思います。この十五年間ずっとひき継ぎ、それはもう伝統になっているのではないのでしょうか。

我々現場の監督、コーチはつねづね子供達の能力を一〇〇%引出せるよう努力し、練習で泣いて、試合で笑うと言う気持を持ち、最後は頂上を目指す、すばらしいチームに育つよう願って居ります。

又、ちばなキッカーズでプレイを共にした多くの仲間といろいろな大会での、楽しかった事、苦しかった事、悔し涙にくれた事、それら様々の思い出を忘れずに、社会に出て頑張つて欲しいと思います。

ちばなキッカーズの過去の数々の栄光とこれ迄育ててこられた監督、先輩諸兄、御父兄がたの協力に大いに感謝する次第であります。

これからの二十年、三十年と益々の発展に微力ながら協力させて頂きたく思っています。



永田 欣也

ちばなキッカーズが創立以来十五年を経、益々充実した活動と、輝かしい成果を挙げ続けているのも、一重に曾田代表の、「少年サッカーは、かくあるべし」との確固たる基本理念、子供達への「深い愛情」及び児童心理を把握した「巧みな指導力」の賜物であり、加えて各コーチの熱心な指導と、歴代の父母各位の献身的な御援助と御協力の三位一体に依るものと思われれます。

チームを上手にまとめた人、あんなスタミナがどこにあったかと思うぐらいグラウンドいっぱい走り回った人、病気が治って間もないのにせいいっぱいがんばった人などみんなが六年生の意地をみせたり、六年生らしい責任感を発揮した。特にうれしかったのは、ふだんおとなしい人が、すばらしいファイトをみせたことで、これこそ「ちばな魂」だと思った。

このように、きみたちは身体が大きくなっただけでなく心(精神)の面でも確実に成長しているが、これから中学へ行き、高校に進む間に、さらに一段と進歩するだろう。先程も述べたように、そういう進歩は、人から与えられるものではなく、自分で工夫したり、ねばり強くがんばったり、ときには仲間と協力しながら会得するものである。サッカーの技術だけでなく、ほかのことでも同じだ。

あの夏の合宿でみせたがんばり精神や、苦しい試合を戦った数々の場面を時々思い出しながら、自分の特徴をいっそうのばすことによって、今後ますます元気で活躍するようぞんである。そして、きみたちの後に続く後輩から目標にされるような立派な先輩になるよう期待している。

昭和五十八年三月二十日

曾田 弘治

これは、毎年卒業していくちばなの子どもたちひとりひとりに、監督が心をこめて書いて渡している「送るこたば」です。

最後には頂上を

大島 勉

ちばなキッカーズ創立十五周年おめでとうございます。

私達一家が、ちばなキッカーズのホームグラウンドである下田町に引越して来たのは、十一年前でした。ちばなキッカーズの十一期生として、四年間お世話になった長男俊策は、当時幼稚園の年少組でした。

幼児期決して頑健とは言えなかった俊策も、四年間の活動で見違える程に健康体になり、精神的に不安定な中学時代も、サッカーを続けたお陰で無事乗り切りました。今年から高校で、更にサッカー部活を元気に続けていられるのも、ちばなキッカーズのお陰と、心から感謝しています。

私が「LL-Bチーム」のお手伝を始めたのは、昭和五十一年秋の、国際にびつ子大会からでした。東横線、国鉄更にバスを乗りついで、今は無くなった桂台グラウンド、桂台小に遠征したのが、つい先年の様に鮮明に思い出されます。が現在、当時の選手達は高校の二年及び一年に進学しており、本当に月日のたつのは早いものだと思感させられます。

「LL-Bチーム」担当時は、三年生の新入部員が、先ずサッカーに、「興味」を持ち、「好き」になり、更に「面白さ」を知って、夢中になってくれる事が目標であり、亦喜びでした。一方、折角ちばなキッカーズに加わりながら、種々の事情で活動を止める子供達が少数ながらいたのは、非常に残念に思うと同時に、指導に問題があったのではないかと反省させられました。

一昨年の秋から「LL-Aチーム」を受け持っていますが、曾田代表及び他コーチの助言を得て、子供達がより充実した活動が出来、更に「LLチーム」に進んで益々サッカーに熱中し、「心身共に逞しく育つ」基礎作りに努力したいと考えています。

今年から、ちばなキッカーズも、一年生から入部出来る様になり、一層多くの子供達が参加していますので、此迄以上のより充実した活動、伝統を汚さない成果の維持及び一層の発展を祈念しています。

十五周年を迎えて

佐野 仁

たちばなキッカーズ創立15周年を迎え、心から御祝を申し上げます。創立者であり、監督として御指導育成に、おしめない情熱をかけて下さいました曾田さんと、御家族に深く感謝をいたしております。

現在のコーチの人達それに以前コーチだった方々の力の積み重ねで、めでたく15周年を迎えられました。私とたちばなキッカーズの出合は、9年前息子が小学三年の時に入会させていただき、御世話になった時です。型にはめない自由な練習方法が子供達の個性をのびし、考える力を養い乍ら、それぞれの運動能力を思いきり発揮させて下さっているのを見て、曾田さんの御指導の素晴らしさに敬服いたしました。

子供達は、試合をのびのびとやって楽しみながら勝っているのです。一試合ごとに強くなっていく子供達を見るのが楽しみで夢中になって応援をいたしました。お母さん方の熱心な御協力を見て父親達も、いつの間にか引き込まれてゆき、みんなで試合を見にゆくようになりました。次第に親同志の交流も深まって、父親も練習にできて一諸に楽しみ、子供達と試合をやっては敗けてばかりいました。当初の頃の楽しい思い出です。

そんな中で4級審判の資格、それとスポーツ少年団の指導者の資格を取り、サッカーのとりこになってしまいました。息子は卒業してゆき、港南区に移り住んでも、私だけたちばなキッカーズに残りました。現在コーチをして下さっている大島さん、永田さんも親だけ残って、やって下さっています。

私の一念とするところは、小学生の時はサッカーの楽しさを充分に知って欲しいと云うことです。『点を取る楽しみ、ボールを奪う楽しみ、

ボールを追う楽しみ、ボールを受ける楽しみ、相手を抜く楽しみ』彼等が将来どの様な成長過程にあっても、少年時代にサッカーボールを蹴ったこと、試合をしたことがあると云うことで、スポーツ精神がいかにかに育ち、平和につながっているかを身体で記憶していてくれることを願っています。

子供にサッカーをやらせたいと云うことは、親と子供と、私達と三者が、意志の共通するものがあるからだと思っています。子供を愛し、サッカーを愛する大人達は、この子供達のために温かく見守ってやろうではありませんか。

最後にたちばなキッカーズの発展が末長く受け継がれてゆくことを熱望いたしております。

FC清水の招待試合

末山 本村

昭和五十三年夏、たちばなは強かった。県大会、もう一勝もう一勝と言っているうちにとうとう決勝まで来た。残念ながらいわずもキッカーズに負けてよみうりランドへは行けなかった。しかし九月の関東大会は各県代表の二、三位チームを相手にたちばなキッカーズはみごと優勝した。本当に強かった。

その年の暮、FC清水から招待状が来た。神奈川県からはゴールブランターズとわがたちばなキッカーズの二チームでした。三泊四日の遠征へ十二月二十五日朝早く本間キャブテン以下選手十四名。父兄五名車三台で出発した。会場でパンフレットを見てびっくりした。FC清水他町田、甲府、広島、京都、西日本、藤枝と各地から選抜チームが集っていた。子供達は二十四チーム中、二十位ぐらいにはなれるかナード弱気になっていたのも事実である。夜になると胃が痛いから胃薬を下さいと言

う子供がいたり、口も聞かない子供もいました。しかしたちばなキッカーズはがんばりました。出場二十四チームが四ブロックに分かれて、たちばなはBブロックでした。Bブロックには大会優勝したFC町田がいた。それでも二位ブロックトーナメントへ出ることが出来た。最終結果は八位でしたがイレブンは喜んでいました。上位七チームは全部が選抜チーム、すなわち単独チームとしてはたちばなキッカーズが一位だったからです。あの小さなからだで良くがんばったナードと思いました。三泊四日の間、父母も夜昼三名ずつ交代で行きました。暮れの忙しい時に本当に大変だったと思います。その大会の出場選手を見ると将来の全日本の予備軍とも言えます。今の現在の全日本ジュニアユース代表に西日本から三名、清水FCから三名、広島から一名、そしてたちばなから本間君が選ばれています。それほど優秀な選手が出た大会にイレブンと共に参加できた事を私は一生忘れる事はないと思います。

その年は終った明けて一月ミニサッカーの全国大会が東京三菱養和グラウンドであった。ミニはたちばな、ガーデンは駒林と横浜東、サロンはたちばなとつばめ。三チーム出場して全国総合優勝をした。大きなトロフィーを貰ってイレブンは喜んでいました。そして夏が来た今年こそは県大会優勝をとたちばなキッカーズは選手、父兄と一丸となってがんばった。残念ながら又も決勝で負けてよみうりランド行きの夢は消えた。本当に残念でした。せめて一度はたちばなキッカーズのイレブンをよみうり大会へ行かせたかった。

二年間に県大会決勝へ二度。関東大会へ二度、そして清水FCの招待、ミニサッカー全国大会と数々のイベントに優勝又は準優勝で来た事を当時のたちばなキッカーズイレブン共々私一父母又は一指導者として一生忘れる事はないと思います。

(注) 全国の優秀チームが集まることで有名な清水招待試合に招待さ

サッカーを十倍楽しく見る方法

中林 由行

たちばなキッカーズ十五周年おめでとうございます。仕事であれ趣味であれ十年続けば一人前といえますから十五年の間たゆみなくがやかしい歴史を築きあげてきた監督、コーチをはじめ関係者の皆様の努力には本当に頭が下がります。私も父母の一人としてお手伝いしているうちにもともと好きなこともあってレフリー稼業に深入りすることになってしまいました。昔の人はこういうのを「病膏盲(こうもう)」に入るといったのですが最近の子供は「ほとんど病気」というのです！

サッカーをより楽しむためにはサッカーに関する事、ルールに関する事を良く知ることが一番だと思います。横浜は日本のサッカーの発祥の地である、といったら皆さんはびっくりするかもしれませんがこれはでたらめではないのです。日本に紹介されたのは今から百十年程前の一八七三年(明治六年)ですが、サッカーの正式な試合で最も古いのは一八八八年(明治二十一年)の「横浜外人クラブ対神戸外人クラブ」の試合だそうですから横浜と神戸は日本のサッカーの元祖といえるでしょう。この試合は「インターポート」と呼ばれて現在も毎年おこなわれています。丸いボールをける遊びは紀元前三千年の頃の中国や、ギリシャ、ローマの時代にもあったといわれますが、ルールがつくれられスポーツとしての形がととのったのは今から百二十年前、イギリスのロンドンにサ

サッカー協会が設立された時です。正式名称は「アソシエーション・フットボール association football」といい、このsocをぬき出して soccer と呼ぶようになったといわれています。

サッカーのルールは十七条から成立っていますがサッカーの関係者にとっては正にこれは「十七条の憲法」であります。どこかで聞いたような言葉だな、と思いませんか？、よくよく考えてみたら日本の歴史でハタと思い出しました。むかしむかし七世紀のはじめに聖徳太子が日本ではじめてつくった有名な成文法が「十七条の憲法」なのです。先年ある国の首相が「和の精神」をとねえましたが、この憲法の第一条には「和をもって貴しとなす」と書いてあるのです。それはともかくこの十七という数字には重要な意味があり、陰と陽の極数八と九の和で陰陽を合わせ天地のみにかなう、という思想をあらわしているのだそうです。俳句も何故か十七文字ですが、この東洋思想を象徴する十七という数と、十七条のまま固守されてきたサッカーのルールの不思議な共通性は単なる偶然ではないような気がするのです。

まあおきがいぶん長くなってしまいました。ルールの中でもっとも面白いのは**オフサイド**でしょう。(図一) オフサイド
を見て下さい。守備側の後から二人目の選手が②でこの選手の位置にオフサイドラインがあります。ですから斜線のひいてある範囲はすべてオフサイドの地域でこの中に居る①の選手に③の選手がパスを出す①の選手はオフサイドの反則をとられます。②の選手の位置にいれば大丈夫なのですが、②の選手がもっと上がつくと一諸にオフサイドラインも動いてきますので②の選手ももっと下がらないとオフサイドになってしまいます。線審

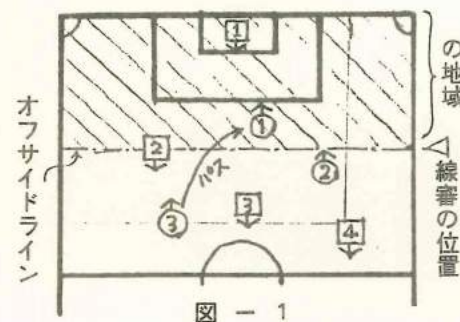


図 - 1

はそれを判定するために必ず②の選手の動きについて同じに動かなければなりません。よく「オフサイドトラップ(罠)にひっかかった」といいますが、これは相手側がゴール前にボールをあげてこようとする時に守備側のバックスが一齐に上がって敵をゴール前に取り残して強引にオフサイドにしてしまう高等戦術のことをいいます。しかしゴール前をガラあきにするわけですから失敗するとひどいことになります。たとえばバックスの一人が上がり遅れてしまうとゴール近くの敵にボールはパスされて、相当の訓練を必要としますので大人のチームは使いますが小学生ではやれるところは少ないようです。

サッカーの反則は大きくふたつに分けられます。ひとつは相手をつたり、押したりなどの9種類の重い反則でこの場合は相手に**直接フリーキック**が与えられます。もうひとつは足を高くあげるなどの危険なプレーや、オブストラクションなどの五種類の軽い反則で相手に**間接フリーキック**が与えられます。間接の場合フリーは(図一②)のように片手をまっすぐにあげていますのでわかります。小学生の場合は間接でもそのままゴールにシュートをしてしまうことがよくありますがこれは直接ゴールインしても得点にはなりません。

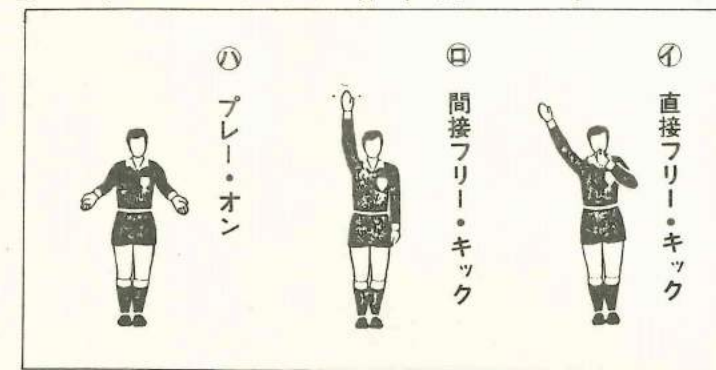


図 - 2

されたチームにゲームが有利に展開した場合にはレフリーは笛を吹かずにそのままがす場合があります。これは「アドバンテージをみる」といってレフリーの重要な役割です。この時にはレフリーは両手を広げるシグナル(図一②)で示したり、ブレイオンと大きな声でいいますから、脇で「反則だ反則だ」といって騒ぐと恥をかくことになります。ボールがタッチライン上をころがると「出た出た」と叫ぶ人がいますがボールの大部分が外にあっても一部がラインにかかっていればインプレーですから、線審もあわてて旗をあげないように見なければなりません。

スローインの場合は両足が地面についていること、頭の後から頭上を通して両手で投げるように決められていますから、頭の真上から投げると反則をとられますし、体をひねると片手投げと判断されて反則になります。

レフリーには一級から四級までの四等級がありますが、一級は全国大会の笛を吹くことが出来、二級はブロック大会(例えば関東大会)、三級は県大会、四級は地区大会の笛を吹くことができます。一級審判の中から毎年七名が国際審判としてFIFA(フイファ・世界サッカー連盟)に登録されて、国際試合のレフリーをつとめることができます。神奈川県では一級が五人、二級が約五十人、三級が約二五〇人登録されており、四級は二五〇〇人位と思われまます。私自身まだ経験が浅いのですがレフリーというのはやればやるほどむずかしいし、ルールは簡単なようで読めば読むほど味がある?とそんな感じがしています。

最後に得点に関するルール問題を10問出しましたので暇つぶしにやってみて下さい。得点になると思うものに○、得点にならないと思うものに×をつけて、×の場合にはレフリーとしてどういう処理をとるかも考えてみて下さい。答は最後についていますが八問正解なら合格です。

- 問一 スローインしたボールが直接相手ゴールにはいった。
- 問二 コーナーキックのボールが直接相手ゴールにはいった。
- 問三 キックオフのボールを思い切った直接相手ゴールにはいった。
- 問四 間接フリーキックを相手ゴールめがけていたらキーパーの手に当たってそのままゴールにはいった。
- 問五 シュートをキーパーがゴールライン上でおさえたがボールの三分の二はゴールの中にはいった。
- 問六 ペナルティキックをける前にキーパーが横に動いたがそのままけたらゴールにはいった。
- 問七 直接フリーキックのボールを味方のキーパーにバックパスしたらキーパーにさわらずそのままゴールにはいった。
- 問八 ペナルティキックをしたら当たりそこねて小さく前にころがった。そのボールを後から走りこんだ味方がゴールにけりこんだ。
- 問九 ゴールキックをしたら当たりそこねて二メートル位前方にころがったところへ相手選手がとびこんできてゴールにけりこんだ。
- 問十 ペナルティキックをしたらクロスバーに当たってはねかえってきたので同じ選手がヘディングでゴールにいった。

こたえ うしろからはつばつまるばつまるばつまるばつまるばつ。



親子の対話が豊富に

コーチ 田 辺 昭 治

たちばなキッカーズが出来て、十五周年と言う事ではありますが、これは大変な歴史の中にある重みと、伝統が築き上げてきた物であります。その中身はというと、キッカーズの創立者である曾田監督の業績であると思います。我々からは想像しえない図りしれない努力と、サッカーに対する深い情熱があり、そして何よりも子供達を愛し、そこから生れてくる色々なドラマが今日のたちばなキッカーズを支え、更に大きく発展させて来た事であると言えるのではないのでしょうか。子供達にサッカーを教える、これは、プレーその物を教えるのであれば比較的簡単かもしれません。しかしそれよりも、もっと大きな一つの目的があると思います。子供達がボールを蹴るドリブルをする、そしてシュートをして、点を入れる。この得点をするまでの過程をプロセスとして大切に、一人ひとりの個性を伸ばし子供達がそこから自信がつき、又生れ、一人の力で勝つたのではなくチーム全員の力で勝つたのである事を教え、負けた場合についても自分たちのどこが悪かったのか、未熟であったかを考えさせ、そこから何事に於てもやれば出来る事を教え、出来たら誉めてあげる。誉める事によって個性を伸ばし、更にその個性を充分引出し、発揮させる場を作ってあげる、監督の抱擁力のある指導方法として、今まで引継げてきたのではないのでしょうか。

親としても子供をたちばなに入れて、今迄はサッカーを全く知らなかった親御さん多いと思います。しかし自分の子供が一つのスポーツを知り、ルールを覚え一生けんめいやる姿を見た時、本当にサッカーをやらせて良かったと思います。親子の対話もふえ、勝った時の喜びを知り、負けた時のくやしきも知り、子供が心身共に大きくなって来たなあーと

思う時も幾度かありました。

一方ここに、たちばなキッカーズが十五周年を迎えられたのも、お父さん、お母さん方の理解と御協力があったからと深く感謝致します。特に毎土、日曜の練習に始まり、冬の寒い日、夏の暑い日の試合には、応援やら、つきそい、そして子供達の身回りの世話を頂きました。このような御協力があってこそ、子供達を始め監督コーチも安心して試合ができ、更にたちばなが前進できると確信しております。

最後にたちばな、みんなにお願いします。サッカーに強くなるだけでなく勉強も一生けんめいやる事を約束して下さい。サッカーも、じょうずになったかを試すのが試合です。学校も同じように毎日勉強するのが練習で、できるようになったかを試すのが試験ですから、勉強もサッカーも同じだから両方ともガンバろう！



たちばなを語る



座談会出席者

監督 曾田 大島 佐野

先 生 池畑 佐藤 笠松

父 母 大場 田辺 岩崎

司 会 谷 嶋

吉 村

創立のころ

司会 皆さんお忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。たちばなキッカーズも十五周年という記念すべき年を迎えまして、今日は皆さんに十五年の思い出ばなしをしていただきたいと思っています。はじめに、創立当時のことを曾田さんお願いいたします。

曾田 たちばなの創立の日というのは、43年の11月23日に朝早く集まって練習をやった、それを創立の日としておるわけです。それに至る経緯というのは、港北区の体育指導委員協議会が少年のサッカーの指導方法について講習会をやるといので、当時私は日吉団地の体育指導委員をやっていたので、その講習会に出たわけです。その時の指導者が横浜協会の人達です。そしてその日の講習会を終了して地区へ帰り少年の指導をするならば区役所からゴムボールをくれるというのです。それがきっかけで、サッカーチームをつくることになったのです。最初私の上の娘がクラスの男の子十何人かを集めてきたのです。それ以前も私が下田小のすぐ近くでしたので運動不足にならないよう校庭で夕方よくボールをけていると子供たちが来て一緒にやるようになって自然とチームが出来たのです。初試合というのは、その翌年、つまり44年8月五年生以下でやり、相手チームは日吉町の若草クラブという子供会でした。当時、た

ちばなという名前はありませんでした。

司会 その頃ゴールはありましたか。

曾田 ありました。学校は、非常にさかんでした。下田小はサッカーを奨励していて、サッカーの好きな子が大勢いました。当時中山先生が体育主任で指導をしていました。

司会 その頃、池畑先生はいらっしゃいましたか。

池畑 僕は42年に下田へ来ましたが、当時は低学年を受持っていましたし、サッカーは全然やっていませんでした。

曾田 その年(42年)9月に今のシュート板と同じようなのを作りました。あそこにロクボクが有ったのですが、体育の時もあまり使っていないようなので、シュート板にかえたらどうか、お金は私が一部負担してもよいからと申し入れた。当時の柏木校長先生が「いいですね」とおっしゃり、早速予算を取ってくれました。当時としては、かなり英断だったと思います。その頃、横浜市内でシュート板のある学校などほとんど無かったと思う。

池畑 駒林小のは慶応の普通部にあったのを五年程前にいただいたものです。

曾田 その年44年秋にぜひ試合を経験させてやりたいと思っていました。公式戦はなかった。下田小には朝日というレギュラーばかりのチームがあり、その朝日の子らに若草クラブと日吉南小のチームを呼ぶから試合をしないかと話を

し、四チームでリーグ戦をやりました。朝日がだんぜん強くてたちはなは三位になった。

司会 その時、たちはなという名前はあったのですか。

曾田 四チームでリーグ戦をやった時「たちはな」という名前をつけたような気がする。下田小の校章がたちはななので、子供達と相談して下田小ゆかりのたちはなしようと思った。その次の年に朝日はなくなって三チームで試合をして、日吉南が中学生が入っていたので強くて勝って、たちはなは二位になった。46年に、横浜サッカースポーツ少年団が結成された。その生みの親が今の市スポーツ少年団の部長の片岡さんで、たちはなにも組織を作って仲間に入れと呼びかけがあって山王谷など12チームと一緒に加盟しました。その年7月、第五回全国スポーツ少年団サッカー大会が行なわれたのですが、当時は横浜地区で予選をやり二チームが県の大会に出て優勝したチームが読売ランドの試合に出ることになっていました。横浜地区では、たちはなと山王谷が勝った。うちはその頃あまり強くなかった。横浜では原小学校が抜群に強くて二回戦でその原と会うことになった。それに勝てば代表になれるというので張切った。その時は池畑先生が主に采配を振ったんですよ。

池畑 保土ヶ谷の常盤公園でやりました。徹底的に攻められて逆襲の一点で1対0で勝った。

あの時の一点はよく覚えていますよ。

曾田 あれで非常に意気があがった。強豪の原を敗ったという事で、とにかく全力をつくして勝った。それは三期目位ですね。ただし、その時のメンバーのほとんどが学校の池畑先生の指導の子供達でした。

司会 それで一躍たちはなの名が上ったわけですね。

曾田 県大会で原が優勝するとうわさされていた、その原を敗ったので氣勢があがった。

司会 県大会はどうだったのですか。

曾田 山王谷は準々決勝で負けたと思う。うちは準決勝で鎌倉の御成小学校とあたって1対1でタイムアップになり、昔はPK合戦はなくジャンケンで決めていたが、その年から日本協会のルールが変わって五人ずつのPKで決めることになってPKで負けました。互角であったが四人目をキーパーが防いだと思ったら、審判がキーパーが足を動かしたということでやり直して負けた。大変惜しかった。たちはなは涙をのんだわけです。その年に初めてスポーツ傷害保険に加入しました。46年秋にユニフォームも決めた。それまでは体操シャツや学校のユニフォームを借りて出た。その年に国際テレビコに参加した。当時は高学年はジュニア、低学年は、リトルといっていた。ジュニアはメンバーが、集まらずあまり振るわなかった。そのかわり、リトルがえらく活躍してくれて山王谷に勝って

準優勝をした。その時のメンバーが岩崎君、大場君などです。その時は原が優勝しました。その辺が初期ですね。

司会 池畑先生、たちはなの思い出、御苦労などお聞かせ下さい。

池畑 子供の指導では苦労はしなかったが、自分がサッカーを知らないし出来なくて苦労をしました。子供におそわりました。46年度の卒業生は中学にいったほとんどが続けていました。たしか関東大会で優勝している。そのイレブンのほとんどがたちはな出身で鼻が高かった。一番記憶に残っているのは先程の常盤公園での原との試合ですね。それと外国人チーム、セントジョセフとの試合ですね。46年の頃から私立の中学に行くため塾に行く、その関係で出られない子供が増えてきた。今も同じですね。それからその年に規約を作りました。それまでは曾田さんがポケットマネーでやっていたのですが、会費をとったということでした。か月百円でしたかね。私はあとはどなるだけでした。とにかくたちはなで教わって育ててもらいました。四年くらいでしたかね。48年に駒林小に行きました。一年間はたちはなに来てやっていた。久保寺、竹内、鈴木とか仲間も強くあったですね。あの子達は自分達でフェイントを考えたとかいって練習していた。一つ教えて自分達で工夫してやってごらんと云うと皆で工夫し、相談してやっていた。たちはなの良さというのは自分達

でやっていくところがあり、しかも和気あいあいとやっている、すばらしいですね。

遠征から合宿

司会 たちはなは五十三年に、清水へ遠征試合に行きましたが、当時はどうでしたか。

末山 全国大会県予選、準優勝、関東大会優勝、を期に十二月二十五日より三泊四日で清水より招待されました。宮城、埼玉、東京、京都、広島などから二十五チームが集まりましたね、たちはなは優勝の町田FCと同じブロックで、四勝一敗の成績でしたが得失点差で二位、決勝リーグで八位でした。

司会 今年は北海道から九州まで集まっていますが、選抜チーム的なところが多いですね。

曾田 あちこちから良い選手の寄せ集めでチームを作り全山梨とか全広島とか、単独のところは少ないですね。単独のチームではたちはなは一位でしたね。たちはなは八位でしたが、それ以上は全部選抜チームでした。

司会 駒林では合宿をやっているのですか。池畑 やっています。ただし学年単位ですから、学年の指導者がすべて、計画から実行まで考えてやっています。

司会 たちはなの出雲合宿は何年ごろでしたか。

岩崎 四十八年夏でした。

司会 どうしてはるばる出雲まで行ったのですか。

岩崎 曾田さんの郷里が島根ですので、夏休みに帰られる時、「むこうは空気が良いし、サッカーも盛んだから、たちはなの子供たちも一度つれてゆきたいな」とおっしゃった。それでは行こうと急に決まりました。

司会 何人位でしたか。

岩崎 三十人位でした。五、六年生だけでしたから、往きは新幹線で岡山まで、帰りは京都をまわって寝台車を利用しました。一週間の合宿はかなり長い方でしたね。池畑先生にも一緒に行っていたら、お世話になりました。

司会 その他エピソードとか印象に残っていることは。

岩崎 三十人からの子供の洗濯を毎日風呂場のあいている時、手でやったので大変でした。地元の子供達が、大社駅の前に並んで、出迎えてくれたのはびっくりしました。皆色が黒くて大きくて、こちらの子供がいかにも弱々しく見えて圧倒されましたね。学校も校庭や体育館を開放してくださって、全町が歓迎してくれた感じでした。

曾田 むこうのチームの指導者も副校長も私の母校（大社中学）のサッカー部の後輩でした。

岩崎 テレビや新聞にも出ましたね。

司会 子供達にはそれが非常に励みになりました。試合は何回位やりましたか。

曾田 一日、二、三試合でした。A、B二チームともやりましたが、たしかメインの試合は三対一で負けました。むこうが一番強い時でしたから。

岩崎 試合の前にベナントを交換するというので、前日の夜池畑先生と子供達で一生懸命作ったんですよ。

曾田 それから海へも行きましたね。子供達には忘れられない思い出でしたね。

司会 出雲の合宿が第一回目、その後の合宿は。

曾田 五十年に富士緑の休暇村が出来、村上さんのお世話で行くようになり、今年で九回目です。

司会 舞台を富士山麓に移して、一回目の合宿から参加して下さっている佐野さん、地元チームとの試合などは。

佐野 地元、西からチームとの交流が三年間続き、朝日新聞では必ずたちはなの事を取りあげてくれましたね。一回目は「山の子供と海の子供」とか、二回目の時は、横浜から椿の木が何か預かって行き、長いメッセージを読まされました。

司会 ナイターはいつからですか。

佐野 最初からですが、暗いから危険だという事でやめて、夜はルールブックの説明などをやりました。いねむりをしたのでそれも止めました。五十二年にセルジオが来てミニサッ



カーを覚え、その後体育館でミニサッカーをやる事にしました。

大場 最初の時はキャンプファイヤーとか、お化け大会、肝だめしなどをやりましたね。

佐野 今はミニサッカーだけです。かくし芸大会は子供達のアイデアです。あれも低学年から高学年まで、皆んなで考えてやっていますね。

司会 佐藤さん昨年初めて行かれていかがでしたか。

佐藤 合宿とはどんなものか楽しみで参加しましたが、環境が良いということが第一印象で

すね。

大場 緑の休暇村は風呂も大きいし、やかしい事も言わないで自由にさせてくれるのが、よいですね。それに蚊もいせんからね。

司会 合宿で大きな怪我などありましたか。

佐野 二回目の時でしたか、スポーツテストの時スローイングをして手を折った事がありました。

曾田 熊木君がころんで手を怪我した。サッカーをやっていると足を怪我するかと言うとかならずしもそうではない。下半身は日頃練習しているんで、ころべば手を怪我する事が多い。ころび方が悪くて怪我をするのです。

永田 普段の練習試合の時、ヘディングを競い合い、ぶつかってころんで手の骨を折ったケースがありました。怪我をするのは一寸したはずみです。

曾田 合宿では楽しくて寝不足になりがちです。完全に目が覚めきらないまま朝練をやるのが、怪我をする要因ではないかと思う。

司会 緑の休暇村の近くに病院はありますか。

佐野 川口湖の近くにある。休暇村でも紹介してくれるし、車があるので即ぐ連れて行ける。

大場 それでは安心ですね。

曾田 怪我のことですが、学校ではどうですか。

池畑 学校でも多いですね。多いのは体育の

が集団生活で身につく、これも遠征とか合宿のひとつの効果ではないでしょうか。

陽気なちばな

司会 笠松さんはちばなの指導をして何年位になりますか。今の後輩を見て何かありませんか。

笠松 三年位です。合宿には三回参加しました。技術的には比較にならないほど上手です。今の子はくやしさを表面に出さない気がしますね。

司会 くやしさということですが、合宿に行つて部屋別対抗試合に負けると涙を流していますが、帰って来ての試合では、そんな事ありませんね。駒林は泣きますか。

池畑 泣きませんね。けろっとしています。監督がこわいと深刻な顔をしています。が、やさしいとけろっとしています。この辺の特長でしょうかね。いい性格というべきなのかな。

司会 合宿の時のくやし涙が、本番の試合にあったら一歩前進するのではないかと思います。笠松さん、どうですか。

笠松 試合に負けて泣いた事はないと思いますが、点を取られてくやしかった記憶はありますね。

司会 泣くと言うことだけでは無いのですが、気持の表現が合宿の時にすごく出ますね。

前島 普段自分達の仲間としてやっているのが、お互に戦うでしょ、それでくやしさが倍加されて出てくるのでしょうか。

佐野 そうばかりとも言えないでしょう。池沢君の弟はどんな試合の時も負けると泣いていました。

曾田 本間君も負けるとおいおい泣いてしまふ。負けてくやしがる点においては、今の子と比べると三倍も四倍も異なりました。練習をやっているでも自分の側が不利になるとカッカとしてきて、くやしがる、本間も池沢もそれだけ夢中になっていたわけです。そういう時は強いですが、負けたくないと言う気持ちが結集される時は、チーム全体のレベルも上がってきます。

大場 家の子が県の決勝戦で負けた時、涙は出ないんですが唇を咬んで血を出しているのです。それを見ると本当にくやしかったんだなと思えました。くやしがり方でも表に出す子と出さない子があるんじゃないかと思えますね。

司会 駒林の生徒の性格はどうですか。おとなしいと聞きましたが。

池畑 同じではないですか。ちばなの子は明るいですね。陽気な面があります。駒林の子はしぼんでしまふ。

末山 それは中学生にもありますね、ちばなの子はふぁーっとにぎやかな感じで、駒林の子はひかえめです。

池畑 となりすぎたですか。(笑い)

時間、遊び時間です。骨折の多いのは、運動能力が低下しているということです。怪我の予防といってもむずかしいですね。ことにサッカーはげしいからね。学校の場合、今年から障害保険が健康会となったんですが、保障してくれまふ。

曾田 サッカーを始める前に準備体操をやるのが常識とされていますが、池畑先生のお考えはどうですか。

池畑 知らないですね。まずボールを持って遊ぶことから始めたらいいんじゃないですか。

司会 笠松さん、今の合宿はどうですか。

笠松 自分達のときは、皆んなで行ったと云うことがないから、今は良いですね。

曾田 当時合宿が無かったので、一番遠くへ行ったのが千葉の常盤平遠征です。四十人位を一人で連れて行きました。笠松君が六年の時です。中目黒で電車を乗りかえたら一人二年生が乗りかえず渋谷迄行ってしまい、発車してからいない事を発見した、次の恵比寿で降りて、笠松君にたのんで皆んなを待たせて、渋谷へ探しに行きました。幸い見つかりましたがね。

笠松 二年生位で入っている子は、めずらしかったですね。

末山 ミニサッカーに行ったとき、食事で茶碗蒸しが嫌いな子供がいた、しかしこの時から食べられるようになり帰って来てお母さんからお礼をいわれた。家庭ではなかなか直らない事

これはコーチ陣の人格が投影されるのではないかと思います。私自身は負けるとくやしいですよ、子供にそれを植え付けたいのですが、相手がちょっとでも強いと、しぼんとしてしまふところがあります。その点ちばなの子は、陽気に試合に臨めるところが素晴らしいですね。

司会 同じ涙を流すにしても、うれし涙を流してほしいですね。

永田 試合に敗れたくやしさを表に出す子供と人一倍持ちながら出さない子がいますね。今の子供達は万事に恵まれているので、試合に勝った時の嬉しさ感激だけでなく、負けた時のくやしさ、挫折感を味う事も子供達の将来にとって有意義な事だと思います。

曾田 毎年選手の中に一人か二人非常に明るいのがいて、そういう子がチームの雰囲気を作つてゆくのです。今頭に浮かぶのは、鈴木孝春のキャプテンの時、竜野なんか非常に心臓が図太くて、強い相手の時は張りきって、弱い相手の時はへまばかりやるような、ああいうタイプの子が年に一人か二人かならずいるんですね。

佐野 体全体で喜びを表わしますね。ああいう陽気で明るい子供がスポーツの世界では良い方へ向かわせてくれますね。

指導方法について

司会 先生は駒林で教えていられるわけでは

が、昔と今の指導法で変ってきた点などありました。

池畑 変った点は、昔はバスゲームということで、ボールを持つ前からパスが先だった。最近ではボールが持てないとパスも出せないし、小さい内には、ダンゴになっていくのですが、ドリブルが先で、あまり規制すると動けなくなってしまうので、その点、昔と少し違ってきていると思う。最終的にはバスゲームですから、高学年でドリブルが使えると更に有効なパスが使える様、今考えています。

司会 そうですか。駒林はなかなか攻撃的なサッカーをしますからね。

池畑 たちばなの子供達は、そんなにフェイントとかドリブルを使えなくても、うまくいったですね。大人が教えるとかえって沢山知っていてもそれを一つも使えないということがありまうからね。一つ二つ知ってれば、それを使えば有効ですからね。

曾田 自分で会得し、自分で開発した技は、これは本物ですから、そういう雰囲気を作ってやる必要があるでしょう。大人から教えられて覚えたフェイントというものは練習の時は使えても、実際の試合には、なかなかうまくいきません。

池畑 例えば四十五年の小山君達は、教わったのではなく、自分達で色々な事を考えてやっていますからね。

曾田 そうですね。体が動かなければいけません。今、小山君の話が出ましたが、ご存知ないかも知れませんが、現在日本リーグの日立製作所のレギュラーで昨年の秋頃から、試合に出るようになった。日立で活躍していますから、日本では一流選手です。そういうたちばな出身の選手もいるわけですね。

大島 池畑先生は駒林でSLの指導をしています。SLの指導法は、どうやっていますか。

池畑 SLの指導法といっても、特にないですが、とにかくドリブルと一対一ですね。

曾田 リフティングなども幼稚園からやっているのですか。

池畑 無理ですね。とにかくドリブルです。司会 ここで指導者として、高学年のコーチでいられる大島さんからこれからの指導について、お話し下さい。

大島 指導は子供達に勝手にやらせて、自分も一緒に遊んでいるという指導です。サッカーをやっていたから、こういうことをやったらどういふことになるかということを考えさせる様な指導法ですね。一方的に押しつける指導をしたら子供はのびないと思います。好きな事をやらせてその中で自分達のチームのプレーを生み出す様なチームになるのが一番良いのではないかと思います。これからの方針でやっています。

司会 佐野さんはいかがですか。

佐野 まったく同感ですね。

司会 永田さんは。

永田 低学年の場合は高学年とやり方を違えなければいけないと思います。Bチームですと三年生が入って来ます。サッカーって面白いな、楽しいなと思わせるのが第一段階です。今は田辺さんと前島さんがやってくれています。とにかくボールを持たせて遊ばせること、それから練習試合ですね。何といても試合をしないとつまらないわけです。三十分位他のことをやらせると試合をしようといひてきかないのです。半分でもいいですから全員を試合に参加させると、その内に自分でやる気のある子は練習以外の日もボール遊びをやったんだんうまくなってくるというわけです。Bチームは勝たなくてもよいから、皆試合に出してやるというのが私の主義です。但し三年生で次の年に大島さんのチームに入れる子供は後半頃から大分きびしくします。Aチームになるとたちばなは弱くなったと言われてもこまりますから。大島さんの言われた様に押しつけてなく、子供達が自分達で工夫して、たちばならしい試合をやるということを守っていききたいと思っています。

司会 指導というがキッカーズの一つの練習方法は、変わらないというコーチ方の気持ちもわかりました。末山さん、よくたちばなの子供達を見て注意というか、こういう様にしたらいい

いということがありました。

末山 指導者がそれぞれあくまでもAチームもBチームもサッカーを好きでいなくて六年を終らせて中学までやらせていただけなら、最近問題になっている非行少年もいなくなるだろうし、なんとか指導者が一緒になって考えていってほしいです。

司会 前島さんは指導者とお父さんの立場でどうですか。

前島 もう一人子供がいるのであずけたいなと思う位は入っています。子供がのびのびできるというのが何とも言えない魅力です。ちょっとしたヒントから子供達が考えられる様に我々は育ててあげなければいけないなあとと思っています。

田辺 一番小さい子供達のめんどうを見ているのですが、実際、靴のひもの結び方も知らない子供とか、おとなしいので活発になるよう期待されて入って来た子供、スポーツをやって健康になる様に入ってきた子供達もずい分多く見られる。低学年のうちにはそんなにきびしく眠る必要はないと思うので、ドリブルを重点的にやらせてボールになじんで楽しく皆で出来る様な体制にしていきたいです。

前島 低学年の子供にむづかしい事を言っても無理で、とにかくボールと仲良くなりなさいと言っています。

司会 笠松さん、どうですか。



笠松 小学校の内はやりたい事をやらせた方が良いでしょう。自分もやらせてもらっていたし上から押えつけられると反発というより従ってしまうし、そうする事によって型が決まってしまう。大学時代の経験ですが、コーチや監督はいないのです。強い所だと監督やコーチがいてこうやれというわけですが、それをやってしまふともうチームとしてうまくいかなかったのです。まあたちばなの延長みたいなものですがコーチがいなくて外のチームからみれば遊んでいる様に見える。やりたい事をやって、いろいろな面白い練習をやって皆がうまくなるという方

向へもっていった方が結果的には良い成績を取られた。小さい時はあまり型にはめない方がどういふ方へ延びるかかわらないのいいと思います。たちばなの方に賛成ですね。

勉強とサッカーの両立

司会 サッカーを通じて人間形成をというところもある。親も協力してもらおう。コーチも気持ちよく指導していくという事です。勉強とサッカーの両立ということで永田さん先輩としてそのことを何かお話し下さい。

永田 私の子供の実例から申しますと、五年生迄はサッカーだけでしたが、下田小の場合は六年生になると友達達が皆塾へ行きます。早い子は三年生位から行っています。子供もその風潮に感化されて塾へ行きたいと云い、六年の四月から週に二回塾へ行きはじめ、普段は夜ですからサッカーの練習、試合には影響ないですが、秋の市の大会及び県大会では、模擬試験を受けて、その足でろくろく練習もしないでかけつけたり、欠席したりでチームには大変迷惑をかけた。先日、三、四年生の子供達に、子供は勉強するのが本業だから、サッカーだけでなく勉強もやらなければいけないと言ったら、子供はよく知っています。西中は成績が悪いと部活が停止になるのだと言っていました。高学年での塾通いはさけられないことですね。塾へ行

く子供はサッカーをやめてくれとは言えませんが、又そこらへ重点を置いた子供はレギュラーからははずさなければいけませんし、これはコーチが割り切らなければなりませんね。ただ六年卒業する迄サッカーを続けさせてやった方がよい思い出ができるのではないのでしょうか。

曾田 是非受験する子供も卒業するまでサッカーをやめてほしいですね。受験間際になればこれは大変だから練習を休むのであれば一時期レギュラーからははずされるのは仕方ないです。だからやめてしまえというのはその子供にとって不幸ですね。無理やり親からやめさせられたのでは精神衛生上からもよくないし、反って受験に良い結果をもたらさない場合もある。

司会 田辺さんのお子さんは、サッカーをやっている時は、どんな遊びをやっていますか。

田辺 囲りがサッカーをやっている遊びの中からサッカーを覚えて二年から入れてもらいました。勉強の方ですが、永田さんが言われた様にキャプテンになったのだからサッカーだけでなく勉強もやるように動機づけをしたのですが、サッカーをやっている勉強となると体もつかれてうまくいかない様です。キャプテンになって自覚が出来たのではないかと思う。遊びとなると囲りが皆塾へ行ってしまっていて遊ぶ子供が決まり二人ぐらいになっている。自分でも気がついた様に親の方では、はつきり勉強とサッカーは別なんだよという意識づけを持っていないと、

割り切れないと思う。

司会 池畑先生、勉強とサッカーとの両立又は遊びについてどう考えですか。

池畑 僕は小学校の時は遊びで結構という意見に大賛成です。子供達に勉強しろと言っても自分から進んでやる子はまずいないと思います。というのは人間というのは生きていくのに目標があつてそれに向って生きていくのであつて小学生の場合は目標がはっきりしないのですよ。中学生になると別ですが……。だからいつもお母さん方に何でもいから小さな目標を一つこしらえてあげてそれに向って行く様な生活をさせたらどうですかと言うのです。サッカーが上手になりたいという目標があつて、うまい子は試合に出て勝ちたいという目標があつて次々目標が設定されていくと思います。学校の勉強も目標をもたせるのが第一だろうと思う。勉強しなさいだけではわからないのですよ。

司会 笠松さんは現役時代どうでしたか。勉強とサッカーと？

笠松 勉強はぜんぜんやりませんでしたね。**司会** サッカーをやる人は頭が良いそうですから。(笑い)

曾田 それに関連して笠松君が小学校六年の頃、何でも自発的にやりました。サッカーでもそうですが、例えばたちはあの歌がほしいなと言えば、僕が作ると言って考えたし、ユニホームが欲しいと言えば、デザインするし、そういう

う積極性が今、池畑先生が言われた目標をもたせるといふか気持ちを集中させることになるので、自発的にやる一つの仕方だと思う。自分から進んでやるということが、いやいやながら、押しつけられて勉強やるよりは、スポーツの方を自分から進んでやるという工夫をしてやるのが大事です。そういう気持ちがあつて自発的にやるくせがついた子は中学に行つて今度は自分でやらなければいかんという自覚が出てきますよ。小学校の時代は無理にやれやれという必要もないと思いますね。

運営は自主的に

司会 今年から、SLも認められたということで、コーチの皆さんは本当に大変なことだと思います。山本さん、吉村さん、そのへんの御苦勞はなしでも一つ。

山本 皆、楽しんでやっています。苦勞はなしと云えば、監督はじめコーチの奥様の陰のご苦勞が大変だと思えます。日曜祭日なくお弁当を作つて朝早く送りだす奥様方に、いつも感謝しています。

吉村 監督さんのお考えが、とにかく自主的にということですのでその様にしています。他のチームは役員とかを年度の始めに決めているところが多い様ですが、たちはなはあくまでも自主的にという考えで、出来る方が無理をせず

ということなので、自主的に楽しみながらやらせていただいています。

田辺 自分の子がたばなに入つて、どうゆうふうに行っているか一度は見る必要があるのですがね。

曾田 古くからのチームの中には、育成会があつてその育成会のメンバーの中に親ごさんが入つて金を出したり奉仕をしたりして、チームを盛り立てるといふことです。親の会というのがはつきりしている役割もある。

大場 キッカーズも前から後援会を作ろうという声もあった。

曾田 先程、吉村さんも云われた様にたばなの場合には組織だったものでなく、あくまで自発的にやっていたにいます。この方が大変なことでもありますけれど、たばなの伝統として組織なしでやっておりますので、一方では何にもしない人がいますし一方では何もかも縁の下の力もちでやって下さっているお父さんお母さんもういっしょに。後援会を作つてはつきりとクラブの運営をやっていくのと、どちらがよいかわかりませんが。

大場 キッカーズが幼稚園から入れる大世帯になつたら、キッカーズを盛り上げていく意味で後援会が必要ではないですかね。

司会 駒林はどうですか。

池畑 こちらから規約を作つてセットしているから、学年単位のチームです。父母会も学年

単位でやるし、総会は年一回ということの中で役割分担を決めてしまうので、自主的にというわけにはいきませんが。

大場 それでないと何もかもキャプテンのお母さんに負担がかかって来るのではないかと思ひます。それは別なのですけれどね、又盛り上げるために会長さんが居てというのが良いと思ひます。人数が多くなると後援会があつた方がよいと思う。

司会 たばなも十五年を迎えたわけですから、これから二十年三十年と続いていくとするとそれが必要かも知れませんね。いかがですか佐藤さん。

佐藤 やはり、今監督さんがたばなは後援会なしでいくといわれていますから、それでいいのではないですか。

前島 後援会を作つて大がかりにやるとそれはそれで良い面もあるでしょうが、今のところはこれで充分ではないかと思ひます。OB会を作ろうという話も出ています。

グラント確保の苦勞はなし

司会 子供達がサッカーを練習するのにグラントを取るが大変だと思ひますが、田辺さん

田辺 ガス橋を取るの大変なんですよ。大田区に住んでいる人の名前と住所を借りて、十人位で行つて四、五十人位並んでいる人がくじ

を引くわけですから、なかなか予定の日が取れないのです。

司会 なかなかグラントの確保に苦勞しますね。新日鉄は、どう取っているのですか。

田辺 お願ひしてあるのですが、五月はほとんど空いてないですね。

吉村 新日鉄が月一回定着して取れていたんですけどそれもだんだん難しくなつてきました。今は、ガス橋と新日鉄と西中のグラントを使用させていただいています。Lは広いグラントでなければ出来ないですが、Lは小学校のグラントでいいのです。最近高田小学校のグラントも使わせてもらっています。グラントの後片付けも大変気を使うことですね。子供に手伝わせることも大切なことです。

司会 学校のグラントで練習をやっています

吉村 人数が大勢いるので、百人で五チームが七時から十二時まで交代で一つのグラントを使うので、全体が試合形式で練習出来るのは、一チーム一時間位ですので充分な練習が出来ません。練習試合で外へ出たいのですが、グラントの確保が思う様にいかず大変です。

田辺 運動場の方の苦勞ですね。前の日に雨が降るとどうしてもぬかってしまうのです。子供はそれでもやってしまうんですが、そうするとグラントがいたむので学校から注意を受けるのです。

司会 朝の自主練習にお母さんが出ていますね。自主練習の仕方監督やコーチにお願いなどありましたら。

田辺 最近、中林さんが都合のつく日に朝出てきて下さっています。監督さんとの話し合いでチームを作り三チームで試合形式、一応、カップも出すということで子供達も張切ってやっている様です。

これから向って

司会 ここで総体的に今までのお話しの流れをまとめていただきたいと思います。

永田 そうですね。サッカーが好きだからといってサッカーばかりになってはいけません。学校に行くのは何のために行くのかと考えて勉強もやらなければいけないと思います。うまく両立して行ってほしいですね。

曾田 いろいろと意見が生まれて、特にたちはならしい指導方法とかムードとか出た様な気がします。その良いところは今後も大いに伸ばしていくということで、我々も反省しなければいけないところも沢山ありますので、そういうところも頭の中に置きながら、クラブの運営をやっていかねばいけないと思いますが、サッカーを楽しむということが一番先のことです、楽しませるための力添えを我々がやっている、ドリブルとかリフティングとか、その他いろいろ



その結果、いつのまにか喘息が治ったとか丈夫になったとか、何でも一人で出来て精神的なたくましさが出て健康的になってきたということを我々は望んでいます。たちはなが出来て、いつの間にか十五年というわけで、月日の経つのが早いなあと思います。笠松君の様な立派な先輩が大勢でいて、サッカーの面だけでなく実社会でも立派に活躍していることは指導していく上で励みになるという気がしている。それをお父さん、お母さんが縁の下でささえて下さって、今後、更に二十年、三十年立派なクラブとしてほしいと希望しているわけですね。

司会 それでは、この十五周年を記念しての座談会は終わらせていただきます。皆様ありがとうございました。



曾田夫人とキッカーズ

沢村 原下 沢原
池 中 松 木 安 篠
出 席 者
司 会

たちはなキッカーズもいよいよこの秋には、創立十五周年を迎えるわけですが、その間には沢山のコーチの方や、父兄、周囲の方達の御努力と献身があったからだと思うのですが、これはひとえに、曾田監督御夫妻の、本当に言葉には云いつくせない、ボランティア精神のたまものだと思います。今日はたちはなの創世期から、初期何年間に御世話になったお母様方に集って戴いて、その辺の所をうかがってみました。

お忙しいところをどうも！ たちはなキッカーズは最初どんなことで始まったんですか。
Aうちの子供達が入れて戴いた頃は、もうたちはなは大きなチームになっていたんですが、

確か最初は曾田家にお嬢様のお友達、遊びに来て居て、監督がサッカーを教える上げて居る中に、段々と輪が広がって行ったと云う事をうかがった事があります。

Bうちの子達の頃は、今の様な連絡網がなかったわね。曾田監督の所から御近所にいらした池沢さんを通して、子供達が学校で試合の予定やスケジュールを聞いて来てたんですよ。C変更になった時なんか、曾田さんの奥様が、それを皆に伝えるのに大変だったわね。

A奥様は本当に大変だった。会計から下準備、試合の申し込みから、ユニホームの仕入れ、と今考えると御一人でその労力たるや申し訳けないの一言ですね。

B一人一人を自分の子供と同じ様に、めんどろを見て下さった。うちの子なんか今頃になって、「監督とは別の意味で、オバサンには、お世話になったナ」なんて云っているのよ。

D奥様の子供達の御世話の大変さを見て、暗黙の内に我々親達も、試合に参加する様になって、その内、自分達も楽しみながら協力させて戴く様になったわけだけども……

Cそう自発的にね。
レギュラーの子の親も、補欠の子の親もよく試合に来てたわね。

B人数が増えて来ると、それも段々むずかしくなって、今は何となくお当番になって了ったけれど、自分達の子供が走ったり、蹴ったり

一生懸命やっているのを、時間が許すかぎり見て楽しんで戴きたいわね。

曾田監督御夫妻のお話をもう少し

Aたちはなキッカーズの特徴は、曾田御夫妻御二人で作上げた他のチームにはない伸び伸びとしたチームカラーだと思ふのだけども。

Bそう、人間的に大きくって小さな事を気にしないお人柄がよくチームに出ていると思うわ。D奥様も、大変な事が沢山あっても、それを顔にはお出しにならないし、子供達の性格や、技術をよくつかんで適切なアドバイスをして下さったわね。

A本当。奥様の影の力なくしては今のたちはなはなかったでしょうね。

C家には二人のお嬢様が居らしたのに、よその子の為に沢山の時間を削りて下さったし。

Bボランティア精神を自然に身につけておられたわね。

D世田ヶ谷にいらしても、雨の日も、風の日も校庭に出て、じっと子供達を見ていらしたのを思い出すわ。

Aそれでその頃の楽しさ、充実感が仲間意識を呼んで、今でも年二回奥様を囲んでの会を開いているんですよ。

これもひとえに奥様の御人柄でしょうね。これからも増々、キッカーズの為にも御元気で、仲睦まじくお過ごし載きたいですね。

はじめは、みんなこんなもの……

一期生(創立時マネジャー)

森田 葉子(旧姓曾田)

私 『パパがサッカー教えるけど、村上君おそわる?』

村上君 『行ってもいいけど、月謝がいるの?』
私 『さあ、わかんない。きいてくるよ!』

メキシコオリンピックの年の11月23日の事だったと思う。こうして我が『ちばなキッカーズ』は、私のクラスメイトへのクチコミで誕生。この日の朝、20人ほどの子どもたちが、元気に校庭をランニング、練習が始まった。

初めての対外試合は日吉地区の4チームで行われた。下田小の同じ5年生チーム、強豪『朝日』(このチームは当時の下田小代表メンバー)日吉駅近くに出来たばかりの、新鋭『若草クラブ』私たちが3年の時に下田小から分かれた日吉南小チーム、フアイトの『日吉南』そして我が『ちばな』。――優勝は文句なく『朝日』『ちばな』はくじ運が悪く?3位だった。

その後練習を重ね、宿敵『朝日』に勝った日のことは忘れられない。接戦の末、主将村上君が決勝の1ゴール/後にも先にも、たった一度の勝利だった

が、2週間ぐらい、みんなで浮かれまくった。この、のどかな時代の『ちばな』の歴史のひとつを思い出しては『はじめは、みんなこんなもの……かな?』と思ってしまう私である。

十五周年を迎えて

大村 山室
白鶴 横川
仁平

最近、キッカーズの歴史を、うかがう機会がありました。沢山の優勝カップやメダルを見るにつけ、諸先輩方の苦勞が思われます。十五年前の子供達も、ちばなでの経験を生かし、今では立派な社会人として活躍されていることでしょう。

月日のたつのは早いもので、私達の子供も、あつという間に学校を卒業し、社会人となるわけですが、……周囲の状況は、かなりきびしく変って来ているのではないのでしょうか。

ちばなの子ども達を見ていると、受身の姿勢が、終始しているように思われます。もっと積極的な、パワーのあるサッカーが身につくよう、この辺で、新風が吹き込まれる事を願っています。

▼下田小学校での練習風景



○やったぜと ガッツポーズも あいらしく
走る子のほほ 汗おどる

○幾年も 守り育てし ちばなの
技よ 心よ 永遠に榮えむ

ちばなキッカーズ時代の思い出

サッカー人生

二期 小山 栄

私が初めてボールを蹴ったのは、今から何年前になるでしょうか。

もう十数年も前の事です。はっきりとは覚えておりませんが、下田小学校の同じクラスの友人に誘われて、ちばなキッカーズにお世話になったのではないかと思います。その頃の私はサッカーというスポーツを全く知らずにいましたから、ちばなキッカーズにお世話になる時も友人がやっているから自分もやってみようという様な軽い気持ちでサッカーをやりました。

しかし、しばらくボールを蹴っているとサッカーには不思議な魅力がある事が判り、どんどんサッカーに引かれて行きました。ボールを蹴る楽しさ、ボールを止める難かしさ、今思うところから私のサッカー人生が始まっていたのです。

ある時、下田小学校のサッカーチームを作ることになり、人数を集め選手の選考が行なわれました。結果、運よく私は選手に選ばれ、当時、七人制(GK一名、DF二名、MF一名、FW三名)のチームのMFをやらせて頂き、日吉台小学校や日吉南小学校と毎週の様に試合をしていました。何試合かしておりますと、対人プレーとはいかないまでも敵がいる時のプレーなどいろいろな考えたりするようになりました。

中学校(日吉台中)に入学すると小学校時代に試合をした他校の友達

がほとんど集まり、みんながサッカー部に入学しました。細かな事は覚えてませんが私が入学した頃は戦績も素晴らしかったのではないのでしょうか。

高校は都内の学校でサッカーでは無名の駒沢高校に入学しました。

自宅が横浜市内であった為、時間の関係もあってクラブ活動はしないうちでしたが、サッカー部の練習を見ているうちに、やはり自分には、サッカーしかないと考え入学してから一ヶ月後にサッカー部に入学しました。高校ともなると先輩、後輩がはっきりしていて、一年生の時は、苦しい思いばかりでしたが、一年生の夏から私は試合に出る事が出来たのでそんな事は言われませんでした。

高校が大学の付属という事で、大学生とよく試合をしたり練習を見てもらったりするのが、その頃は大変勉強になりました。

当然の様に高校を卒業すると大学のサッカー部に入学しました。しかし、自分のサッカーが大学でどこまで通用するのか心配でありませんでした。私の入学当時、駒沢大学は関東リーグの下の東京都リーグでしたが努力のかいあって、秋には関東二部のチームとの入れ替え戦で勝ち、念願の関東リーグに名を連ねることができました。そして私が二年の時に関東二部リーグ一年目にして優勝し今度は、関東一部との入れ替え戦を行ないましたが一部との壁は厚く、大敗しました。

私が三年生の時、今年こそ一部の壁を破ろうと、関東二部で全勝優勝を果たし、二年連続の一部との入れ替え戦を行ないました。その結果、勝つことができ、念願の関東一部入りを果たす事ができました。

私が四年の秋は駒大サッカー部創立以来、初めて関東一部リーグで戦

二人の指導者

三期 鈴木陽二

かう事が出来ましたが、力の差ははっきりしており、気が付いてみれば今度は関東二部のチームとの入れ替え戦をやるはめになっており、結果は惜敗し、一年間だけの一部という最悪の状態になってしまいました。現在の駒沢大学は後輩の力で関東一部で堂々と試合をしております。私の大学時代は四年間、毎年入れ替え戦を戦かうという大変な四年間でした。

現在、私は日立製作所に入社し、今年で三年目を迎えました。学生時代とは違い、サッカーだけやっていればよいというものではなく、社会人としての自分の立場も極めて難しいものになりました。

サッカーの方でも昨年やっというリーグ戦などに出場することができましたが、自分としてはまだまだ他のチームに通用しない面が多く、また、これからの課題も多々あると感じております。

今後は、より一層「技術・体力・精神力」を身につけ、これからの日立のサッカーを背負ってゆきたいと考えております。

【追記】

日本リーグの名門、日立製作所のレギュラーとなった小山君は、現在同社龍勢寮（合宿所）に居る。先日電話で対面した。小山君がたばばに居た頃は、まだ揺らん期で（本書23ページ参照）ビッグゲームがなかったで記憶も薄れているようだ。たばば時代のチームメートの名前を挙げると、少しづつ思い出して非常に懐かしがっていた。二期後輩の笠松君のこともはっきり覚えていた。

私の方は、運動神経抜群だった少年時代のチョマ（当時のニックネーム）の頭のテッペンから足の先まで覚えている。高校大学時代、いわばアウトサイダーで苦勞した彼が、今度は松舞台で、魅力的なプレーを披露してくれるよう待ち望んでいる。（七月二十一日 曾田記）

私達が、下田小学校に在学したのは昭和四十一年から四十七年までだから、もう十五年も前の話になる。野球ばかりやっていた私達に、サッカーというものを初めて教えてくれたのは、下田小学校の池畑先生だった。

当時、私達は月曜日から土曜日まで、池畑先生のもとで小学校のクラブ活動としての七人制サッカーに明け暮れていたが、始業前の早朝練習放課後の練習の他、体育の時間でもサッカーばかりやっていた、サッカーが、下田小学校の校技の様な存在だった。しかし、そのころクラスでサッカーボールを持っている者は、一人か二人しかいなかったし、スパイクなんて持っているのは学年に二、三人しかいなかった様に思う。

そんな頃、たばばでは、まだ一学年で一人の選手が集まらなかった。そこで夏休みの全国大会の県予選を前にして、私達のクラブ活動のチームが、そっくりたばばに移籍することになったのである。私達はそこで初めて一人制のサッカーというものを、曾田さんに教えていた。こんなふうにして、なんとかして出来上がった当時のチームメンバーは、△GK△松井、△FB△栗山、渡辺、山下、鈴木、△HB△町田、舞山、船倉、佐藤、△FW△橋本、椿、横山、斉藤などと、懐かしい顔ぶれが並ぶ。たばばは、県下一のGK松井君を中心として堅い守りと、テクニシャン揃いの中盤から俊足のFWへとつなぐ得意なパターンで、勝ち進んだ。そして県大会準決勝。相手は名門、御成小学校だった。試合は、一ー一の接戦で延長戦でも結着がつかずPK合戦となった。そのPK合戦も接戦となったが、私達は僅差で敗れた。

現在、長袖、半袖のユニフォームが二着ずつ位ありますが、私たちの頃は、現在ではもう使われていませんが、元祖ともいえるべき、オレンジ色のユニフォームが一着だけでした。オレンジのV首で背番号は紺、ナイロンの紺のパンツ、オレンジのストッキングという組み合わせでした。そのユニフォームがまた、アクリル一〇〇％で汗をほとんど吸わず、夏は暑くてたまらないということで、私たちは、曾田さんに、夏の半袖のユニフォームを作ろうと頼みました。デザインは、たばばのシンボルであるオレンジを必ず入れるということで、私がしました。サッカーマガジンやイレブンを見て色々と考えたように思います。最終的に曾田さんに見せたデザインは、白にオレンジのふち取りで、左肩から下にオレンジの二本線を入れたものでした。結局、私たちは、このデザインのユニフォームは着ることができませんでした。私たちが下の代から、数年間は、この半袖のユニフォームが着られていました。このように、自分では着ませんでした。自分でデザインしたということもあって、このユニフォームは、良き思い出の一つです。

夏用のユニフォームが欲しい!!

どうしてたばばの歌を作ろうということになったのか、そして、なぜ私が作詞をしたのかということ、ほとんど覚えていませんが、六年生の秋頃に『たばば讃歌』という題名で歌を作りました。作詞は、私がやり、補作詞と作曲は、当時、愛敬先生の産休代行として来ていた、塩野先生に頼みました。確か、何かの時に公団の集会所で、みんなに歌を披露したことがあったと思います。曲の方は、今でも覚えていますが三番まで作った歌詞も、今では一番を覚えてる位です。一番の出し

十年前のたばばなキッカーズと私

四期 笠松文雄

私が下田小学校を卒業してから、今年でちょうど十年経ち、私も今年の春からいっばしの社会人となりました。たばばなキッカーズも創立十五周年ということで、月日の流れるのは、本当にはやいものだなあとつくづく感じてしまいます。しかし、十年経った今でも小学校時代の思い出、とりわけたばばなキッカーズのでき事は、昨日のこのように覚えております。日にちまでも覚えてる事もある程です。

たばばなキッカーズクラブ

私、たばばなキッカーズに入ったのは、五年生も終わりの頃でした。あの当時でもたばばの中では入るのが遅い部類に入っていたと思います。しかし、人数も少なく、五年生にしては体が大きいのと足が速いと

のフリーズに『胸に誇りのたちばなマーク』』というのがありますが、このマークは現在のもとは違って、私の一つ下の代の間瀬君のお父さんがデザインした初代のものでした。TKCという頭文字のデザインということでは同じでしたが。

「第四回横浜国際チッコサッカー大会」

私のたちばな時代で一番印象に残っているのは、やはり、国際チッコ大会であると思います。当時は、チーム数も非常に少なく、リーグ戦で行われました。参加チームは、たちばな、篠原つばめ、山王谷、YMC A、ジュニアサントス、本郷、セント・ジョセフカレッジ、そして、厚木のゴールプランターの計八チームだったと思います。なぜ横浜の大会に厚木のGPが参加したのか疑問を持たれると思いますが、当時、厚木には、ほとんど少年チームがなく、GPは、色々なところへ出ていて試合をしていたようで、国際チッコにも是非参加させてくれということに参加したわけです。結果的には、このために、たちばなは、華優勝に甘んじてしまいました。

他の六チームに勝ったたちばなは、三ツ沢陸上競技場でGPと対戦しました。この時、GPは、キックオフ時間に非常に遅れ、もう西の空が夕焼けで真っ赤になろうとしている頃、やっと三ツ沢に到着しました。一時は、不戦勝かといわれました。この時のGPには、背番号「0」のゴールキーパー、「ブルー」というニックネームのバックの女の子がいました。そして、高校時代においてもライバルとなった、相工大付のキャプテンだった菅野、相工大付から日本リーグのフジタ工業に入社した荒井の二人がいました。また、つばめには、同じく相工大付から日本リーグ二部の東邦チタニウムに入社した古谷がいました。

さて、試合の方は先取点を奪われ、苦戦しました。私のヘディングシュートが、逆からスライディングでつめてきたウイングの久保寺(兄)の足に当たり、ゴール一m手前から真上にはずれてしまうという不運も重なる

のサッカーに対する考え方、取組み方の原点となりました。そして、サッカーを通じて得てきたものは、自分が生きていく上での指針の大部分を占めているように思います。特に旭高校での三年間は、インターハイなどに出場できるなど、勉強、練習に忙しかっただけでも最高に充実し得るものもたくさんありました。

最後になりましたが、創立十五周年、本当におめでとうございます。ここまでTKCが育ったのは、曾田さんを初め、コーチの方々の熱意があったからだと思います。そして、他チームと一脈違った指導法（これが真の指導法かもしれません）により、たちばなの子達はのびのびプレーしているとか、一人一人のプレーが面白いとかいう声も耳に入ります。

このようなチームカラーを持ったたちばなのすばらしいコーチ陣の一員として私も後輩達といっしょになってボールを追いかけていきたいと思っています。

たちばなキッカーズの思い出

五期 岩崎 延 宏

たちばなキッカーズ、十五周年おめでとうございます。

私がたちばなに入ったのは小学校三年生の時で、人数も少なく、三年生は竹内君と僕、二年生は中村君、あとは五六年生の先輩達であった様に思う。曾田監督と池畑先生の熱心な指導のおかげで、サッカーの楽しさを知り、毎日、日が暮れるまでシュート板に向かってボールを蹴ったりフラインクの練習をしたりして校庭を駆け廻ったあの頃は、サッカー一色の生活だった。

そして初めての大会出場が、横浜国際チッコサッカー大会の試合であった。二十名位だろうか、監督を先頭にサッカーボールをぶらさげた

り、最後に荒井にフリーキックからロングシュートを決められ2-0で敗れてしまいました。最終的に、GPが6勝一分で優勝、たちばなは六勝一敗で華優勝という結果になってしまい、すごくやさしかったことをよく覚えています。

韓国遠征

私が今まででただ一度行った外国といえば、お隣の韓国です。それも小学校を卒業した後の春休みに、四泊五日で、中三日に一試合ずつという日程で訪韓しました。この遠征には、横浜、静岡の中学生、小学生総勢七一名が参加しました。その静岡の小学生の中に、もちろん後で知ったのですが、昭和五十一年度、五十三年度に全国高校サッカー選手権で活躍した、静岡学園の宮原真司、成嶋徹の二人もいました。それから偶然とは恐いもので、横浜市立大学に入学し入部したサッカー部の同期に、この時静岡から参加していた岡村雅裕という人がいて、初めてそのことがわかった時の二人の驚きようといったら、それはもうすごいものでした。

さて、試合の方ですが、第一戦の仁川では、本格的な競技場で大観衆が集まっているという大歓迎を受け、胸に日の丸をつけていたこともあって、国際試合という雰囲気がいやがおうなしに高まり、一蹴り、一蹴に応える大声援とヨコハマ、シズオカの人文字にはビックリしました。

相手は、すぐ体が小さいのですが、技術に数段の差があり、三点ともキーパーまで抜かれて得点され、三対〇の完敗でした。自分としては第三戦のソウルで決めたPKの一点が忘れられません。この試合は、三対一で勝ち、結局、一勝一敗一分という戦績でした。たちばなからの参加者は、私と小菅基成君、菅沼敏行君、一つ下の、武村雅樹君、坂本俊也君、大場浩正君の六名でした。

たちばな時代の思い出を思うままに書いてきてしまいました。たちばな時代に知ったサッカーの面白さ、楽しさは、現在に至るまでの自分

私達は、わいわい騒ぎながら会場である浜小学校を目指して磯子の急坂を登っていった。オレンジ色のシャツにストッキング、紺の短パンというユニホームを身につけると何だか力が出てくる様な感じがする。初めての試合なのに、小さかったせいも緊張感もなく練習の時と同じ様にのびのびとコートを走り廻り、相手ゴールめがけてボールを蹴り込んだ。その時の大会は、一敗したものの残り試合にすべて勝ち、華優勝という輝かしい成績を取めた。試合内容の記憶は薄いですが、華優勝した事ですますサッカーに熱中した。

もう一つたちばなで忘れられない事は、六年生の時の島根合宿である。たちばなで初めての合宿であり、遠いところへ大勢の仲間と共に行く喜びで、出発が待ち遠しかった。出発前には、山陰ガイドブックを買い数人づつで分担し、島根のことを詳細にしらべ「しおり」を作制したりした。当日、大社駅に着くと、「遠い横浜からようこそいらっしゃいました。」と、私達を見おろすような大きな体で、日焼けして真黒な顔をした大社サッカークラブの少年達が並んで歓迎の挨拶をしてくれたのにはびっくりした。宿舎「日の出館」の大部屋で、一週間の集団生活をした。朝は六時から潮の香りのする広い校庭で練習し、とても新鮮な感じで、一汗かいた後の朝食も最高であった。地元クラブとの交歓試合は、AB二チームに分かれ、練習戦と公式戦の二回行われた。公式試合前には、相手チームとベナント交換・スローイング・キックボールの飛行距離・ボールリフティングの数など、両チームでの記録会をするなど、交歓試合をいっそう引立てた。練習戦では私達が勝ったので、少々余裕が出てはったが、しかし、公式戦では相手の力強い攻めとマークにより、健闘むなしくAB共に負けてしまった。

すぐ近くの出雲大社へ参詣したことや、お祭りに百円のお小遣いをもって出て出かけたこと、魚釣り、それに松江城や穴道湖へ行ったことなど楽しかったことがたくさん思い出されるが、特に、日御崎での一日が印

象に残っている。断崖絶壁の上から見おろす青々と遠く広がる日本海、海をバックに岡の上の白い燈台、時間がたつのも忘れ思いのままに遊んだ近くの静かな入江。こうして合宿での出来事を回想していると、あれから十年もたつのに、つい最近のことのように感じる。

今、たちはなキッカーズは大きなチームとなり、いろいろな大会ですばらしい成績をあげていることを新聞などで見ると、自分の事の様に嬉しくなります。キッカーズの皆さん、全国優勝目指してこれからも一生懸命がんばってください。

第六期たちはなキッカーズをふり返って

六期 吉原 昌利

たちはなキッカーズ十五周年おめでとうございます。

毎日、毎日、小学校が終わると夕方暗くなるまでボールを追ひ、毎週日曜日には早起きをして、下田小学校のグラウンドで、曾田さんや仲間達とボールを蹴り合ったことが、ついこの間のことのように思われます。当時は曾田監督のことを「おじさん、おじさん」と呼んでいました。人数もそれ程多くなく、家族的な雰囲気が多分に残っていたように思います。従いまして、当時のチームメイトとはもう十年来の付き合いであり、たちはなキッカーズでサッカーをした一番の収穫はこうした、多くのよき友人をもつことができたことであると思っています。

さて、私達第六期卒業生（昭和四十九年度）は、十五年間の中でも、ひじょうに恵まれた代のひとつではないかと思っています。その大きな出来事の一つは、サッカーの王様ペレが、昭和四十九年の秋に来日した際に、たちはなが、サッカー教室で指導を受けたことでもあります。十一月二十三日、場所は、渋谷の東急デパートの屋上の特設会場で、ペレの

サイン会を兼ねたサッカー教室が開かれたのです。そのモデルチームにたちはなが選ばれ、シュートやトラップングをはじめ、約一時間の指導を受けたのです。なかには、コンクリートの上にもかかわらず、オーバーヘッドキックの実演もあったりして、全くすばらしいものでした。何しろ、サッカーの神様と言われるペレと直接ボールを蹴り合うことができたのですから、これ以上の感激はありません。特に、私にとって記念品を贈呈し握手をした時のペレの手ぬくもりは今でも忘れられない記憶として残っています。

また、卒業した五十年三月に、横浜代表として行った韓国遠征も、私にとっては忘れられない大きな思い出です。これは、山王谷FCとFCゴール（現横浜トライスター）とたちはなKCの三チームの選抜チームを編成して横浜代表として、韓国遠征したもので、たちはなKCからは主将の中村浩人君、早川司君、岩村佳広君、池沢正彰君、川村利一君、と私の六名が参加しました。大変、貴重な経験をさせていただきました。何しろ、まだ小学生でしたから、横浜代表として日の丸を胸に海外遠征ができるという期待は、ある種の優越感と同時に、初めて海外旅行(?)に對する不安とが入り混じって、出発から帰国まで緊張の連続であったのを覚えています。試合の方は、ソウルで二試合、ソウルからバスで約五時間離れた、大邱で一試合の計三試合を行い、一勝二敗でした。特に第二戦は、韓国国体も開催されたことのあるという、大邱高校のグラウンドで行れ、地元の小中学生をはじめ、数千人という人が回りを埋めつくし、盛大なセレモニーや、テレビ中継などといったお祭り騒ぎの中で行われました。しかし、数メートル先のチームメイトの声が全く聞きとれない程の大歓声は、恐怖心を一層かり立てるばかりですし、まして味方の応援ならファイトも湧くものですが、それらがみんな相手の地元チームの応援となれば、小学生の私達はとても平常心でいられるはずがありません。全くサッカーどころの話じゃありません。当然、結果は〇対二の完

敗でした。後で聞いた話ですが、もし、誤って勝っていたようものなら、あのグラウンドから、無事帰ることができたかどうか？ それほど、韓国ではサッカーが盛んであり、国民の関心も強いのでしょう。しかし、何はともあれ、私達の貴重な思い出でありました。

さて、次に我々の代の成績を簡単に記してみたいと思います。当時は現在ほど、たくさんの少年サッカーチームはありませんでしたが、それでも市内には数十チームが存在していたと思います。その中で、前にも記したように、たちはな・山王谷・FCゴールが、特に力が優れていたのですが、実際は、我々が市内ではNO1であったと自負しています。

残念ながら県大会では、準優勝した藤沢の六会というチームにPK負けを喫しましたが、その年優勝した明治コンドルは、全国大会で三位になったくらいに強豪でしたから、我々のチーム力も必ずしも捨てたものではなかったと思います。

九月に行われました、第一回団地対抗サッカー大会では、優勝することができました。正式な大会では、はじめての優勝だったので大変うれしかったのを覚えています。

ところで、ひとつだけ苦い思い出があります。それは、秋に行れた、市の国際ちびっこ大会で朝鮮に五対一という思わぬ大敗を喫し、優勝をねらっていたこの大会に予落ちしてしまったことです。その頃の私達は、ほとんど、負け知らずだったので多少有頂点になっていた所があったのでしよう。それに加えて当日は、前記のペレのあの一件があった翌日で、みんな、相当浮かれていたのです。普段、めったに怒らない温厚なおじさん、の痛い説教は、今でも忘れられない苦い言葉です。がしかし、それ以降もずっとサッカーを続けていった私達にとっては、逆に、「良い薬」だったのかもしれない。

このように簡単に私達第六期生の思い出を記してきましたが、他にも多くのエピソードがあり、限られた紙面ではとても書きつくせませんが

みな良い思い出です。そして、とにかくにも、以来、今日までずっとサッカーを続けてきた私にとって、サッカーを通じて多くの人間と知り合い、また体力と精神の鍛練ができたことは、学生生活をより有意義にしてくれているものと信じています。

最後になりましたが、我々にサッカーを指導され、しかもこのようなすばらしい経験をする機会を与えて下さった、曾田監督をはじめ、たちはなKCの関係者の方々に心から感謝するとともに、一人でも多くの子供達が、たちはなキッカーズを通じて、サッカーを楽しんでくれることを熱望する次第です。

たちはなキッカーズ創立十五周年によせて

七期 鈴木 一浩

創立十五周年おめでとうございます。時がたつのは早いもので、僕たち五十年卒業生は来年にはもう成人式をむかえてしまっています。

それでは記憶にまかせて当時をふりかえってみます。戦績は四十八年（四年生時）秋に開かれた国際ちびっこ大会で第三位。この大会は横浜市内の日本人のチームだけでなく、セントジョセフカレッジや朝鮮人学校の子供たちともサッカーを通じて国やことばをこえて交流できる大会で、決勝トーナメントに進出すると三沢の芝生の上でプレーができるということ、芝生でプレーしたいがためにがんばったのを憶えています。

五十年夏（六年生時）藤沢の善行体育センターで開かれた神奈川県大会では善行に〇―四で敗れました。同年秋団地サッカー大会に日吉団地として参加第三位でした。優勝が一回もないのが大変残念ですが、優勝にかわる楽しい思い出もあります。五十年夏、富士山麓の緑の休暇村でみんなと食事をしたり入浴したり、また地元の西桂少年団の子供たちとも友だちになれたし、修学旅行のような楽しい合宿が経験できました。四

十九年、サッカーの王様ベレと会えるという夢のようなこともあり、た。渋谷東急デパートの屋上でベレに直接指導してもらいました。やさしそうな目とあったかい手、そしてあのバイシクルキックは僕たちの胸に言葉をこえてくきりと刻みこまれました。その他に毎年地区別に分け、たちばなの中で行う（たちばな杯）もとても楽しいものでした。

こんなふうに通じてきた仲間を紹介しします。キャプテンは大森亨、彼は双子で亘とともにたちばなの顔でした。亨はキャプテンとしてよくリーダーシップをとってみんなをまとめるだけでなくエースストライカーとしても相手のゴールを脅しました。FWの瓜田、彼は角度のないところからシュートをうったり、相手の意表をついたプレーが得意で、また一歩グラウンドをはなれるとたいへんひょうきん者で、試合前の緊張した時など冗談をいってみんなリラックスできました。同じくFWの岩城彼はふだんはおとなしくて女の子に声をかけられたりすると顔を真赤にするようなやつでしたが試合となるとスピードで相手をグングン抜いてく力強いプレーヤーでした。左のFB笠松、彼のお兄さんがたちばな出身でまた僕の旭高校の先輩でもあります。彼は左利きで、ボールリフティングが得意で何百回も平気でやってみようほででした。試合のときもとても頼りになるバックでした。大森亘は双子の弟でHBやDFやときにはGKもやるオールラウンドプレーヤーで兄とともに活躍しました。田辺蒼、ちょっと太っていたけど勇敢なGKでした。そして僕はHBでロングシュートが得意でした。とまあこんなふうに通じて今思い出してもバラエティに富んだ楽しい仲間ばかりでした。

現在僕は法政大学のサッカー部でサッカーを続けてますが、そこにも清水FCなどの少年サッカー出身の仲間がいるし、旭高校のときもよくたちばな時代に試合した山王谷FCのキャプテンの小松君という少年サッカー出身の仲間がいました。小学校のときは敵同士だったけど高校では同じチームで、同じ目標に向い、同じ汗を流し、試合に敗れば同じ

見守もってくださったことが、非常に大きな意味をもっていたような気がします。

とにかく練習は、サッカーがおもしろくなるように組まれていたようです。試合形式は必ず取り入れましたが、全体的に同じ練習の繰り返しよりもボールと少しでも「仲よく」なれる練習をしてきたような感じが今はします。加えて土曜日に当時下田小学校におられた中山先生が御指導して下さった練習も忘れられません。他にも大島さん・佐野さん・永田さんなどに御指導を受け、何とも恵まれた一年だったと思います。

しかし、こんな私達も少々相手をなめてかかって負けるということが意外と多かったと思います。例えば夏の県大会の三位決定戦では、勝てば関東大会出場という気負いもあったでしょうが、勝てるだろうなどという甘い考えがPK負けなどという結果をもたらしました。キャプテンとしてしっかりすべきだったと思えてなりません。

しかし、ひとたび全員が一丸となるようなときは思いがけない力を発揮しました。そうして優勝した団地対抗の決勝リーグについて少しふれてみたいと思います。

予戦を通過した八チームが四チームにしばらくは浜見平の棄権もあってたちばな・袖ヶ浦・俣野と三チームでの決勝リーグは、たちばな・俣野戦から始まりました。一〇、一一、一二、二二、二二、二二と一点差を争う接戦のまま後半を終わり、後半同点に追いついた後、早川の豪快なロングシュートで逆転、そのまま逃げ切りました。なんとも大きな一勝目を上げて、両手をあげて喜んだものです。

俣野・袖ヶ浦戦は俣野の勝利に終わったので引き分けても優勝できると皆で話し合っていたところ、監督に「引き分けなんかじゃなく勝とう。」

などという風にいわれたのが何とも印象的でした。袖ヶ浦戦は苦戦を強いられましたが結局二―一で破ることができ、あの今でも忘れない表彰

涙を流すそんな友だちでした。高校の成績は正月の高校サッカーに二回出場し、二回とも二回戦で敗れましたが全国の舞台に上れただけでとてもいい経験をしたと思えます。僕の場合サッカーを通じて様々な経験ができたし、いろんな人とめぐり逢いすばらしい人間関係が生れたし、その一番初めはたちばなキッカーズでした。これからのたくさんの子に僕のようにサッカーを通じて、すばらしい経験ができるようなそんな存在にたちばながあってほしいのです。最後に曾田監督十五年間ご苦労さまでした。この先も二十年とたくさんの子供たちが曾田監督のもとを巣立っていくのを影ながら支援したいと思います。

昭和五十二年度のキャプテンとして

九期 池沢 潤

私達、昭和五十二年卒業生のメンバーは、石川・井手・大島・池沢・輕部・木下・堀江・林・玉手・三木・早川・村上・佐藤・島海・増山と総勢十五名でした。卒業年度の成績としては、五十五戦して四十四勝・八敗・三引き分け、二百七十一得点、四十八失点、春・秋の横浜市大会優勝・夏・冬の神奈川県大会四位、団地対抗優勝、などが挙げられます。

そんなときのキャプテンが私でしたが、別に誰がやろうとさしつかえない状態ではありましたが、（試合前にジャンケンで決めたこともありましたが）しかしこんな不安定な中で小学校最後の一年が始まったのです。決断して体の大きい選手がたくさんいたわけでもなく、パワーもない、そんなチームが先程示したような成績をあげられたのは、今もって不思議ではありません。ただ、一人一人が自由にのびのびとプレーし、それに対し曾田監督が何ら押しつけるような態度をとらずに全員を

式に優勝の彰状・カップ・トロフィーを手にしたシーン、をもたらしたのです。

こんな思い出のたちばなが、十五周年を迎えるにあたって、歴史というものを感ずると共に、OBとしてこれからの発展を望んでやみません。

（現桐蔭高サッカー部）

優勝するにはまず練習を

十期 本間 真一郎

多くのたちばなキッカーズ時代という、まず、優勝の二文字が思い出されます。事実、出場した大会の半分以上に優勝しました。自分と言うのはちょっと変ですが、本当に強かったチームです。このチームがどのようにして強くなったかを書いてみようと思います。特に小学生のみなさんに参考にしていただければと思います。

まず、多くのチームがどの位練習したかを知ってもらうことにより「いいメンバーが集まったから強かった」という考えを捨ててもらいたいと思います。

多くのチームは、曾田監督も認めるほど練習をよくしたチームでした。絶対参加という練習は土曜日（下田小学校、中山先生によるもの）と日曜日と決まっていたが、多くのチームはそれだけでなく、毎日学校が終わると、グラウンドに集まり夜遅く真っ暗になるまで練習しました。これにプラスして、朝練もやりました。最初下田小学校でやったのですが「学校関係以外に朝グラウンドを貸すわけにはいかない」と言われました。しかし、多くの達はあきらめず場所を中央公園に移して練習しました。このようにして多くの達は、練習出来る時間は全て練習しました。ここで誤解して欲しくないことは、「ただボールを蹴っていたのではない」ということです。

そこで、練習内容について書きたいと思います。毎日色々なことをやっていたが、主たることを簡単に上げてみたいと思います。

- ①グラント十周
- ②ダッシュ十本（三十メートル位）
- ③個人技（ドリブル、リフティング）
- ④対人プレー（一対一、二対二など）
- ⑤フォーメーション
- ⑥ゲーム

というようなメニューを毎日色々な形で練習しました。特にここで言っておきたいことは、楽しくはやっていましたが、ふざけたムードのない真剣な練習だったということです。

以上、あげた練習から得たものはかなり多かったと思います。まず人に言われてやった練習ではないので、みんな積極的に吸収力かなり高かったということが非常に大きいと思います。やはり人に言われてやる場合、義務的になってしまい当然義務的になると「受け身」になってしまいます。このような場合、やったほど効果がないのが事実です。そこで、ぼく達が決して「受け身」にならず常に積極的な姿勢でいられ、しかもサッカーが楽しかった理由について書きたいと思います。

やはり大きかったのは曾田さんの指導です。他のチームでは一つのプレーに対して「ああだ、こうだ」と言われます。そして、これによって選手は一つの型にはめられ、のびやかなり全く変化のないサッカーをするようになります。こうなると小学生くらいだと、自分の思った通りにやれなくなるのでサッカーがつまらなくなります。しかし、曾田監督の指導は決して選手を一つの型にはめることはありませんでした。ぼく達に言ったこととして思い出されるのは「個人技をつける!!」ということです。そして、個人技が付き相手をぬけるようになると、たいいてい選手はドリブルをしたがるものです。ぼく達の場合も決して例外ではな

く、事実みんな二人はぬける力を持っていたので、当然のようにドリブル中心となりました。そして、色々な戦術を身につけた自分が小学校時代の自分を客観的に見ると「持ちすぎ」のように思います。しかし、「君は持ちすぎだ」なんて曾田監督に注意されたことはありません。このおかげで、ぼく達は常に積極的に楽しくサッカーをすることが出来ました。このような中から自由でイマジネーション豊かなたばなのサッカーが生まれたのだと思います。

これらもたばな時代の個人技と自由なサッカーを生かしていききたいと思っています。

（現法政二高サッカー部）

最もくやしかったこと

十一期 大場 賢治

たばなキッカーズ十五周年おめでとうございます。

僕が初めてサッカーを行ってから、ざっと十年という歳月が過ぎた。五年、六年の時の関東大会をはじめ、数々の大きい優勝記録がたくさんある。その中で最もくやしかったことは、二度の全国大会出場をのがしたことだ。この大会は、小さい時からの夢だった「優勝」という言葉が一つに青春をかけていた。辛くても辛くても耐え、そして六年の時、神奈川県百何チームの中の決勝にまで進出し頂点に立とうとした。でもそこには、なかなか崩せない大きな壁が僕等を待っていた。異様な風が僕等を襲い不安と興奮でいっぱいだった。曾田監督も僕等にいろいろ指示をした。「とにかくやらなければ」と思い皆で大きな輪を作り励まし合い一つになった。主審の笛が鳴った。ベンチにいた多くの観客の声拍手が飛び散った。センターサークルに近づくとつれて、心臓の音が大きくなった。そして夢に見た全国大会神奈川県予戦の決勝の笛が鳴っ

た。とにかく精一杯アタックし最後まで戦うとちかった。試合は五五五五のまま後半になり、ついには非惨なPK合戦まで行ってしまった。たばなイレブンもうへとへと全部の力を出しきった。「ここまで一生懸命に戦ったんだからもう満足だ」と自分は思った。そしてPK合戦が初まる。観客は静まり、ボールの一点の方向を見ていた。僕が蹴る。相手も蹴る。一点入る毎に喜びが広がる。そして最後の四人目。これを外すとたばなは敗けることになる。僕等は神にちかった。笛が鳴り蹴った。ボールは左ポストの外に出た。一瞬の間だった。僕等はグラウンドの地面に頭をつき涙を流した。そして夢にもつらかった練習もすべてが終った。なにも言うことはない。満足している。観客は引きあげていくたばなイレブン、相手チームに、「こんな素晴らしい試合をどうもありがとう」と感謝していたにちがいない。曾田監督は僕達を一生懸命励ましてくれた。皆ぐったりしていた。本心に敗けるなんて思ってもいなかったにちがいない。とにかく早く休む場所がほしかった。僕はグラウンドを見廻して、必ず果せなかった夢を現実にすると思わなかった。本心にここまで来れたのも、曾田さんをはじめ、大島さん、永田さん、末山さん、村上さん、そして多くの応援してくれた人たちのおかげと、心から感謝している。

（現旭高サッカー部）

神奈川県大会決勝戦の思い出

十一期 増山 高広

僕が橋にいた時は、色々とかやしい事を何回も味わった。なぜか不思議と、果優勝と言う最大の夢もかなわなかった。僕が六年生の時のチームは、とてもいいメンバーだったと思う。僕は全国大会に出る夢をか

なえるため、毎日夜おそくまで練習をした。そして、夏の県大会が初まり、橋は順調に勝ち進み、とうとう決勝まで来た。みんな今年こそはとばかりに頑張っていた。相手は浜見Aと言うチームで、なかなか評判のいいチームだった。僕は勝つ自信があった。なぜかと言うと、それだけ練習もしたし、みんなの調子もよかったからだ。試合が初まり、僕はけっこうおどろいていた。浜見もなかなかやり、おしとおされつのゲームだった。僕は、前半に一点とったが、前半の終わりに浜見にもとられてしまった。そのまま後半になり、ぜんぜん点が取れず、とうとう延長になり、とうとう決着がつかず、PKになってしまった。僕は、あまりPKには強くない、あのじょうPKで負けてしまった。もうとてもくやしかった。絶対に勝てる試合だった、本当にくやしかった。僕は半気がぬけた。僕は関東大会に出る事になった。それに向けての練習をする事にした。もう関東大会で優勝をするしかないと思いきりかえ、がんばって練習をした。関東大会では、一回戦から、優勝チーム同志の試合になった。僕達にとっては、とてもいやな試合だった。むこうのチームも優勝候補だけあってパスをよく回してくるチームだった。この試合も点の取り合いで、とても苦しい試合だった。結局この試合も負けてしまった。冬の県大会もなんだか、みんなおかしくて、いい事までいけなかった。今思うと、僕は冬の県大会が弱いと思う。これからのチームは、夏も冬も強いチームになってほしい。今、橋の評判は少し落ちてきているみたいです。これからのチームの人、頑張って練習をして、僕達みたいにくやし

い思いをしないように、これからもしっかりやって下さい。

（現寛政高サッカー部）



たちばな時代を回想して

八期 黒岩 典正

サッカーボールを蹴る機会など全くない昨今であったが、たちばな十五周年の祝いを聞かされ、一日中ボールを追っかけていた自分の幼い頃を思い出し、さまざまな感慨にふけてみるのも悪くはないと思い、この稿を借りて、回想してみることにする。

僕がたちばなの現役であったのは、もうかれこれ七、八年前になろうか。最近のたちばなの急成長ぶりからしてみると、やや実力的に劣っていたかもしれない。とは言うものの、横浜においては、やはり屈指のチームであったと思っている。当時の強豪と言えば、他に横浜東・山王谷つばめなどであったろう。特に東は、敵の我々から見ても、出色のチームで、一人一人が素晴らしい選手であった。そういうわけで、わがたちは、万年二位に甘じていたというのが、今にして思えば、悔恨の対象となろう。何度も互角の試合をしたこともあったが、あと一歩のところで、勝利を取ることができなかった。GKには堅実な守備の杉山、FBには、キック力にかけては白盾のものがあつた佐野、砂子、友藤の三人、HBには、田辺、木下、堀尾、篠原という以外性のあるブレイヤーが並び、チーム内での信頼も厚かつたものだ。さらに、FWには、センス抜群の滝山、パワフルなウィング安沢といった、全体的には、剛と柔とがうまく調和された好チームというのが僕なりの分析である。

サッカーとは、世界で最もポピュラーなスポーツである。ボール一個あれば、気軽に多くの人々が楽しめるという特性が世界のスポーツたらしめる要因であろう。少年期にこうしたスポーツを経験するというのは

後々になって得るものも多いはずだ。事実、僕自身、少年期における団体競技の経験が、無意識のうちに行動や思考面に投影されていると気づくことがあるのだ。こうした意味で、たちばなを通じて、サッカーにめぐり会えたことに、改めて感謝する次第である。

最後に、御指導いただいた曾田さん、陰ながらいろいろとお世話していただいた曾田夫人に感謝の意を表し、この稿を終らせていただく。

☆文明が進むに従って子供のからだに異常が出てきた。骨折も多い。しかも、かけっこで転んで骨折する。ふだん家庭で転ぶとき、お母さんが手で支えてやるから(笑)……

☆学校と塾と家庭だけ、仲間とつき合わない、がまんすることを知らない——こころの病気が入り込むのは当然……

☆友人の医者が言うには、昭和40年以後に生まれた者は、自然の生活による刺激が低下したから、平均寿命は60才を切る?……

☆中学時代までは、ものの見方、考え方が片寄らないよう、できれば二つ以上のスポーツを平行してやらせた方がよい。将来どのスポーツに進むかは本人に決めさせる……

☆片足でバランスをとる点で、サッカーは他のスポーツにない特徴を持つ。どのスポーツに進むにも都合がよい……

☆スポーツが庶民のものになったのは昭和40年以後である。東京オリンピック当時はトレパンを着て町を歩くのは選手だけ。今では家庭の主婦があれで買物に行く……

☆スポーツの語源は『デイス・ポート』。港を離れ大海原に出れば基本的ルールはあるが、どの航路をとるのも自由。つまり束縛を離れ自由に活動するという意味……

(岡野俊一郎氏講演会より)

キーパーとして思うこと

十一期 山口 光晴

創立十五周年、おめでとうございます。僕が小五の時に創立十周年だったのが早いもので、もう五年。あの時は、だいぶ年の離れた人達の話などを聞いていたものが、今度は僕が書く立場になってしまった。

ところで、僕がたちばなKCに入つたのは小四の時。本来なら小三の時入るはずだったが、じん臓の病気にやられて一年おくれるはめになったのである。小四、小五の時はBチームだったので、サッカーというものにさほど情熱をかけていなかったが、そのせいか小六の時Aチームの正キーパーをやらされることになった時は非常にうれしかった。(後で考えると他にキーパーがいなかったから正キーパーになれたのだと思うのだが)

この頃の僕は、はっきり言って曾田さんの希望するようなGKではなかったと思う。当然のように、しごかれた。でも、このころから、GKをやっている面白く思ってきた。どんなにしごかれても、楽しいとは思わなかったが、決してやめたいとは思わなかった。(体力のない僕にはきつくて涙が出てきたことも一、二度あったにもかかわらず)六月に入ると、全国大会の予選がはじまった。ブロック戦ではけっこう危ない勝ち方をした時もあったが、決勝トーナメントで圧倒的な強さで勝ち進み、決勝。対する相手は浜見であった。非常にがんばつたがPK戦で敗退。もう一日中泣いていた。全国大会に行けなかった代わりに横浜市選抜に大場、末山、増山、村上君達と参加。高一の今も、時々当時の仲間達と会うことがある。この頃からサッカーをやっている一番面白かった。勿論今も面白い。九月に入ると国際チビッ子が始まった。確かこの時は三位であった。しかしあの横浜スタジアムの広がったこと。はずれ

たボールを取りに行くのに五十m近く走つたような気がする。その後宇都宮にミニサッカーの遠征に行ったり、県大会に出場したりしながら、たちばなKCを卒業したのであるが、たちばなKCに入らなければ僕の人生は大きく変わっていたと思う。

ところで、GKをやっている時の最大の苦しみ。それは味方のゴールを死守しなければならないことからくる責任感と練習のきつさ。しかしそれが最大の楽しみとも思える。GKをやったことのない人にはわからないだろうが、下手であればあるほどこんなにも屈辱感を味わうポジションはないと思う。逆にうまければうまいほどこんなにもやりがいのある榮譽あるポジションはないのではないかなと思う。他の人には悪いけれど……。今、たちばなKCにいる人達も、すばらしいサッカーLERFEを送ってほしい。(現川和高サッカー部)

関東大会

十一期 末山 靖

『昭和五十五年県大会準優勝』という輝かしい記録を作った僕達は二年連続で、関東大会に出場した。

あの県大会の決勝は今でも頭の中に残っている。あのPK合戦での敗退は一生忘れないだろう。その対戦の勝者浜見は全国大会にそして敗者たちばなは関東大会へと出場した。

そして関東大会一回戦でなんと韮崎と対戦した。前年度は見事に優勝を飾り、二年連続優勝を狙う僕達は優勝候補の筆頭にあげられるチームと一回戦で戦わなければならなかった。

その一戦韮崎のうまい戦法に見事に僕達の攻撃を封じられてしまい敗退する運命になった。たちばなは、山口君や岡本君らが体調をくずして

いたなど、ベストコンディションで試合に望めなかったのが残念だった。その勝者・韋崎は順当に勝ち進み優勝した。そしてこの関東大会は僕たちのちばなキッカーズでの貴重な思い出として今も僕の心に強く残っている。

(現旭高サッカー部)

ちばなサッカー時代をふり返って

十二期 瓜田直樹

まずここで俺たちの時代のメンバーを紹介してみよう。

六年 ◎爪田 CH ◎大滝 RW

◎石井 ST ◎佐藤 GK

◎今仲 ST ◎上野 LH

◎桑山 CF ◎山田 CB

五年 ◎鈴木 LW ◎中野 交代選手

◎丸山 交代選手 ◎絹村 交代選手

◎竜野 RB ◎江浜 LB

以上が俺たちのメンバーとポジションです。俺たちは、このメンバーで苦しい試合、楽しかった試合とたくさんやった。そんな中でいつも俺たちは弱くしてはならないと思っていました。俺たちの先輩は強かった。向う所敵なしだった。中でも大場先輩、増山先輩、ほかとてもすばらしいプレーをたくさん俺たちに見せてくれた。俺たちも先輩たちを追うようにがんばった。春の県大会はみんな力を一つにしてがんばった。ベスト8という記録でもせいはいだった。大会も大づめになってのころは国際子ビッ子だけになってしまった。なんとかせねばとがんばってやっと優勝できた。みんなとてもがんばった。やっととった一つの喜びをみんなで分けあった。その時から中学へいってもサッカーでやっただけだと思

ました。ぼくは、「だいじょうぶかな」みたいなことを言ったので、曾田さんに怒られました。「やらないうちからそんなことを言うな。自信を持って」と言われました。ピーと笛が鳴ったのでぼくはシュートしました。しかし、ねらいすぎて、ポストにあててしまいました。その後、ほとんどがはずしたので、ぼく達は負けました。ぼくは思います。サッカーには、自分に自信を持つ。どんなチームでも、油断してはいけません。最後まであきらめずに全力で戦う。そのようなことを考えながら、練習をし、強いちばなキッカーズにしたいと思っています。

思い出

十二期 馬瀬知行

僕は、近所の友達と、よくサッカーを、しました。そのころから僕はサッカーが好きになりました。小五の時、L-Bチームで、国際子ビッコという大会が、有り毎週のように、子どもの国に行きました。僕は、この大会が、一番印象に残っているのです。ポジションは、左リウィングで、とても良いポジションでした。

印象に、残っている試合は、岩井原戦で、前半2-0で、勝ちその二点、僕の得点なのです。そして、後半戦が、初まりこのまま逃げれば勝ちとゆうところで、どんどん入れられ、3-0で負け、結局3-2でおしくも、負けてしまった、試合なのです。普通、勝った試合などが、印象に残るのですが、どうも負けた試合の方が、多かったみたいで、印象に残ったというわけです。そのほか、勝った試合もありました。

また、小六のころの印象も、ありました。春の新人戦なのです。会場が、鴨居中で、五、六チームぐらいで、試合をしましたが、どうも相手チームが、強く四位くらいの成績でした。うれしかったのが、国際

った。来年は俺も高校だ、サッカーはもっときつくなると思う。だけど俺は、今までサッカーをやってきたから高校の三年間くらいなんだと思う。げんにちばなで六年間もやってきたんだから……今のちばなをしょってたつ君たち、「これがちばなのサッカーだ」と胸をはれるようにがんばれ！ 熱えつきるまで！

ちばなのころ

十二期 大滝友男

ぼくが六年生の時の思いではたくさんあるが、その中でも、秋の国際子ビッコで優勝したこと、冬の県大会の二回戦目で負けたことです。秋の国際子ビッコで優勝した時は、とてもうれしかった。ぼく達は初めて優勝したのでした。今まではずっと負けていたが、ついにぼく達は優勝したのでみんなも喜んだ。ぼく達は決勝戦の時、とてもはりきっていた。相手チームは、黒滝だった。あの試合のことは、もうよく覚えていないが、5対0で勝ち、ぼくが四ポイント、山田光裕君が、ヘディングで一点入れた。そのヘディングをした時、山田君は、すぐジャンプをして、高い所からゴールに入れた。ぼくは、そのヘディングのことは、まだ覚えてる。試合終了の笛が鳴り、ぼくは、「がんばれば勝てるんだなあ」と思った。秋の国際子ビッコも終り、今度は冬の県大会です。あの時は、二回戦目で負けてしまいました。一回戦目は、弱いチームとあったので勝ちました。今度は二回戦目です。相手のチームは、浜見Aだった。その時は、先にちばなが点を入れたが、後半の最後に、点を入れました。そのまま試合は終わり、延長戦をしたが、1対1のままで終わり、PKとなってしまいました。ぼくが一番と曾田さんが言い

子ビッ子での、得点王。反対に、残念だったのは、五年の合宿に、行けなかったのです。今は、中学校でサッカー部に入っています。タチバナに入っていたおかげで、とてもうまくなれました。

昭和五十六年度 ちばなキッカーズ

十三期 鈴木孝春

僕たちが、初めての試合で、新人戦で優勝をしたことです。そして、みんなで、いろいろな、試合で勝っていきこうと、みんなで声を掛けながら、練習をしていった。そして、県大会の予選がはじまった。

僕たちは、勝つすんできた。そして、僕たちの、次の相手は、山王谷だった。そして、試合がはじまり、前半は、ぼくは点数がはいり、僕たちは、あきらめてきた。そして、後半がはじまって、ちょっと過ぎたとき、ぼくが、ボールを持っていた時に、転んでしまった。その時に、ボギッと言う音がした。ぼくは、もう折れたと思った。でも村上さんが折れてないといってくれて、ひと安心した。

でも、その試合は、負けたけど、ぼくは、しょうがないと思った。そして、家に帰えると、足がづきづきとして、たまらなかった。折骨院にいった、見てもらったら、折れているといわれ、ぼくは、涙をためてしまった。とてもくやしかった。

十五周年おめでとうございます。



いろいろと学んだこと

十三期 麩谷 毅

ぼくは、サッカーをしていろいろなことが、身に付きました。サッカーの技術はもちろんのこと。決心が強くなったりして、精神的にもいい面が身に付きました。

ぼくは、「タチバナキッカーズ」にはいる前は、自信が持てなく、精神的にも弱く、無口なほうだったのですが、「タチバナ」にはいってから一年ほどたつと、自信を持ちはじめ、それと伴って、無口ではなくなり、一言一言はしっかりと伝えるようになりました。そして精神的にも強くなり、人からなにを言われても、ぐっと耐えることができるようになりました。

曾田さん、佐野さん、永田さん、大島さん。本当にいろいろとありがとうございました。十五周年おめでとうございます。

ぼくがサッカーを始めてから

十三期 森部 達彦

十五周年おめでとうございます。

サッカーを初めたのが四年の時でした。それから、病氣もせず、健康的にも、「タチバナ」に入ってからとても良かったと思います。

最初は、友達に誘われてなんとなく入った「タチバナ」も今にとっては、とても良かったと思います。

曾田さん、佐野さん、永田さん、大島さんには、いろいろお世話になりました。試合の引率や合宿の時など本当によくやってくれてどうもあ

合宿

十三期 丸山 智治

僕等は四年で初めて合宿にいった。合宿する所は、緑の休暇村と言う所で緑に囲まれ正面に紅葉台後ろには富士山と言うように景色のいい所でした。合宿のメインと言えはやはり、班対抗の試合。四年、五年の時は、先輩達の足を引っぱってばかりいた僕も六年でもうなれてきており班長と言うこともあって班をもう上げる役でもあった。班対抗では、おもわしくない成績に終わった。班対抗とかは成績ではなく楽しめればいいのでは。(成績がいいのにこしたことはありませんが。)

このような楽しい合宿は、これからもずっと続けてほしいと思います。

十五周年まことにおめでとうございます。これからは二十周年をめざしてがんばって下さい。それまでには、全国大会にこまを進めて、「たちばな」をもう上げていって下さい。

サッカーの思いで

十三期 塘 泰三

ぼくはたちばなキッカーズに四年間入っていました。三年生の時のコーチは永田さんでした。まだサッカーを知らなかったぼくに一生懸命教えてくれた。四年生の時のコーチは大島さんでした。試合のやりかたなどをくわしく教えてくれた。五・六年は佐野コーチでした。技・チームプレイを教えてくれた。曾田さんには直接教われなかったけど、試合をやっている悪い所を注意してもらいました。こうしてたちばなキッカー

りがとうございました。

中学になってもサッカーを楽しくつづけています。曾田さん、佐野さん、永田さん、大島さんもがんばってください。ぼくもがんばります。

新人戦

十三期 中野 純

新チームになって、初めての公式戦は『新人戦』であった。僕等は華決勝で『本郷FC』を倒し決勝戦で『港南台』と戦うことになった。そして決勝戦の日、僕等は曾田さんに気合を入れられて、「絶対に優勝してやるぞ!」という気持ちになった。ホイッスルがなって決勝戦が始まった。しかし、さすがに決勝戦だけあって相手も強く、なかなか点が入らなかった。前半終了まぎわに、僕からのセンターリングを鈴木君が頭に合わせて先取点を取った。結局その一点が決勝点となって僕等は優勝した。

先輩諸君! これからも伝統のある「たちばな」の名を汚さぬようがんばってほしい。そして念願の全国大会出場の実を果たしてもらいたい。僕達や先輩たちのどうしても果たせなかった夢を必ず……。

最後に十五周年おめでとうございます。これからも、ずっと楽しいサッカーを続けて下さい。



ズのことを書いているとまたユニホームを着て下田の校庭でサッカーがしたくなります。ぼくが一番思い出にのこっていることは合宿で練習したこと、YMCA北と試合して三対一で勝ったことです。最後に、今まで以上のたちばなキッカーズをたちばな全員で作あげていって下さい。十五周年おめでとうございます。

僕達の時代

十四期 吉村 幸大

昭和五十七年度卒業の僕達のメンバーは、ゴールキーパー平方、バックはセンターが川合、右が杏、左が神田でした。ハーフはセンターが谷嶋、右が田村、左が僕でした。フォワードはセンターが小林と五年の河本、右が佐世、途中で谷山と松本に代わり、左は山本でした。

僕達は、いつも、いい所までいくのになかなか点が取れないので、PK合戦になってしまふ。僕達は、調子の良い悪いの差が大きすぎた。一時は一生懸命PKの練習をした。でも、いくらやっても勝てなかった。「今度こそ勝つぞ!」と、思ってもだめだった。笠松先輩に教えてもらい朝練もやった。でも、厳しい練習がなかなかできなかった。午後練では、毎日二十周と行っても長く続かなかった。やろうとしても二・三人しか来ていないのでやる気になれなかった。僕達は練習を一生懸命やらなかったため優勝できなかったのだ、と思った。練習がまともにやれなかったのだから優勝できるはずがなかったと卒業してから思った。

ぼくが印象に残った試合は正月の全国ミニサッカー大会、千葉の館山での十和田戦、僕が六年になって初めてPKをはずして負けてしまった。あの時は雨と寒さで手も足も凍りそうに冷めたかった。

楽しかった思い出は、合宿だった。班別対抗やスポーツテスト、一生

懸命頑張った。リフティングで中野先輩の記録をぬこうとしてせいっぱいやった。班対抗ではチームワークを良くして全力でぶつかった。チームワークが悪かったらチームがばらばらになってしまうので四年から六年まで力を合わせた。今回の合宿ではせんそくもでないでキャプテンとしての役目が果たせた。もしせんそくがでいたらサッカーをやめていたかもしれない。だからそうならないようせんそくのもととなる食べ物をやめ、せんそくにきく菓を飲み頑張った。そしてやっと治ってくれた。

ぼくたちは、優勝ができなかった。でも、まじめに練習に取り組んでやっていたらもっと強くなっていたかもしれない。だからたちはなのみんは練習をさばらないでやってほしい。みんなで厳しい練習を考え工夫すれば必ず優勝できると思う。ガンバレ たちはな!!

たちはなですごした四年間

十四期 山本 和人

ぼくは、たちはなキッカーズに入った理由は、友人二人と下田小に遊びに行ったらサッカーをやっていたので見ていたらだんだん面白くなってきたので、ぼく達も入れてもらった、やり終わったらすごく気持ちが良かった、その時からサッカーが好きになった。次の日曜日にたちはなに入ろうと友人と約束した。ぼくは、日曜日が待ちどろしかった。たちはなに入って練習を休まなかったせいか実力が上がって、四年なったら

Lリーグに上がったその年は団地対抗でぼくたちは、初めて優勝した。すごくうれしくて優勝カップがめずらしかった。五年になって運が良くレギュラーになった。新人戦で優勝した、そのころぼくは、よく点を入れていたが、足の骨を折ってから調子が悪くなった。六年になって、運が無いのか練習不足なのか試合の内容は勝っているのに、PKで負ける試合が多かった。ぼくが一番苦しかったことは、合宿の時からひざの痛みになやまされてひどい時もあった。冬の県大会は、ぼく達にとっては最後の大会だったので何が何でも勝ちたかったがPKで負けてしまった。すごく、くやしく目を閉じると今までの思い出が頭の中にうかんだ、これで終わりだと思ったら、すごく淋しかった。ぼく達の時代は、一回も優勝することが出来なかったけれど、たちはなに入って楽しい思い出がいっぱい出が、出来たので、すごくよかったと思っています。

たちはなキッカーズでの思い出

十四期 落合 明人

たちはなは今年で十五周年になる。でもぼくは十五年の三分の一の五年しかやっていないので、たいしたことは書けないと思うが、ぼくが印象に残っていることは、やはり四年の時のLリーグの試合のキャプテンになりまあまLリーグにしてはいい所までいったこと、またその後Lリーグに少しの間いてその時に団地少年サッカー大会に、優勝したことそして五年の時には試合に行けたこと、六年の時もLリーグのキャプテンになりこの時も時々Lリーグの試合に行けたこと、そして四年の時から合宿特にマリーニョがいた六年の時が楽しかったその他にも楽しかったことは、たちはな杯や千葉に行ったミニサッカー大会などあるがやはり

印象に残ったことは前に書いたことだろう。

そしてこの六年にキャプテンになった時の一番印象になっているのは、対東戦だろう。この時は、カゼなどで谷山君と石川君が休み藤田君や西ヶ谷君や田畑君なども試合に来ていなくてキーパーの山田君がハーフになり、バックの馬瀬君がキーパーになり桑山君や横山君がホウドぼくがハーフ、村山君や柏瀬君がバックだった。結果は〇―四で負けてしまったが、風が強い日でなぜか強く印象に残っている。

ぼくはあまり練習をやらないのでたちはなに入ってからあまり上達していませんが、練習をよくやれば誰でもうまくなると思うので、これからたちはなに入る人や今もう入っている人はよく練習をしてたちはなをもっともっと強くして下さい。

たちはなキッカーズ

十四期 谷嶋 輝樹

サッカーを始めたのが、三年の頃で、たちはなキッカーズがなかったら、多分サッカーをやることなど、思いもよらなかったと思う。

そして、多くのサッカーの上手な先輩達を目標としてサッカーが出来るということで、ぼく自身、みんなもとてもめがまれていると思う。

それに、試合でいろいろな場所に遠征したり、大勢の友達を作れたりたちはなに入っていたことで、とても良い思い出が出来た。

六年の一年間の中で、他のチームの人との半原の合宿、横浜、県の大海上位進出、横浜選抜での優勝、たちはなの合宿、清水遠征、千葉遠征等が、強く心に残っている。けれどたちはなでの優勝が出来れば、一番最高な思い出になったと思う。

それは、いつも準優勝まで行きながら、ほとんどがPK負けで、決勝



たちばなキッカーズ15周年

六年 田 辺 実

今ぼくたちは、たちばなで、十五回目のL-A（六年）だ。今までにたちばなの先ばいたちが、県大会や全国ミニサッカー大会や横浜新人戦などいろいろな大会でいい成績を残している。だからぼくたちもたちばなのはじにならないようにいい成績を残したい。

それに日本代表のジュニアユースでえらばれて、出場したせんばいもいます。横浜せんばつでかつやくしたせんばいもいます。

五月に横浜少年団サッカー大会がありました。たちばなと同じブロックにいたのは、公田や富岡や、六うら毎日などのチームがありました。そしてブロック最後の試合でブロックの一位と二位を決める試合がありました。たちばなは対公田でした。でも、公田に負けてもとく失点差で、たちばなは一位でした。だけど一〇対〇や、十二対〇などたい差でまけたら二位で出ることになりました。だけど今まで全試合勝っているのこの試合も勝って全勝で決勝トーナメントにでたいので、ぜったい勝って出たかったです。そして試合が始まって、前半おわりの方でキーパーの頭ごしにシュートをされて、一点入れられ、先取点を取られました。そしてハーフタイムになって、かんとくやコーチに一点ぐらいかえせるぞと言われてハーフタイムがおわって、後半の十分ぐらいに、右からセンターリングがきて、ちょうどボールがぼくの方に飛んできました。そしてそのままよくせつシュートをして、左スミに入って同点におつききました。とってもうれしかったです。だけど後半が終わって、結果は一对一で同点でした。でも全勝で出られなかったので、ざんねんです。けれど、あのシュートはほんとうにわすれられません。

「絶対、勝つぞ!!」と、心にちかった。

たちばなキッカーズ

六年 鈴木 信二郎

ぼくが、たちばなキッカーズに入ったのは、三年生の時だった。土曜日の、練習を見ているうちに入りたくなり入った。始めのうちは、ルールも全然分からなく、あまり上手でなかった。しかし、練習をいっしょうけんめいしているうちに、ルールも分かってくき、L-L-Bのレギュラーになった。その時は右のバックだった。四年生になり、ぼくはL-L-Aの右のハーフとなった。春の大会は、河本君をたよりすぎたせいか予選で落ちてしまった。しかし、秋の大会ではBブロックで優勝した。それで自信がついたのか、県大会で四位になった。

今ぼくは、六年生になりL-Aのセンターハーフのレギュラーになった。横浜の新人戦では、勝ち進んだが、準決勝で「FC本郷」に三対〇で負けてしまった。その時は、キーパーをやっていた。FC本郷はパワーやスピードのあるチームである。このようなチームのために、中学一年生と練習試合している。また、曾田、大島両監督は、試合中や、試合のハーフタイムなど良い指示をたくさんしてくれる。やさしくて、よくぼくたちの話を聞いてくれる良い監督である。

たちばなキッカーズは、チームワークのよいチームで一人一人が、力いっぱい動くチームである。しかし、残念な事がある。それは、左のバックの池田君が熊本に引っこしてしまうのだ。たちばなキッカーズにとって、非常にこまることである。しかし、その穴をうめるためにも、みんな、今よりもっとたくさん動きがほしいと思う。そして、いろいろな大会で優勝すれば、きっと池田君もよろこんでくれるだろうと

タチバナ・キッカーズ

六年 山 本 亮

ぼくが、タチバナに、入ったのは、五年生の三学期、なぜそんなにおそくはいったかというところあまり興味なかったからだ。けど友達にいろんな、サッカーの試合の話などをきくと、だんだん、サッカーの方へと気持ちがかわってきた。

入ってみると、自分で想像していたことより、だいぶちがった。ぼくが想像していたことは、もっと、監督がこわくて、走ってばかりいるのでは、という考えだ。けど思ったよりも監督などは、やさしかった。練習の方は、土曜日は、楽だけど、日曜日は、つらい。

ぼくは、入ってからは、G・Kとしての練習だった。そして、六年生（現在中一）の卒業をかねて、せ番号がえがあった。その時、せ番号一を、発表する時、「山本」とよばれた。みんなから「すげえ」という声がかきこえた。それからの練習は、今までよりもきつくなってきた。試合の数もとうぜんのようにふえた。けれど試合は、今のところ全部勝っている。だが、新人戦の試合の時、ぼくは、メンバーでは、ないから行かなかったのだが、その日は、本郷に負けてしまった。ぼくは、行かなかったけど「ちくしょう」と思った。六月二日には、三位決定戦があるので絶対、勝ちたい。

五月一日には、春のリーグ戦の予戦、第一戦があった。二試合あった中でぼくたちは、八ー〇、八ー〇で勝った。五月三日には、十四ー〇、同五日には、四ー〇で勝っている。

そんな中に、四番の左バックの「池田君」が、九州に引っこしてしまふ。あと、二番の右バックの「中林君」が、右うでをこっせつしてしまふ。ぼくは、「これで勝ち進めるかな」と思いながら、

思う。ぼくの、小学生でのゆめは、全国大会に、でることである。ぼくは、一生サッカーをつづけたい。高校でも全国大会にでて、プロのサッカーの選手になりたいと思っている。

合宿のときの思い出

五年 野里 拓也

タチバナにはいって、今までに一番印象に残ったことは合宿です。

合宿は八月七日から三泊四日でした。場所は富士緑の休か村という所でバスで三時間位行った所です。僕は初めての合宿だったので、少し心配でした。富士緑の休か村から富士山が見えました。お昼ご飯を食べてから、さっそく練習です。練習はグラウンドを三周、次に体操、それから笠まつ先ばいがいろいろな技を見せてくれて、そのあとドリブルシュートをやりました。僕はドリブルは得意だけど、シュート力はいまいちでした。そのあと練習試合を紅白に別れ四試合やり、僕はセンターホワードをやりました。練習が終わったときはもううす暗くなっていました。その夜ご飯を食べてお風呂に入ってから、体育館でミニサッカーをやりました。チームは背番号順で決めました。僕のチームの成績は、〇勝一敗三引き分けでした。次の日の朝六時に起きました。起きたときはすごく気分が良かった。この日僕は、「久留米」と、練習試合をやりました。一回戦は七対一、二回戦も三対一で勝ちました。お昼ご飯を食べてまた練習です。今度はへや別の試合をやりました。次の日も六時に起きて、今日もへや別の試合をやりました。僕達のチームは一、二位を争った所に運がよく勝って、勝つと思っていたチームに負けてしまいました。次の日スポーツ・テストがありました。僕はドリブルが二位で、リフティングも二位でした。それからまだ残っている、へや別の試合をやりました。結果は、僕はビリでした。その夜へや別のかくし芸大会をやりました。

した。僕達の班は劇をやりました。かくし芸大会では一位になりました。とてもうれしかった。試合で優勝できなかったのは残念だったけど、楽しい合宿でした。今年は、もっと練習して、試合で良い成績をとりたいと思います。

たちばなキッカーズ15周年記念

五年 田 中 剛

ぼくは、五年生ですが、せ番号十一をもらいました。ぼくは、ちょうどいい時に生まれたなあーと思った。たちばなキッカーズ、L Aの人をしようかします。一番は、山本りょう君です。キーパーをしています。二番は、中林まこと君です。バックをする。三番は多野君です。バックをする。四番は、池田君です。池田君は、バックです。とてもじょうずでしたが五月十九日に九州の熊本県に行ってしまう。そして池田君のそうべつ会を五月十四日、今日しました。五番しん、ひょんいる君です。ハーフをする。六番鈴木君です。ハーフをする。七番田辺君です。ハーフをする。八番伊藤君です。フォワードをする。九番佐藤君です。フォワードをする。十番キャプテンの河本君です。フォワードをする。そして、十一番は、田中剛です。フォワードをする。十二番守口君です。バックをする。十三番内田君です。交代選手。十四番配野君です。交代選手。十五番篠原君です。交代選手。十六番樺野君です。交代選手。いままでは、会した人がたちばなキッカーズのL Aの人たちです。

ぼくは、サッカーに入った理由は、体をうごかすのがすきだし、うち園の時から友だちがこま林のサッカーに入っていて、いつもぼくは、外でサッカーをしているうちにすきになったからです。ぼくは、サッカー

は、とてもむずかしいと思います。サッカーは、一点とるのもむずかしいです。いろいろせめたり、せめられたりして、始めて、一点入るのです。学校なんかでも、野球をやっている人がたくさんいるけど、ぼくは、サッカーがとてすきです。一年生の時、入ったばかりの時は、練習もつかれたけど、今では、もうなれた。でも、ランニングが、あまりとくいではありません。ぼくは、もっと、もっと、サッカーが上手になって、もっとよい選手になりたいと、思います。

ぼくとサッカー

六年 河 本 充 弘

ぼくは、一年生から六年生までずっとサッカーをやり続けていました。ぼくが、はいる前からできていた。

ぼくのチームは、まだ今年は、優勝してないが、三位、四位までしかない。今年中には、何の大会でもいいから優勝してみたい。

最後の記念に残しておきたい。

前の先輩たちは、何でも優勝しているから、ぼくたちの先輩の時代の時は、強かったんだなと思いました。

去年は、優勝は、しなかったけど、三位か四位だけでも、なれてよかったと思いました。それに対して、今年は、絶対に優勝したいと思う。これからも、練習をたくさんして、その成果を試合に出せば、優勝は出来る、と思いました。



各 期 の メ ン バ ー

2 期 4 5 年度		2 期 4 5 年度		1 期 4 4 年度	
ポジション	氏 名	ポジション	氏 名	ポジション	氏 名
FW	渡 辺 秀 志	FW	小 山 榮	FW	村 上 三 紀 夫
GK	太 田 明 元	FW	今 橋 和 彦	FB	飯 田 隆 郎
HB	村 井 輝 一	FB	大 野 昭 圭	GK	賀 久 哲 純
HB	楠 瀬 智 和	HB	岡 見 圭 規	FW	木 口 林 泰
FB	越 智 明 一	FW	加 藤 公 浩	FB	小 里 見 清
FW	漆 原 健 一	FB	横 大 川 哲	FW	瀬 高 戸 永 浩
		HB	金 子 賢 二	FB	田 中 仁 志
		FW	長 谷 川 研 二	HB	田 中 雅 彦
		HB	竹 沢 克 衛	HB	豊 田 木 正
		FW	土 屋 孝 孝	FB	鈴 橋 本 康
		HB	森 隆 一 均	FB	森 田 葉 子 (旧姓 曾田)
		FB	安 木 村 理 貴	マネージャー	
		FW	森 下 祐 至		
		FB	小 松 良 輔		
		FW	岩 城 祐 二		

4 期 4 7 年度		4 期 4 7 年度		3 期 4 6 年度	
ポジション	氏 名	ポジション	氏 名	ポジション	氏 名
	重 田 隆 史	FW	笠 松 文 雄	FB	鈴 木 陽 二
	関 根 大 輔	GK	川 辺 圭 一	"	栗 山 久 史
	山 口 浩 満	FB	草 生 祐 三	"	渡 下 彰 孝
	小 谷 秀 一	HB	石 村 村 敏 昌	GK	山 井 耕 一
	渡 辺 邦 彦		木 村 村 昌 彦	HB	松 田 日 宏
	森 深 沢 敏 二	HF	小 林 林 敬 一	"	町 倉 樹 二
			加 藤 友 基	"	舞 山 良 樹
		FB	小 黒 田 一 弘	"	船 倉 直 丈
		FW	藤 田 充 淳	FW	佐 橋 本 哲
		FW	久 保 寺 和 彦	"	横 山 均 行
		FB	福 地 敏 博	"	斎 藤 智 太
		HB	菅 沼 敏 基	"	城 東 深 信
		FW	小 菅 田 成 昭	"	深 原 裕 宏
		HB	瓜 岡 孝 次	"	篠 伴 明 久
			高 川 洋 文	"	佐 藤 雅 彦
			舟 石 田 明		

各 期 の メ ン バ ー

10期B 53年度		10期A 53年度		9期B 52年度	
ポジション	氏 名	ポジション	氏 名	ポジション	氏 名
HB	田 島 泰 彦	FW	本 間 真一郎	FB	井 手 裕 二
FW	三 宅 元	FB	村 上 祐 也	HB	石 川 淳 之
HB	木 下 忠 幸	HB	安 沢 裕 之	FW	玉 手 弘 章
HB	本 宿 冬 郎	FB	目 形 康	HB	佐 藤 隆 造
FW	丹 治 一 功	FB	熊 木 卓 也	HB	内 田 茂 三
FB	小須田 雅 俊	HB	戸 田 和 彦	引越等で 退 会	小 林 透 林 史 朗 岡 本 哲 知 渋谷 一 智 白 石
	行 司 秀 俊	FB	西 尾 健		
		HB	渡 井 哲 人		
		GK	落 合 尚 人		
		HB	松 原 茂 徳		

12期A 55年度		11期B 54年度		11期A 54年度	
ポジション	氏 名	ポジション	氏 名	ポジション	氏 名
CH	瓜 田 直 樹	HB	高 橋 利 明	FW	大 場 賢 治
CB	山 田 光 裕	HB	金 田 健 一	FW	増 山 高 弘
RW	大 滝 友 男	HB	西 村 繁	HB	永 田 俊 策
ST	石 井 洋 平	FB	藤 本 和 敏	HB	岡 本 純 享
RH	今 仲 浩 康	FW	宮 本 圭 介	FB	藤 純 司
LH	上 野 貴 生	FW	金 子 博 樹	FB	高 崎 進 晴
CF	桑 山 法 久	引越等で 退 会	三 木 俊 二 秋 元 研 一	GK	山 口 光 晴
GK	佐 藤 靖 英			HB	末 山 靖
FB	青 木 元				

各 期 の メ ン バ ー

7 期 50年度		6 期 49年度		5 期 48年度	
ポジション	氏 名	ポジション	氏 名	ポジション	氏 名
HB	鈴 木 一 浩	FW	中 村 浩 人	HB	岩 崎 延 宏
FW・GK	大 森 享	FW	池 沢 正 彰	GK	久保寺 清
FW	瓜 田 和 彦	FW	吉 原 昌 利	FB	賀 川 正 規
FW	岩 城 一 夫	HB	三 井 英 一	FB	間 瀬 浩 之
FB	笠 松 吉 雄	HB	早 川 司	FB	吉 川 薫 夫
HB	大 森 亘	FB	岩 村 佳 広	FW	坂 本 俊 也
GK	田 辺 誉	HB	川 村 利 一	FB	小 林 守
FW	石 本 広 之	HB	砂 子 雅 史	FW	大 場 浩 正
HB	坂 村 武	FB	野 道 尚 行	FW	鈴 木 邦 彦
HB	山 中 ざ だ の り	FB	龍 野 智 久	HB	木 村 亮
	斎 藤 理 仁	FB	鈴 木 善 裕	HB	鈴 木 充 彦
	久保寺 一	HB	高 塚 直 樹		斎 藤 清 昭
	太 田 秀 一	HB	加 藤 弘 人	FW	竹 内 正 人
	村 井 進 稔		嶋 田 正 健	HB	阿久津 正 潤
	佐 藤 秀 之 明		北 村		田 中 潤 人
	荏 原 利 司			FW	石 井 正 人
	山 口 勇				
9期A 52年度		8期B 51年度		8期A 51年度	
ポジション	氏 名	ポジション	氏 名	ポジション	氏 名
HB	池 沢 潤	FW	落 合 佳 人	FW	黒 岩 典 正
FW	林 陽 介		高 橋 篤 男	GK	杉 山 信 次 郎
FW	早 川 裕 樹	FW	関 根 圭 介	FB・GK	佐 野 祐 一
FB	大 島 宏 樹	FB	藤 英 明	FB	友 藤 信 英
HB	木 下 牧 司	引越等で 退 会	池 上 努 豊 原 義 行 芹 田 弘 清 中 丸 一 也 鈴 木 学 昭 下 村 隆 弘	FW	滝 山 佳 男
HB	鳥 海 秀 之			FB	砂 子 泰 彦
GK	堀 江 浩 司			HB	木 下 圭
FW	三 木 健 滋			FB	田 辺 博 之
FB	村 上 浩 一			FW	安 沢 芳 生
FW	増 山 祐 一			FW	篠 原 力 司
				FW	堀 尾 哲 輝
				HB	舞 山 春

各 期 の メ ン バ ー

13期B 56年度		13期A 56年度		12期B 55年度	
ポジション	氏名	ポジション	氏名	ポジション	氏名
FW	塘 泰三	FW	鈴木 孝春	FW	馬 瀬智行
FB	岩 城俊彦	GK	渡 井 巧	FB	江 川 有一明
FB	森 部 達彦	FB	滝 野 文範	HB	大 武 一達也
FB	麩 谷 毅樹	FB	藤 裕 治純	FB	古 賀 原 要
HB	小笠原 直	HB	中 野 純	HB	篠 原 啓
HB	横 川 俊郎	FB	江 浜 克明	FB	南 雲 啓
HB	笹 谷 次郎	HB	江 安 田 知司	FW	前 島 健輝
FW	今 野 英一	HB	安 丸 山 智治	HB	牧 野 健人
GK	富 吉 龍 玄	HB	若 森 彰	HB	村 上 治洋
HB	阿 部 英智	FW		HB	山 崎 一稔
HB	今 井 泰介			FW	三 鎌 聡明
GK	高 倉 新吾			GK	引越退会
HB	池 田 吾茂				
FB	松 井 茂				

15期A 58年度		14期B 57年度		14期A 57年度	
ポジション	氏名	ポジション	氏名	ポジション	氏名
		HB	落 合 明人	HB	吉 村 幸大
		FW	桑 山 和也	FW	山 本 和 人
		FW	石 川 和 夫	HB	田 村 誠之
		GK・HB	山 田 功 一	GK	平 方 雅 敏
		FB	福 田 秀 一	FB	杏 本 哲 弘
		FB	柏 山 精 一	FB	松 川 合 康
		FB	村 山 大 輔	CB	中 林 明 彦
		HB	横 山 直 人	FW	谷 嶋 輝 樹
		FB・GK	馬 瀬 田 宏 一	HB	佐 世 真 一
		HB	藤 田 聡 裕	FW	谷 山 田 信
		HB	西ヶ谷 畑 部	FW	
		HB	田 渡 部	FB	
		引越等で退会	平 山 昌 和		
			長 塚 真 也		
			配 野 学 介		
			野 里 洋		



▲バザーを終えて笑顔の一同



▲大にぎわい 満員のバザー会場

記念行事委員会運営委員長

御協力件数 一三七 件

売上金 三一七、九一六円

売上金は、記念誌及び記念行事に使用させていただきました。

当日は、大へん天候にも恵まれ、模擬店も出て、盛大に行うことができました。多くの方々のご協力に心からお礼申しあげます。

私たちはキッカーズ創立十五周年記念行事委員会では、記念誌の発行その他の行事を計画し、その資金調達として、バザーを五月八日に開催いたしました。品物は、OB、現役の多くの方々にご寄贈いただきました。

創立十五周年記念行事資金調達バザー報告



▲お父さんも売り子さん



▼模擬店也大繁盛

94 ちらまつたがら
 89 はしるのがはやくな
 96 お
 86 お
 83 おかざきでいゆき
 87 じまけんいち女二人下も
 88 なすやがゆき
 82 69 おはらレウレ
 70 ましたけし
 72 たなでたがゆき
 85 フナニしん
 93 まつたや
 90 う
 91 し
 92 た
 93 か
 94 ま
 95 は
 96 じ

創立十五周年記念行事委員会名簿

実行委員長 大場六郎
 実行副委員長 谷嶋忠雄 山本美和子
 運営委員長 田辺和男
 運営委員 瓜田ナヲ子 鈴木容子 吉村和美 川合三三子
 中林敦子 柏瀬洋子 桑山綾子 河本花子 田中紀子
 樺沢歌恵 山室聖子 田辺かつみ 大場茂子
 田辺ユキ子
 計 山口慶子 鈴木寛子
 記念誌
 編集委員長 岩崎千恵
 編集委員 中村久子 岩城りえ子 墨羽利子 篠原純子 大島光子
 渡井凱子 本間雅子 永田由紀子 大滝房子 中野昌子
 落合和子 前島久仁子 查三千子 伊藤美紀
 配野八重子

(後記)

創立当初からの証人である、私の記録収集が不行届のため、佐野さん、大場さん他その時代々々の方々から新聞切抜き、写真等を拝借し、また、そのため岩崎さん等到大変お手数を掛けました。感謝します。
 関係者から御厚情あふれる言葉を貰いましたが、OB諸君の「後輩思い」にも感激しました。他にも依頼すれば二つ返事で原稿をくれそうなOBもあるでしょうが限られた誌面の都合もあり心残りです。記事内容に対し、訂正、補足すべき点等について御意見、御指摘を期待しています。

(曾田)

二月に編集委員会が発足して七ヶ月、やっと記念誌をお手もとにお届けすることができました。

ご多忙にもかかわらず、原稿をお寄せくださいました方々、貴重な写真や資料を提供してくださいました方々に、心からお礼申しあげます。

この記念誌も、これらの方々の暖かいご支援と、たちばなキッカーズを愛する、お父さん、お母さんの熱意によって発行することができました。多くの資料と、特筆すべきことがら、輝かしい戦勝の数々、あれもこれもとふくらんで、予定をはるかに越したページ数になってしまいました。十五年の重みを感じています。

「個性を生かしてのびのびとプレイする」創立当時の、曾田監督やコーチの信条を感じていただける様な記念誌にしたい。と考えて編集いたしました。人生のうち最も大切な少年期の一時期を、この様なすばらしいチームで過ごせる子ども達は幸せだと思います。そんな事を感じていただけたら幸いです。

(岩崎)

たちばなキッカーズ創立十五周年記念誌

発行 たちばなキッカーズ
 編集 創立十五周年記念行事委員会
 印刷所 十五周年記念誌編集委員会
 発行日 大手町企画協会
 昭和五十八年九月十八日